第六篇

第二章　山林田野

第一節　山野火入取締規則

明治廿九年三月廿八日　縣令第三二号

全　年十一月五日　警部長訓令保第三七五号ノ一　山野火入認可報告方

○縣令第三十二號　廿九年三月廿八日

明治二十四年（六月）岡山縣令第三十一號山野火入取締規則左ノ通改正ス

山野火入取締規則

第一條　山野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ火入期日十日前地元町村役場ヲ經テ所轄警察官署ヘ願出認可ヲ受クヘシ

一火入期日

一箇所限リ地目段別及字番號

一四至ノ境界ヲ見ルヘキ實地略圖

一防火線仕樣方法書

第二條　前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サントスル山野ノ官林又ハ山林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其官林ハ所轄小林區署若クハ保護區官舍ニ山林原野ハ所有者ニ少クモ火入期日五日前ニ報告スヘシ但國土保安林ナルトキハ尚所屬町村役場ヘ報告ヲ要ス

第三條　防火線ハ幅三間以上トシ都テ柴草ヲ苅採リ落葉幷ニ塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ塹溝等ノ設ケヲ爲スヘシ但道路谿谷等ニテ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條　日出前日沒後及風勢穩カナラサルトキハ火入ヲ爲スヘカラス

火入後風勢ノ變動ニ依テ他ヘ延燒ノ虞アルトキハ直ニ消止ムヘシ

第五條　火入ノ期日間ハ番人ヲ附シ火氣全ク消滅スルニ至ル迄其場所ヲ退カシムヘカラス

第六條　火入ノ認可ヲ受ケタルモノト雖トモ郡長警察官大小林區署員町村長等ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニ依リ他ヘ延燒ノ虞アリト思料スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第七條　火入期日ヲ變更シタルトキ又ハ第六條ニヨリ中止ヲ命セラレタル後更ニ火入ヲ爲サントスルトキハ其旨所轄警察官署又ハ受持巡査駐在所ニ屆出尚第二條ノ報告ヲ爲スヘシ

第八條　本則第一條第二條第三條第四條第五條第七條ニ違背シ及第六條ノ命令ニ從ハサル者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

○警部長訓令保第二七六五号ノ一　廿九年十一月五日　各署長宛

本年縣令第三十二號山野火入取締規則ニ依リ認可ヲ與ヘタルケ所自今別紙樣式ニ倣ヒ翌年一月廿日迄ニ報告セラルヘシ

明治　年中山野火入認可ケ所統計　何警察署

郡町村名	大字名	一已有山反別	人所有山反別	箇所數
、	、	共	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、

第六篇

第二章

第二節　國土保安林取締規則

明治廿九年四月七日　縣令第三五号　國土保安林取締規則

全年四月十五日　知事訓令乙第一〇号　全則取締規程

全年六月十七日　警第一二号　全則取扱內規

全年六月十九日　警部長達警第一一四三号　全則取扱方心得

全年十一月十三日　保第二六七号ノ一　國土保安林取締規則違犯者處分報告方

○縣令第三十五號　廿九年四月七日

國土保安林取締規則左ノ通相定ム

國土保安林取締規則

第一條　本則ハ民有山林ニ屬スル水源涵養、土砂扞止、風潮除等ノ國土保安林ニ適用ス

第二條　國土保安林ノ區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　國土保安林ニ於テハ木竹ノ皆伐、樹根、切芝ノ採取及ヒ開墾（燒畑切替畑モ包含ス）ヲ停止ス

第四條　國土保安林ニ於テハ左記ノ事項ニシテ保安上ニ害ナキモノト認ムルトキハ相當ノ制限ヲ

付シ又ハ保護ノ方法ヲ設ケシメ之ヲ許可スルコトアルヘシ

一間伐、擇伐、拔打及ヒ枯損木竹ノ伐採

二道路、電線、耕作物其他障碍木竹ノ伐採

三柴草及落葉ノ採取

四土石ノ採掘

五牛馬ノ放牧

第五條　前條ノ事項ハ字地番反別種目木種員數及ヒ期限方法等ヲ詳記シ地元町村役場ヲ經テ所轄郡役所ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條　國土保安林ニ於テ保安上ニ害ナキモノト認ムルトキハ繼植又ハ萌芽木保護等ノ方法ヲ設ケシメ特ニ輪伐ヲ許可スルコトアルヘシ其出願手續ハ前條ノ例ニ依ルヘシ

第七條　國土保安林ニ木竹ヲ栽植シ又ハ土砂扞止工事等ヲ爲サントスルトキハ字地番反別木種員數工事ノ設計等ヲ詳記シ第五條ノ手續ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第八條　國土保安林ニ對シ縣廳又ハ郡市町村ニ於テ土砂扞止其他保護ニ關スル事業ヲ施設スルトキハ所有者之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　國土保安林ニ於テ施設シタル土砂扞止其他保護ニ關スル事業ニ對シ妨害アル行爲ヲナストキハ所有者ニシテ制限ヲ超過シ若クハ保護ノ施設充分ナラストヘカラス

第十條　國土保安林ニ於テ許可ヲ得タル作業ニシテ制限ヲ超過シ若クハ保護ノ施設充分ナラストト認ムルトキハ當該官吏警察官吏ハ其作業ヲ停止シ且因テ生シタル傷害ハ之レカ復舊修理ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　國土保安林若クハ其附近ノ地ニ於テ焚火ヲ爲ス等危害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲナストキハ町村長ハ其所有者ニ之ヲ通達スヘシ

第十二條　國土保安林內ニハ伐木其他諸作業ノ許可若クハ命令ヲ受ケタル場合ノ外漫リニ鋸、斧、鎌、鉈、鐵ヲ携帶シテ立入ルコトヲ得ス

第十三條　本則第三條第五條第六條第七條第九條第十一條第十二條ニ違犯シ又ハ許可ヲ得タル作業ニシテ制限ヲ超ヘ若クハ保護ノ施設ヲ怠リタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○知事訓令乙第十號

廿九年四月十五日

郡役所
町村役場

國土保安林取締規則取扱規程左ノ通相定ム

國土保安林取締規則取扱規程

第一條　國土保安林ノ區域ヲ告示シタルトキハ町村長ハ其所有者ニ之ヲ通達スヘシ

第二條　國土保安林ニ編入若クハ解除ヲ要スル者ハ地元町村長ニ於テ公害ノ有無保護設計ノ當否ヲ調査シ意見ヲ付シ郡役所ニ進達シ郡長ハ審査ノ上之ヲ許否スヘシ

第三條　國土保安林取締規則ニ依リ諸作業ヲ願出タルトキハ地元町村長ニ於テ公害ノ有無保護設計ノ當否ヲ調査シ意見ヲ付シ郡役所ニ進達シ郡長ハ審査ノ上之ヲ許否スヘシ

第四條　間伐、擇伐、枝打ハ樹木ノ生長及ヒ公安ヲ傷害セサルモノニ限リ許可スヘシ

第五條　障碍木ハ其障害ヲ除去スヘキ程度ニ依リ根伐、枝打等實況ニ應シ之ヲ許可スヘシ

第六條　柴草ノ苅取、落葉ノ掻取ハ樹木ノ生長ヲ傷害セサルハ勿論土砂流出ノ虞ナシト認ムル地ニ限リ許可スヘシ

第七條　土石ノ採掘ハ公害豫防ノ方法ヲ設ケシメ之ヲ許可スヘシ但土砂扞止林ニ在テハ許可スルヲ得サルモノトス

第八條　牛馬ノ放牧ハ樹木ヲ傷害スルノ虞ナキ地ニ限リ土砂扞止林ノ外之ヲ許可スヘシ

第九條　輪伐ヲ許可セントスルトキハ毎區畫ノ伐採年次ヲ明記シタル圖面ヲ添付セシムヘシ但土砂扞止、頽雪止、風潮除ニ關スル地ハ許可スルヲ得サルモノトス

第十條　國土保安林ハ所屬町村ニ於テ適宜監守ノ方法ヲ定メ其境界ニハ漸次木石又ハ土塚ヲ設ケ若クハ異種ノ樹木ヲ栽植スル等成ルヘク判明ナラシムヘシ但峯、道路、河川等ノ境界アルモノハ此限ニアラス

第十一條　國土保安林取締規則ニ依リ作業ヲ停止シ又ハ復舊修理ヲ命シタルトキハ直ニ其處分ノ要領ヲ詳記シ縣廳幷ニ所轄警察官署ニ報告スヘシ

第十二條　郡長ニ於テ國土保安林ニ關スル諸願ヲ許可シタルトキハ別紙樣式ニ依リ報告表ヲ製シ所轄警察官署ニハ其都度縣廳ニハ一ケ月分取纏メ翌月五日限報告スヘシ

明治何年何月中國土保安林處分報告表

町村字大字地番	種類樹種	反別	區域	期限	許可月日	願人住所氏名
計						

右報告候也

年　月　日

何郡長

岡山縣知事宛

（警察署ヘ報告スルモノ之ニ準ス）

凡例

種類ノ欄ニハ間伐擇伐輪伐枝打又ハ柴草苅取、落葉ノ掻取其他總テ許可シタル種類ヲ掲クヘシ

員數ノ欄ニハ伐採其他許可シタル員數ヲ掲クヘシ

期限ノ欄ニハ林地内ニ於テ作業ノ入林期限ヲ掲クヘシ

區域ノ欄ヘハ作業ヲ許可セシ面積若クハ四至ノ境界等ヲ掲クヘシ

許可ノ事項ニシテ此樣式ニ據リ難キモノアルトキハ適宜別欄ヲ設ケ記載スヘシ

○知事訓令警第十二號　廿九年六月十七日

警察署
警察分署

國土保安林取締規則取扱內規左ノ通相定ム

國土保安林取締規則取扱內規

第一條　警察署又ハ分署ニハ國土保安林ノ臺帳ヲ備ヘ置變更アル毎ニ加除スヘシ

第二條　警察署長分署長ハ一ケ年一回以上警部巡査部長ハ四ケ月一回以上受持巡査ハ一ケ月一回以上國土保安林ヲ巡回スヘシ

第三條　國土保安林ヲ巡回スルトキハ左ノ事項ニ注意スルヲ要ス

一　國土保安林取締規則第三條ノ停止ヲ犯スモノ

一　國土保安林境界ノ標識ヲ毀損又ハ移轉スルモノ

一　同則第五條ノ手續ニ依リ許可ヲ得スシテ第四條第六條及第七條ノ事項ニ該ル所業ヲナシ又ハ許可ヲ得タルモノニシテ其制限ヲ超越シ又ハ保護ノ施設ヲ欠キタルモノ若クハ第九條ニ該ル妨害ノ行爲アルモノ

一　同則第十一條ニ該ル焚火ヲナシ又ハ近傍ノ山野ニ火入ヲナスモノ

一　同則第十二條ヲ犯シ鋸其他ノ器具ヲ携ヘ國土保安林ニ立入ルモノ

第四條　警察署長分署長ニ於テ所轄郡役所ヨリ國土保安林ニ属スル諸願許可ノ通知ヲ受ケタルトキハ受持巡査ヲシテ其場所ヲ巡回セシムルノ外尚ホ臨時署員ヲシテ其作業ノ制限及保護ノ施設ヲ監視セシムヘシ

第五條　國土保安林取締規則第十條ニ依リ其作業ヲ停止シタルトキハ直チニ所轄郡役所ニ報告スヘシ若シ復舊工事ヲ命スル場合ニ於テハ意見ヲ附シ其處分ヲ郡長ニ移スヘシ

第六條　警察署長分署長ハ國土保安林ニ關スル作業ノ許否又ハ保護上ニ付意見アルトキハ郡長ニ協議シ若クハ知事ニ申具スルコトヲ得

○警部長達警第一一四三号　廿九年六月十九日

（各署長宛）

今般國土保安林取締規則内規被相定候ニ付取扱方左ノ通リ心得ラルヘシ

一　内規第二條中警部巡査部長云々トアルハ次席警部アル警察署ハ巡査部長ト両名ニテ四ケ月ニ一回以上巡回スヘキ趣旨トス

巡査ハ一ケ月一回以上保安林ノ巡回ヲ要スレハ隨テ普通ノ警邏ニ影響スヘキニ依リ認可ヲ經テ勤務法ヲ改正スルヲ得ヘシト雖モ保安林遠隔ナラス又ハ警邏線路ニ接近ノ場所等在リテ數多ノ時間ヲ要セサルモノ、如キハ可成警邏ノ序ヲ以テ巡回シ普通警邏ノ度數ヲ減セサルヲ良トス

一　保安林ノ巡回ハ固ヨリ注意ノ周到ヲ要スル勿論ナリト雖モ概ヲ廣漠タル山林内ヲ緻密ニ巡視スルノ必要少カルヘシ其山林ニ出入スル主要ノ道路谿谷等ヲ視察スレハ大凡該山林内ノ一班ヲ窺知ヲルヽモノトス故ニ巡査ノ警邏法ヲ調査スルニハ宜シク其邊ノ注意アルヘシ

一　目下巡査ヲ增員スルノ餘地ハ之レナシト雖モ前各項ノ方針ニ依リ巡回線路ヲ定メ保安林ノ取締ヲ爲スニ尚ホ爲メニ普通警邏ノ度數ヲ減シ或ハ他ノ勤務ヲ廢セサルヲ得サル事情アリテ到底現在ノ人員ヲ以テ取締ヲ爲ス能ハサル事情アルモノハ幾人ノ巡査ヲ增員セハ可ナラン乎參考ノ爲詳細ノ調査ヲ遂ケ意見具申アルヘシ

○警部長訓令保第二八三七號ノ一　廿九年十一月十三日

（各署長宛）

本年（四月）縣令第三拾五號國土保安林取締規則違犯者ヲ處分シタルトキハ翌月三日迄ニ其言渡書謄本ヲ以テ報告セヲルヘシ

但シ本則發布以來違犯者ヲ處分シタルモノ有之候ハヽ、去ル十月末日迄ノ分總テ言渡書謄本至急

回送セヲルヘシ

第六篇　第二章　山林田野

第六篇　第二章

第三節　田圃害虫驅除豫防法施行規則

明治廿九年七月廿一日　縣令第四九号
仝　年七月廿二日　知事訓令乙第三四号

○縣令第四拾九號　廿九年七月二十一日

害蟲驅除豫防法施行規則左ノ通相定ム

害蟲驅除豫防法施行規則

第一條　明治二十九年(三月)法律第十七號害蟲驅除豫防法ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ハ左ノ種類トス

螟蟲　苞蟲　浮塵子　蚕蛆
金龜子　蚜蟲　蛸　蠐螬

第二條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ作人ハ直ニ驅除豫防ニ着手シ市町村長ニ届出町村長ハ郡長ニ郡市長ハ左ノ事項ヲ詳記シ之ヲ縣知事ニ急報スヘシ

一　害蟲ノ種類
二　被害地郡市町村字并ニ驅除豫防施行スヘキ區域及期限
三　被害農作物ノ種類及被害見積反別

第三條　害蟲驅除豫防法第三條ニ依リ驅除豫防ノ施行ヲ命令シタルトキハ郡長ハ町村長ニ市町村長ハ該田畑作人ニ傳達シ指揮監督シテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ郡長ハ町村長ヲシテ町村費ヲ以テ之ヲ行ハシメ市長ハ市費ヲ以テ之ヲ行ヒ其費用ハ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ作人ヨリ徴収スヘシ

第四條　本則第一條ニ於テ指定シタル以外ノ害蟲發生シ若クハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ本則第二條ノ事項ヲ具シ縣知事ニ急報シ指揮ヲ受クヘシ

第五條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ前條ノ手續ニ依リ縣知事ニ急報スヘシ

第六條　害蟲發生シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ市町村長ハ隣接市町村ニ急報スヘシ

第七條　害蟲驅除豫防法第五條ニ依リ夫役賦課ノ必要アリト認ムルトキハ賦課ノ區域及準率ヲ定メ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ縣知事ニ具申スヘシ

第八條　害蟲驅除豫防施行期間日々ノ景況ハ町村長ヨリ郡長ヘ郡市長ヨリ縣知事ヘ報告スヘシ

第九條　害蟲發生シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ主務官吏又ハ警察官吏ヲシテ驅除豫防ニ關シ指揮監督セシムルコトアルヘシ

第十條　毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ町村長ハ翌年四月十日限リ郡長ニ郡市長ハ同月十五日限リ縣知事ニ報告スヘシ

市町村名	被害大字ノ數	全上植物ノ種類	全上見積反別	平年收獲高	被害ノ爲減收高	驅除豫防ニ係ル市町村費	全上夫役ノ數	全上地方稅補助費
計								

○知事訓令乙第三拾四號　廿九年七月廿二日

郡市役所
町村役場

害蟲驅除豫防方法左ノ通相定ム

害蟲驅除豫防方法

鱗翅部

一　螟蟲（すいむし、しんむし）　稻、粟、黍、藍、（主ナル被害植物以下同シ）

一　日暮後畑及苗代ノ傍ニ點火シテ蛾ヲ誘殺スヘシ

二　卵ヲ搜索驅殺スヘシ

三　蔈洞又ハ枯黄セシ莖幹ハ幼虫蝕害ノ兆ナルカ故之ヲ拔取リ燒殺若クハ蒸殺スヘシ

四　被害ノ殘株ハ幼虫蟄伏セルヲ以テ之ヲ堀取リ石灰及廐肥ヲ混シ堆肥トナスヘシ

五　畦畔ノ雜草ヲ刈リ取リ石灰及廐肥ヲ混シ堆肥トシ冬期ハ畦畔ノ雜草ヲ燒クヘシ

一苞蟲つとむし　稻
一　手網ヲ以テ蝶(はなせゝり)ヲ捕獲燒殺スヘシ
二　幼虫及苞(巢繭)中ノ蛹ハ指頭ニテ壓殺スヘシ
一螟蛉　あをむし　菜類、萊菔類、甘藷、
一　手網ヲ以テ蝶ヲ捕獲燒殺スヘシ
二　幼虫及蛹ヲ捕殺スヘシ
三　生石灰ト硫黃ヲ混和シタル煎汁若クハ煙草莖馬酔木等ノ煎汁ヲ灌クヘシ
一地蠶　よとうむし　麥、粟、荅、豆類、菜類、萊菔類、瓜類
一　蝙蛾ヲ捕殺スヘシ
二　幼蟲ノ時ハ畑ノ周圍ニ溝ヲ堀リ陷落セシメテ壓殺スヘシ
三　早朝又ハ夜中ニ捕殺スベシ
四　生石灰、硫黃、煤等ヲ根際及葉上ニ撒布スヘシ
一蛞蝓　けむし　茶樹、桑樹
一　日暮後點火シテ蛾ヲ誘殺スヘシ
二　幼蟲ノ時鋏ヲ以テ剪殺スヘシ
三　生石灰ト硫黃ヲ混和シ其煎汁ヲ灌クヘシ
四　煙草莖、馬酔木等ノ煎汁ヲ灌クヘシ
五　石炭油ヲ太キ筆ニ浸シ蟲体ニ抹スヘシ
六　枝葉ニ群集スルトキハ剪採シテ燒殺若クハ蒸殺スヘシ
一蛸　たばこのむし　煙草

一　幼蟲及蛹蛾ヲ捕殺スヘシ
二　楝ノ新芽ヲ陰乾粉碎シタルモノ若クハ米糠ヲ葉面ニ撒布スヘシ
三　蟾蜍ヲ放飼スルモ可ナリ

半翅部

一浮塵子　うんかむし　稻
一　魚油若クハ石炭油ヲ注キ竹竿又ハ手ニテ稻株ヲ動搖シ拂ヒ落スヘシ
二　日暮後點火シテ之ヲ誘殺スヘシ
三　畦畔ノ雜草ヲ刈取リ石灰及廐肥ト混シ堆肥トナスヘシ
四　多期ハ畦畔ノ雜草ヲ燒クヘシ
一蚤虱　いねのばった　稻、蘭草
一　稻苗代ノ時ハ滿水シ麥稈ヲ小切撒布シテ之ニ登ラシメ捕殺スベシ
二　細目ノ手網ニテ朝暮又ハ雨後ニ於テ捕殺スヘシ

甲翅部

一金龜子　こがねむし　菜類、萊菔類
一　朝暮又ハ雨後ニ於テ捕殺スヘシ
二　馬酔木ノ煎汁ヲ灌クヘシ
一蠐螬　うりばい　瓜類
一　早朝露ヲ帶ヘルトキ木炭又ハ米糠ヲ葉上ニ撒布スヘシ
二　細目ノ手網又ハ竿ニ眞綿ヲ結ヒ付ケ捕殺スヘシ

一蚜虫　あぶらむし　藍、菜類、菜蔬類、
一　苦楝苦參馬酔木、煙草莖ノ煎汁、藾灰ノ滤液、食鹽水、石灰水等ヲ撒布スヘシ
二　藾灰、石灰、煤等ヲ散布スヘシ

第六篇

第三章　土砂取締

河川ニ關スル土砂取締規則

明治廿五年十一月廿二日	縣令第六四号	土砂取締規則違犯者處分ノ節郡市役所へ通知方
仝　廿六年二月二十一日	警部長達警訓第三九号	土砂扞止取締ノ件
仝　年十二月七日	仝保第二二八八号	土砂扞止場巡視人巡回表ノ件
仝　廿九年七月二十日	仝保第二〇九八号	砂防工事場ノ土石ヲ堀取ル者處分方
仝　廿三年二月二日	眞金署長伺	

○本縣令第六十四号　廿五年十一月廿二日

河川ニ關スル土砂取締規則左ノ通創定ス

第一條　風雨洪水其他ノ災害ニ因リ溜池溝渠田畑宅地等ニ崩潰流出セシ土砂取除ノ爲メ又ハ道路修築溜池溝渠ノ堀鑿若クハ山野ノ開墾田畑宅地ノ地下ケ等ヲ爲スニ當リ猥リニ其土砂ヲ河川ノ附洲堤塘其他河川ニ流出又ハ墮落スヘキ虞アル場所ニ投棄若クハ積置クコトヲ得ス

第二條　河川ニ土砂ヲ流出若クハ墮落スヘキ虞アル場所ニ於テ猥リニ土砂岩石又ハ樹根ヲ採堀スルコトヲ得ス

第三條　第一條ノ場合ニ於テ土砂ヲ取除クヘキ相當ノ場所ナキトキ又ハ第二條ノ場合ニ於テ已ム

ヲ得ス土砂等ヲ採掘セントスルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ但成ルヘク土砂留ノ方法ヲ設ケ其設計書ニ圖面ヲ添ヘ差出スヘシ

第四條　此規則ニ違背シタル者ハ其事業ノ公共ニ屬スルト否トニ拘ハラス本縣違警罪目第三條第三ニ依リ處斷シ且相當ノ期限ヲ定メ其土砂ヲ取除カシメ若クハ土砂留ヲ設ケシムヘシ若シ之ニ從ハサルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ辨償セシムヘシ

○警部長達警訓第三九号　廿六年二月廿一日

各　署　長

明治二十五年一月本縣令第六十四号土砂取締規則違犯者ヲ處分シタル場合ハ刑ノ確定後速ニ（若シ正式裁判ヲ請求シタルトキハ其旨付記シ）所轄郡市役所ヘ通報セラルヘシ

但規則第四條後半土砂取除方ノ處分ハ警察官署ニ於テ爲スヘキ限リニアラス

○警部長達保第二二八號　廿六年十二月七日　（各署長宛）

客年縣令第六十四號土砂取締規則第三條ニ依リ土砂採掘又ハ溜置等出願之節ハ許可御指令ニ特ニ但書ヲ加ヘ着手前所轄警察署ヘ屆出ヘシトノ例文ハ土砂扞止ノ實行ヲ期スル精神ニ外ナラサル義ニ候處各署往々其責ヲ緩慢ニ措クノ嫌有之候條今後ハ屆出ニ依リ土砂扞止ノ營業適否ヲ視査シ其營築ニシテ扞止ノ功用十分ナラスト認ムル場合ニ於テハ願人ニ改築ヲ懇諭シ仍ホ應セサルトキハ直ニ本官ニ申報セラルヘシ

○警部長達保第二〇九八號　廿九年七月二十日　（各警察署分署長宛）

今回内務部ニ於テ土砂扞止場巡視人心得書制定相成巡視人ハ常ニ其受持管區ヲ巡回シ土砂扞止場其他ヲ視察シ巡回ノ証明ニ供スル爲メ巡回表ニ捺印スルノ規定ニ有之候就テハ其巡回表ヲ受持巡査駐在所（居住所）ニ備ヘ置キ巡視人捺印滿了スレハ巡査駐在所（居住所）ハ所屬警察署分署ニ送付シ警察署分署ハ之ヲ取纏メ便宜内務部第二課ヘ回付セラルヘシ

但巡回表ニハ其欄外ニ受持巡査駐在所（居住所）名ヲ記シ捺印スルヲ要ス

○眞金警察署長ヨリ警部長ヘ伺　廿三年二月二日

第一

茲ニ自分所有山林アル處縣廳又ハ郡若クハ村内ノ協議ニ於テ砂防工事ヲ設計シ若干年期間自他ノ別ナク苟クモ侵入スルヿヲ禁シタル處其所有主ニ於テ其禁ヲ犯シ砂防域内ニ係ハル樹木又ハ其枝梢ヲ伐取ル場合ハ仮令伐木ヲ禁シタルモ其樹木ハ所有山林ニ生育シタル者ナレハ窃取シタリトモ論スヘカラス然ラハ本縣違警罪目第三條第九項道路堤防又ハ砂止ノ土石芝草等ヲ堀取ル者トアル項ヲ以テ處分センカ此砂止ノ土石芝草トアルハ砂防工事ノ原料トシテ使用シタルモノヲ的指シタルモノニシテ其域内ノ樹木又ハ枝梢ヲ伐リタリトシ此項ニ依リ處分スルハ不穩當ナランカ況ンヤ其項文末ニ堀取ルモノト明記シアルニ於テヲヤ然レモ之レヲ不問ニ措ンカ砂防工事ノ効益ヲ奏セン爲メ侵入ノ禁止ヲナシタル場所ニ如何ニ所有主ナレハトテ濫リニ伐採スルヰハ幾多工費ヲ入レシ工事モ頽壞スルニ至リ其禁止ノ尊嚴モ相立タス取締上困難ノ義ニ有之トモ未タ他ニ其正條ヲモ見出ス能ハス如何處分シ可然ヤ

第二

若シ共有山林ニシテ所有權アルモノカ他ノ承諾ヲ不得一已ノ考ヘヨリ前記條ノ如キ場所ニ於テ伐

木セシキハ窃盗罪ヲ以テ論スルモノナルヤ右ハ差掛リタル義ニ付折返シ何分ノ御指令相成度此段相伺候也

（指令）　廿三年二月四日

諭訓之件ハ左ノ通心得ヲルヘシ

第一　或ル年期間其ノ場所ニ侵入セザルコトヲ確約シタル場合ハ行政警察權ヲ以テ侵入ヲ制止シ得ルモ其ノ損害ノ點ハ民事上ノ制裁ニ止マル者トス

第二　意見ノ通リ

明治廿三年二月四日

第六篇　第四章　標識

水量標設置ニ付妨碍ヲヲスヘカラズ　縣令第六五号

陸地測量標注意方　警部長達保第二七六号ノ一

陸地測量標及敷地保管方　知事訓令乙第三三号

明治廿九年十二月五日

○岡山縣令第六拾五號　二十九年十二月五日

河川海瀕等ニ土木監督署及ヒ當廳ニ於テ建設シタル量水標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其周圍拾間以内ノ場所ニ於テ漁業其他量水ノ妨碍トナルヘキ所業ヲ爲スヘカラス犯スモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但明治二十六年（六月）岡山縣令第四拾壹號ヲ廢止ス

○警部長達保第二七六號ノ一　廿八年八月廿六日

本年八月陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條第二項ニ據リ測量諸標及仝敷地保管方訓令乙第三十三號ヲ以テ所在市町村長ニ於テ監守スヘキ樣相定メラレ候得共警察署分署又ハ受

警察署
警察分署

持巡査ニ於テモ居常注意ヲナシ破損其他異狀ヲ知得シタルトキハ速ニ該市村長ニ通知シ其通知ノ事項幷ニ仝則第三十一條ヲ適用スル犯人告發ノ手續ヲナシタル節ハ一面警察部ヘモ報告スヘシ

○知事訓令乙第三十三號　廿八年八月廿三日

郡市役所
町村役場

明治二十八年(八月)陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條二項ニ據リ測量諸標及同敷地保管ノ方法左ノ通相定ム

第一項測量諸標及同敷地ハ其所在市町村長ニ於テ監守スヘシ

但陸地測量部ヨリ測量諸標建設及移轉若クハ撤去ノ通知ヲ受ケタルトキハ其都度當廳ヨリ之ヲ市町村役場(町村ヘハ所轄郡役所ヲ經由シ)ニ示達スヘシ

第二項市村町長ハ毎月測量諸標ヲ取調亡失毀損其他異狀アルトキハ種類等級番號所在地等ヲ詳悉シ且事由ヲ具シ其都度當廳(町村ハ所轄郡役所ヲ經由シ)ヘ屆出ヘシ

第三項測量諸標敷地所在ノ町村名其他ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ前項ニ準シ屆出ヘシ

第六篇

第五章　船舶

明治廿五年四月廿九日	知事達廳第一三號	船燈檢查ハ警察部ノ主管トス
仝　廿九年七月廿三日	仝警第一六號	船燈信号器及救命具監查心得
仝　廿六年十月廿三日	警部長達保第一五三号ノ二	船舶ノ沈沒航行ニ妨害ヲ與フル位置通報方
仝　十九年六月廿五日	仝警第三八號	警察署所屬ノ船車增減報告方
仝　廿九年十二月廿四日	縣令第六七號	渡航及通船業取締規則
(參照)仝　廿八年四月廿七日	遞信省令第四號	船燈信号器及救命具取締規則
仝　日	遞信省訓令第一號	船燈信号器及救命具試驗々定及監查手續
仝　年十二月廿五日	仝省管船局長照會管局第五五九〇號	商船ハ丸字ヲ付スヘキ件

○知事達廳第十三號　廿五年四月廿九日

內務部
警察部

船燈檢查ノ義ハ是迄内務部第二課農商掛ニ於テ取扱來候處自今警察部ノ主管ニ屬ス

○知事訓令警第十六號　廿九年七月二十三日
岡山水上警察署　全牛窓分署

船燈信號器及救命具監查心得左ノ通相定ム

船燈信號器及救命具監查心得

第一條　岡山水上警察署及同牛窓分署ニ於テハ船燈信號器及救命具取締規則幷船燈信號器及救命具試驗檢定及監查手續ニ依リ船燈信号器及救命具ノ檢定監查ヲ行フヘシ

第二條　船燈信號器及救命具ノ檢定申請ヲ受ケタルトキハ規則（船燈信號器及救命具取締規則ヲ云フ以下之ニ倣フ）第十一條及手續（船燈信號器及救命具試驗檢定及監查手續ヲ云フ以下之ニ倣フ）第八條ニ據リ檢定シ合格ト認ムルトキハ左記雛形ノ檢印ヲ附スヘシ

規則第二十五條及手續第十三條ノ監查ニ就テモ亦同シ

縱八分
橫二分

極印　肉印　紙札共

岡山縣

輪廓ナシ

第三條　前條檢定ノ外規則第十六條及手續第十二條ニ依リ少クモ一年一回以上臨時監查ヲ行ヒ著手及終了ノ期日ハ其時々警部長ニ報告スヘシ

第四條　第二條及第三條ノ檢定幷監查ハ署長之ヲ行フヘシ但止ムヲ得サル場合ハ代理者ヲシテ擔行セシムルコトヲ得

第五條　水上警察本分署ハ手續第十條及第十五條ノ報告書式ニ準シ簿冊ヲ設備シ檢定監查ノ時々之ニ記入シ置キ毎年十二月末日迄ノ分ヲ製表シ翌年一月廿日限警察部ヘ報告スヘシ

第六條　規則違犯者ヲ處分シタルトキハ其時々警察部ニ報告スヘシ

○警部長達保第五三號ノ二　廿六年十月廿三日
（各署長宛）

船舶ノ沈沒航行ニ妨害ヲ與フル位置通報之義ニ付長崎縣警部長ヨリ別紙之通協議有之候ニ付同意之旨回報致置候條自今右之場合ハ速ニ當部ヘ急報セラルヘシ

保第三四三號

海面航路ニ於テ衝突若クハ難破等ノ爲メ船舶ノ沈沒航行ニ妨害ヲ與フル場合アルニ當リ之ニ一定ノ標識ヲ掲クルノ規定ナキハ航路ノ安全ヲ保護スル上ニ於テ一大欠典ト云ハサルヘカラス故ニ此等ノ場合ニ於テハ速ニ其妨害アルヿヲ一般航業者ニ周知セシムルハ危害豫防上最モ必要ノ事ニシテ警察上當サニ盡スヘキ職分ト思考致候間ヨリ事ノ大ナルモノハ海軍省ニ於テ官報紙上告示セハルヽト雖モ其頒布ハ早クモ數日ノ後ニシテ且ツ日本形船乘員ノ如キハ是レニ因リテ其周知ヲ期スルハ殆ト望ムヘカラザル義ト被存候因テ將來各自管下海面航路ニ於テ右等沈沒船アリテ苟モ航路ニ妨害ヲ與フルト見認ムル場合ハ事ノ大小ヲ問ハス速ニ左ノ事項ヲ相互電報シ其妨害ヲ除却ノ時其旨郵報候樣致度此段及御協議候也

明治廿六年十月十九日

岡山縣警部長竹内壽貞殿

一妨害物ノ位置

一標識ノ掲否若シ掲ケアレハ其種類形狀等

長崎縣警部長入佐清靜

追テ熊本、鹿島、佐賀、福岡、山口、大坂、兵庫、神奈川各縣ハ協議濟ニ付此段申添候也

○知事達警第三十八號　十九年六月廿五日

警察本署　警察署

其署所有ノ船西洋形船ハ噸數日本形船五十石以上車馬車人力車二人乘仝一人乘牛車荷積ハ明治六年太政官第九十三號達ニ準シ其時々增減共縣廳ヨリ大藏省ヘ可屆出筈ニ付自今增減アル都度屆書ヲ製シ收稅課ヘ送付スヘシ

但本年六月一日以後增減共來ル三十日限送付スヘシ

○縣令第六拾七號　明治二十九年十二月廿四日

渡航及通船業取締規則

第一條　渡航業トハ海上ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ運送スルノ業ヲ云ヒ通船業トハ渡津業ヲ除ク外河川ニ於テ諸種ノ川船ヲ以テ旅客ヲ運送スルノ業ヲ云フ

第二條　川船ニ旅客ヲ乘載シ海上ヲ渡航スヘカラス

第三條　乘客ノ定員ハ客席一坪ニ付十人ノ割合ヲ超過スヘカラス但シ十二歲以下ノ者ハ二人ヲ一人ニ算シ五歲以下ノ幼兒ハ定員外トス

第四條　渡航船又ハ通船ニハ渡航通船ニ熟練シタル成年以上ノ船頭一名及十六年以上ノ水夫一名以上乘組マシムヘシ

第五條　渡航船ニハ夜間成規ノ點燈ヲ怠ルヘカラス

第六條　風雨出水其他危險ノ虞アル場合ハ出船スヘカラス

第七條　警察官吏ハ臨時船內又ハ船體船具ヲ檢査シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ客席ヲ制限シ又ハ出船ヲ停止シ或ハ船體船具ノ修繕ヲ命シ若クハ其使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第八條　左ニ列記スルモノハ乘載セシムヘカラス

一傳染病患者

一保護人ナキ瘋癲人

一亂醉者

第九條　船內ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第十條　渡航又ハ通船業者ハ乘客ニ對シ不當ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第十一條　乘客ヲ勸誘スル爲メ客引ヲ出シ又ハ僞言ヲ構ヘ若クハ乘船約束後正當ノ事由ナクシテ出船ヲ遲延シ又ハ運航中故ナク停船シ或ハ乘客ノ承諾ヲ得スシテ定約外ノ地ニ上陸セシムヘカラス

第十二條　運航中災害ニ罹リ若クハ乘客ニ異狀アリタルトキハ船頭ヨリ速ニ最寄警察官署又ハ巡査派出所巡査駐在所ヘ其顚末ヲ屆出ヘシ

第十三條　第二條第三條第四條第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條ニ違犯シタル者及第七條ノ命令ニ從ハサル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○遞信省令第四號　明治二十八年四月二十七日

船燈信號器及救命具取締規則左ノ通之ヲ定ム

船燈信號器及救命具取締規則

第一條　本則ニ於テ船燈ト稱スルハ海上衝突豫防法ニ記載スル各種ノ船燈、信號器ト稱スルハ同法ニ記載スル信號器中機械製霧中號角、空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭、紅光焰管、又ハ船用焰管及救命焰、救命具ト稱スルハ船用救命浮環及救命浮帶ヲ謂フ

第二條　船燈信號器及救命具ヲ製造シ又ハ同上外國製品ヲ販賣セントスル者ハ遞信省ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　第二條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ標本及仕樣書ヲ添ヘ管轄地方官廳（東京府下ハ警視廳以下同シ）ヲ經由シテ遞信省ニ差出スヘシ

第四條　第三條ノ標本ハ船燈及機械製霧中號角ハ各種類毎ニ一箇以上空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭、紅光焰管、竝ニ焰管ハ六箇以上救命焰、救命浮環及救命浮帶ハ各種類毎ニ二箇以上ヲ差出スヘシ

第五條　第三條ノ使用書ニハ使用材料ノ品質、尺度、構造方法ヲ詳細ニ記載スヘシ

第六條　第二條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ船燈、信號器及救命具ノ各種類ニ付免許手數料二圓ヲ納ムヘシ

免許手數料ハ免許ヲ與ヘサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第七條　遞信省ニ於テ第三條ノ標本ヲ試驗シ合格ト認ムルトキハ其標本及仕樣書ニ檢印ヲ附シテ之ヲ還付シ第一號若クハ第二號書式ノ免許證ヲ竝ニ試驗成績書ヲ出願人ニ交付スヘシ不合格ト認ムルトキハ其理由ヲ明示シ標本ヲ出願人ニ還付スヘシ

第八條　船燈、信號器及救命具ノ標本ヲ運搬シ又ハ試驗ニ要スル一切ノ費用ハ免許申請人之ヲ負擔スヘシ

第九條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品免許販賣人ハ遞信省ニ於テ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命具標本ヲ原器トナシ其仕樣書及試驗成績書ト共ニ其製造所又ハ販賣所ニ備置クヘシ

前項ノ原器ヲ亡失若クハ毀損シ又ハ改良品ヲ以テ從來ノ原器ニ代ヘントスルトキハ第三條ニ準シ更ニ其檢定ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ第六條ニ記載スル免許手數料ノ半額ヲ納ムヘシ

第十條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人ハ其製造品ニ氏名及製造年月日ヲ同上外國製品ノ免許販賣人ハ其賣品ニ其氏名ヲ彫刻又ハ貼附スヘシ

第十一條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人ハ船舶司檢所所在地（船舶司檢所所在地トハ東京市大阪市長崎市及函館區ヲ謂フ）ニ在テハ船舶司檢所ニ船舶司檢所アラサル地方ニ在テハ管轄地方官廳若クハ其指定スル官衙ニ其製造品若クハ販賣品ノ檢定ヲ申請スヘシ船舶司檢所又ハ地方官廳ハ第九條ノ原器ニ照シ製造品又ハ販賣品ヲ檢査シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附スヘシ

第十二條　合格ノ船燈信號器及救命具ヲ請賣セントスル者ハ管轄地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ屆出ツヘシ

第十三條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人同上外國製品ノ免許販賣人及同上內外製造品請賣人ハ其製造所又ハ販賣所ニ看板ヲ揭クヘシ

第十四條　船燈、信號器及救命具ヲ船舶ト共ニ外國人ヨリ購入シ若クハ自己ノ船舶ニ備附クルノ目的ヲ以テ船燈、信號器及救命具ノミヲ外國人ヨリ購入シタルトキハ船舶司檢所ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ

第十五條　法律命令ニ依リ船燈、信號器及救命具ヲ船舶ニ備附クヘキ者ハ第十一條ニ依リ檢印ヲ附シタルモノヲ使用スヘシ

第十六條　船舶司檢所ハ其所在地ノ船燈、信號器及救命具ノ製造所、販賣所及碇泊船ニ一箇年少ナクモ一回以上臨時監査官吏ヲ派出シ船燈、信號器及救命具ヲ監査セシムヘシ

地方官廳ハ其管轄地（船舶司檢所所在地ヲ除ク）ノ船燈、信號器及救命具ノ製造所、販賣所及碇泊船ニ一箇年少ナクモ一回以上臨時監査官吏ヲ派出シ船燈、信號器及救命具ヲ監査セシムヘシ

第十七條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人ハ製造品又ハ販賣品ノ種類、大小、品質ヲ區別シ左ノ事項ヲ記載シ一箇年分ヲ翌年二月十五日限リ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ヘ差出スヘシ

一　製造高
二　販賣高
三　卸賣及小賣一箇又ハ一組ノ代價
四　前年度繰越高

第十八條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人第三條ノ願書ニ記載スル住所、製造所又ハ販賣所ヲ移轉シタルトキハ二十日以内ニ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ヘ屆出ツヘシ

第十九條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人其氏名、貫屬ヲ變更シ若クハ免許證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ免許證書ノ書替若クハ再授ヲ遞信省ニ申請スヘシ

免許證書ノ書替又ハ再授ヲ申請スルトキハ手數料トシテ一圓ヲ納ムヘシ

第二十條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人廢業若クハ死亡シタルトキハ本人又ハ其遺族ヨリ四十日以内ニ地方官廳ヲ經由シテ免許證書ヲ遞信省ニ返納スヘシ

第二十一條　船燈、信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人其氏名住所ヲ變更シ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ其本人又ハ遺族ヨリ四十日以内ニ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ屆出ツヘシ

第二十二條　第二條第九條第十一條第十四條第十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條第十二條第十三條第十七條乃至第二十一條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第二十四條　本則ハ明治二十八年十月一日ヨリ施行ス

從來既ニ免許ヲ得タル船燈信號器製造人ハ本則施行以前ト雖モ準備ノ爲メ第三條及第七條ニ依リ標本ノ檢定ヲ受ケ且第十一條ニ依リ其製品ニ檢印ヲ受クルヿトヲ得

第二十五條　從來船舶ニ備附ケ使用スル船燈信號器及救命具ハ明治二十九年九月三十日迄ニ監査官吏ニ於テ監査ヲ行ヒ檢印ヲ附スヘシ但シ監査官吏ニ於テ既ニ檢印ヲ附シタル檣燈舷燈及信號器ハ此ノ限ニアラス

第二十六條　明治十九年（六月）遞信省令第十三號同年（七月）同省令第十九號同二十六年（三月）同省令第四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第一號書式

花紋輪廓（竪九寸　横一尺二寸）

第　號
（船燈、信號器、救命具）製造免許證書
廳府縣華士族平民
氏　名

割印

第二號書式

花紋輪廓（竪九寸　横一尺二寸）

第　號
（外國製船燈信號器救命具）販賣免許證書
廳府縣華士族平民
氏　名

割印

右(何々)ノ標本ヲ試驗シ合格ト認ムルニ依リ明治二十八年四月二十七日遞信省令第四號船燈信號器及救命具取締規則第七條ニ依リ此ノ免許證書ヲ授與ス

明治　年　月　日

遞信省印

○遞信省訓令第一號　明治二十八年四月二十七日

船燈信號器及救命具試驗檢定及監査手續左ノ通之ヲ定メ本年當省令第四号實施ノ日ヨリ施行ス

船燈信號器及救命具ノ標本ヲ試驗檢定及監査手續

第一條　船燈、信號器及救命具ノ標本ヲ試驗スルトキハ先ツ其仕樣書ト照合シ若シ相違ノ廉アルトキハ製造若クハ販賣免許申請人ナシテ其標本ヲ改作セシメ若クハ仕樣書ヲ訂正セシムヘシ

第二條　船燈ノ材料ハ玻璃ト銅、眞鎗若クハ鐵ヲ用ヒ玻璃ハ寒氣ニ堪ヘ凍氷ノ爲メ龜裂セサル品質ヲ用ヒ其接合ノ部分ハ密著シテ毫モ間隙ナク堅牢ニ構造シタルモノヲ合格トナスヘシ但海上衝突豫防法第七條第九條ニ依リ小形船及漁船ニ於テ用フヘキ船燈ハ本條ニ記載スル金屬ヲ使用セサルモ堅牢ナリト認ムルトキハ合格トナスコトヲ得

第三條　船燈ノ空氣孔ハ上下共ニ不釣合ナク油壺ハ燈油ノ漏洩セサル樣堅牢ニ之ヲ製造シ點火口ノ抑ヘ金及注油口ノ栓ハ螺旋形ノ裝置ナルモノヲ合格トナスヘシ

右(何々)ノ標本ヲ試驗シ合格ト認ムルニ依リ明治二十八年四月二十七日遞信省令第四號船燈信號器及救命具取締規則第七條ニ依リ此ノ免許證書ヲ授與ス

明治　年　月　日

遞信省印

第四條　船燈ノ光達距離ハ海上衝突豫防法ニ規程スル距離ニ到達シ其射光方位ハ同法ニ規程スル方位ニ適合スルモノヲ合格トナスヘシ

船燈ノ光達距離測定器ヲ以テ之ヲ算定シ其射光方位ハ玻璃球ノ弧ニ對スル全圈ノ中心ヨリ玻璃球ノ弧ノ中央ニ至ル直線ト玻璃球ノ各端ヨリ點火口ノ兩端(若シ八字形ナルトキハ其後端)ヲ經テ引キタル二直線トノ交切點ヨリ玻璃球ノ各端ヘ引キタル直線間ノ弧度ヲ射光方位トス

第五條　機械製霧中號角、空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭、紅光焰管、焰管竝ニ救命焰ハ其用方及保存ノ適否ヲ調査シ且之ヲ吹鳴若クハ發火セシメ其成績各良好ナリト認ムルトキハ之ヲ合格トナスヘシ

第六條　救命浮環ハ二十四斤以上救命浮帶ハ十一斤二五以上ノ重量ヲ附著シテ之ヲ水中ニ投入シ二十四時間水面ニ浮游シ其構造良好ナリト認ルトキハ合格トナスヘシ

第七條　船燈、信號器及救命具ヲ試驗シタル主任官吏ハ其成績報告書ヲ作リ遞信大臣ニ差出スヘシ

第八條　船舶司檢所又ハ地方官廳ニ於テ船燈、信號器及救命具ノ免許製造人若クハ免許販賣人ヨリ其製造品若クハ販賣品ノ檢定申請ヲ受ケタルトキハ檢定官吏ヲシテ之ヲ査驗シ必要ト認ムルトキハ各種類毎ニ一二箇ヲ實地ニ試驗シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ不合格ノ點ヲ懇篤ニ指示シ之ヲ改良セシムヘシ

第九條　第八條ニ依リ檢印ヲ附スルトキハ船燈、機械製霧中號角及救命焰ニハ極印ヲ押捺シ空中

ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭、紅光熕管及焰管ニハ紙札ヲ貼附シ救命浮環及救命浮帶ニハ朱肉印又ハ黒肉印ヲ押捺スベシ

前項ノ極印、紙札及朱肉印又ハ黒肉印ニハ檢定官吏ノ官氏名ヲ記スヘシ

第十條　船舶司檢所又ハ地方官廳ニ於テハ第一號書式ニ依リ檢定報告書ヲ作リ前年十二月末日迄ノ分ヲ翌年二月十五日限リ遞信省ニ差出スヘシ

第十一條　船舶司檢所ニ於テ外國人ヨリ船舶ト共ニ購入シ又ハ外國人ヨリ購入シタル船燈、信號器、救命具ノ檢定申請ヲ受ケタルトキハ第二條乃至第六條ニ準シテ之ヲ查覈シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ但檢印ハ第九條ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　監查官吏船燈、信號器及救命具ノ製造所及販賣所竝ニ碇泊船舶ニ臨檢シ修繕ヲ要スヘキモノアルトキハ其修繕ヲ命シ汚損若クハ朽腐シテ實用ニ適セサルモノアルトキハ其檢印ヲ取消シ又ハ檢印ナキモノヲ使用スルモノアルトキハ犯則ノ處分ヲ爲スヘシ

第十三條　船燈、信號器及救命具取締規則施行以前ヨリ船舶ニ備附ケ使用スル船燈、信號器、救命具ハ第二條乃至第六條ニ準シテ之ヲ查覈シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十四條　監查官吏ハ船長若クハ運轉手ニ對シ船燈、信號器、救命具、隔板ノ裝置及其用方ヲ諮詢シ了知セサルモノアルトキハ懇篤ニ之ヲ敎示スヘシ

第十五條　船舶司檢所又ハ地方官廳ニ於テハ第二號若クハ第三號書式ニ據リ監查報告書ヲ作リ前年十二月末日迄ノ分ヲ翌年二月十五日限リ遞信省ニ差出スヘシ

第十六條　明治十四年八月二十五日農商務省商務局ニ於テ定メタル船燈製造方法及同二十年（三月）遞信省訓令第一號船燈信號器監查手續ハ本手續實施ノ日ヨリ廢止ス

第一號書式

船燈檢定報告

從明治　年　月
至明治　年　月

製造人
販賣人　氏名

種別		合計箇數	不合格數
檣燈	四十噸以上ノ汽船用	銅製眞鍮製一亞鉛製銅製眞鍮製一亞鉛製	
	四十噸未滿汽船用		
舷燈	四十噸以上ノ汽船及二十噸以上ノ帆船用		
	四十噸未滿汽船用		
兩色燈			
碇泊燈			
三色燈			
紅燈			
電信線布設及引揚用			

白燈						燈籠	
刺網漁船用	縱網漁船用	水先船用	船尾揭標用	操舵目標用		兩色	白色

信號器

種別	箇	製造人	氏名
合		販賣人	
格		不合	數

機械製霧中號角	
空中ニ高擧及星火ヲ發スル榴彈	
火箭	
紅光焰管	

種別	救命具	製造人	氏名
合		販賣人	
格		不合	數

焰管	
救命焰	
救命浮環	
救命浮帶	

右檢定之成績報告候也

明治　年　月　日

遞信大臣宛

北海道廳長官警視總監
府縣知事船舶司檢所長氏　名印

第二號書式

從明治　年　月
至明治　年　月　船燈信號器救命具製造所販賣所監查報告

種別	燈	製造人	氏名
		販賣人	
月日	適否	摘要	

檣燈	
四十噸未滿汽船用	四十噸以上ノ汽船用

航燈	四十噸以上ノ汽船及二十噸以上ノ帆船用	四十噸未滿汽船用	兩色燈	碇泊燈	三色燈	紅燈	白燈	電信線布設及引揚用	刺網漁船用	繰網漁船用	水先船用	船尾掲標用	操舵目標用	燈籠	兩色	白色	

信號器

種別	監査月日	適否	摘要	製造人販賣人	氏名
機械製霧中號角					
空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈					
火箭					
紅光焰管					
焰管					
救命焰					

救命具

種別	監査月日	適否	摘要	製造人販賣人	氏名
救命浮環					
救命浮帶					

右監査之成績報告候也

明治　年　月　日

北海道廳長官警視總監
府縣知事船舶司檢所長　氏　名　印

遞信大臣宛

第三號書式

從明治　年　月
至明治　年　月　船內備附船燈信號器救命具監查報告

監查月日	監查地名	船名	噸石數	本船管轄廳名	船主氏名	船燈及隔板	信號器	救命具	摘要
						適否	適否	適否	

右監查之成績報告候也

明治　年　月　日

北海道廳長官警視總監
府縣知事船舶司檢所長氏　名印

遞信大臣宛

遞信省管船
局長照會

管局第五五九〇號　廿八年十二月廿五日

從來商船ハ何々丸ト命名スルヲ常トシ自ラ軍艦ト區分ヲ爲スノ便宜有之候處近來商船ニ在テモ丸字ヲ付セサルモノ有之中ニハ軍艦ト同名ノモノヲ出シ斯クテハ今後軍艦商船ノ益々增加スルニ從ヒ種々ノ錯誤ヲ生スル恐レナシトセサルニ付今後貴縣ノ船籍ニ編入出願ノ際右等丸字ヲ付セサルモノ有之候ハヽ丸字ヲ付スヘキ樣船主ヘ諭示相成候樣致度命ニ依リ此段及御照會候也

第七篇　外國人

明治廿一年二月十日	警部長訓示第一四号	外國人取扱及外國人旅券ノ件
仝　廿二年七月十日	知事訓令第四二号	外國軍艦碇泊訪問方
仝　年七月廿七日	保安課通知	仝上ニ付海軍次官通知
仝　廿四年一月十日	知事達警第一号	內外國軍艦危難ノ節急報方
仝　年八月十七日	警部長訓示保第七号ノ一	外國人埋葬取扱ノ件
仝　廿五年二月三日	警訓第二三二号ノ一	外國船密獵取締方
仝　廿七年九月八日	保第四一八九号ノ一	英國人內地旅行取締方
仝　十八年十月廿日	內務省達無号	外國人取扱巡查心得
（參照）仝　十二年十月九日	公達第三八号	旅行免狀ヲ所持スル外國人宿泊ノ件

○警部長訓示第一四号　廿一年二月十日

警察置長　警察分署長

外國人取扱及外國人旅券ノ義ニ付愛知縣知事ノ伺指令ニ依リ取扱方別紙之通リ大隈外務大臣ヨリ訓示相成候條此旨心得ヘシ

右訓示ス

（別紙）

第一號　　廿一年二月三日

今般外國人取扱及外國人旅券ノ義ニ付別紙甲乙號ノ通リ愛知縣知事伺ニ對シ及指令候條其縣ニ於テモ右同樣ノ場合差起候節ハ該指令ノ趣ニ準シ取扱可致此段爲心得愛知縣知事伺及指令書寫別紙甲乙號ヲ以テ及訓示候也

（甲號）

外國人取扱ノ義ニ付伺　廿年十月十四日

一人民ニ於テ學校教師トシテ外國人ヲ雇入管下ニ僑居候者ハ其業務課目明細書ヲ雇主ヨリ差出サシメ時々學務係視察可致旨明治十二年四月廿一日付送第二號ヲ以テ御達相成候處右ハ今日ト雖モ猶其御手續ヲ履行スヘキ筈ニ候ヤ

一病氣保養又ハ學術研究ノ旅行免狀ヲ所持セル外國人内地ニ滯留中公私學校ノ教師ト爲ッテ生徒ヲ教授シ（其俸給ノ有無ニ關セス）或ハ教會場等ニテ宣教ヲナスモ妨ナキ哉

一同上ノ外國人内地ニ滯留中自己ノ名義ヲ以テ學會等ヲ開設シ人衆ヲ招集（其廣告ノ有無ニ關セス）スルキハ警察官ニ於テ懇諭差止可然哉

一同上ノ外國人疾病其他不得止事故有之滯留數日ニ及フトキハ七日毎ニ戸長役場ヘ可屆出旨明治十二年十月十九日付第三十八號ヲ以テ御達相成候然ルニ若シ病氣其他不得止事故アルニアラス徒ニ滯留數日ニ及フトキハ警察官ニ於テ懇諭退去セシメ可然哉

右相伺候條至急御指揮有之度候也

（朱書）　廿年十一月廿一日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一項　申出之通

第二項　旅行免狀ハ病氣保養若クハ學術研究ノ爲メノミ賦與スルモノニシテ學校教師トナルカ如キハ右目的外ノ事タルヲ以テ之ヲ許可スヘカラス尤モ教會場等ニ於テ臨時宣教ヲ爲スハ不問ニ措クヘシ

第三項　自己ノ名義ヲ以テ學會等ヲ開設スル義ハ相成ラス

第四項　旅行免狀ニハ内地旅行ヲ爲シ得ル期限ヲ記載スルノミニシテ各地方滯留日數ノ制限ナキヲ以テ免許期限内ハ退去セシムルニ及ハス

（乙号）

外國人旅券等ノ義ニ付伺　廿一年一月廿日

第一項　雇外國人中旅行ノ途次雇入契約ヲ爲ス者アリ右ハ全ク健康保養又ハ學術研究ノ身分ニ付更ニ往復旅行免狀ヲ貰省ヘ請求致來候處或ハ最前ノ旅券尚ホ其期限内ニ在ルヲ以テ之ヲ携帯旅行セント欲スル者有之候得共爰ニ雇主アッテ新ニ旅券幷僑寓証ヲ下付シタル上ハ舊旅券ハ自然無効ノ者ト被存候就テハ右外國人ニシテ最寄開港場ヘ旅行セントスルトキ私雇外國人各地旅行免狀第二項ニ據リ雇主ヨリ其管轄廳ヘ添書ヲ請求スヘキ者ト心得可然哉

第二項　客年十月十四日付本縣伺外國人取扱方第二項御指令ニ依レハ内地旅行中ノ外國人教會場等ニ於テ臨時宣教ヲ爲スハ不問ニ措クヘシト有之又第四項御指令ニ依レハ内地旅行ヲ爲シ得ル期限ヲ記載スルノミニシテ各地方滯留日數ノ制限ナキヲ以テ免許期限内ハ退去セシムルニ

及ハスト有之彼是對照スルトキハ內地旅行ノ免狀ヲ有スル數多ノ外國人六ヶ月間某內地ニ止宿シテ時々宣敎ヲ爲シ滿期後更ニ同旅券ヲ得テ同所爲ヲ行フトキハ居留地外自ラ居留地ノ形狀アルカ如ク相見ヘ候得共其之ニ對シテ毫モ制裁無之候ヤ

第三項　官私雇外國人ノ往復旅行免狀ハ其券面記載ノ場合ニノミ適用スヘキ者ニ付休暇日等ノ節臨時遊步セント欲スルトキハ明治十二年一月七日付御達ニ據リ一日ニ往返スヘキ場所ニ候ハヽ縣ノ內外ヲ問ハス日ノ多少ヲ論セス（病氣事故若クハ休暇日累加等、有効ノ者ト被存候處右免狀ハ其志願ニ依リ豫メ之ヲ下付スルモ差支無之哉又ハ其都度下付スヘキ筈ニ候哉

右相伺候條至急何分ノ御指揮有之度候也

（朱書）　廿一年一月廿七日

伺ノ趣左ノ通心得ヘシ

但伺ノ事項ハ當省主管ノ件ニ付本大臣限リニテ指令ス

第一項　外國人健康保養若クハ學術研究ノ爲メ免狀ヲ得テ內地旅行中日本人ト諸般ノ約定ヲ爲ハ右旅行免狀裏書第七項ヲ以テ制禁シタル義ニ有之候ニ付若シ右ノ外國人日本人ニ雇ハレント欲スレハ必ス一旦現住ノ居留地ニ立戻リ旅行免狀ヲ當省ヘ返納シタル上傭雇ノ契約ヲ爲シ雇主日本人ヨリハ同人ノ爲メ居留地外居住免許ト往復旅行免狀下付トヲ請求シ右免狀ヲ得タル上始メテ被雇外國人ハ被雇地方ヘ向發程シ居ル筈ニ有之候隨テ伺之如ク日本人ニ雇ハレタル后尙曩ニ付與セラレタル通常內地旅行免狀ヲ所持スル場合ハ無之筈ニ候處自然是迄其縣取扱中誤テ旅行中契約ヲ爲シタルモノヲ其儘認可シ居留地外住居及往復旅行免狀下付取計ラヒタルヿ有之候ハヽ無論其際最前付與シタル通常內地旅行免狀ハ無効ト相成タルモノニ付此際其公使ヲ經テ當省ヘ返納セシム而シテ其后右外國人所用アリテ最寄開港場ヘ赴カントスル節ノ取扱方ハ伺ノ通

第二項　內地旅行免狀ハ病氣保養若クハ學術研究ヲ目的トスル場合ニ限リ付與スルモノニ有之右免狀ヲ所持スル外國人ニシテ永ク一ノ地方ニ住居スル義ハ無之筈ニ候處宣敎ノ爲メ旅行免狀ヲ其目的外ニ使用シテ一地方ニ常住スルモノ有之候ハヽ一件每ニ付事情ヲ斟酌シテ相當處分ニ可及候間其國籍姓名及平素ノ擧動等詳細具申スヘシ

第三項　伺ノ文意稍ヤ不分明ニ候處前畧（右免狀ハ其志願ニ依リ豫メ之ヲ下付スルモ差支無之哉）云々ノ右免狀トハ明治十二年一月七日付寺島外務卿ノ通達ニ係ル被雇外國人一日限步行免狀ヲ指シタルモノニ有之候ハヽ遊步ノ度每ニ下付スルノ手數ヲ爲スニ及ハス候條豫メ之ヲ下付シ置キ解雇ノ節返納セシムヘシ尤モ該免狀ヲ以テ遊步ヲ爲シ得ル區域ハ縣ノ內外ヲ問ハスト雖モ其効ハ一日間ノ步行ヲ許スニ過キサルモノナレハ必ス當日中ニ僑寓ニ歸着スヘキ筈ニ有之隨テ急病等眞ニ已ムヲ得スト認ムル場合ノ外ハ伺等ノ事故申立候トモ遊步先ニ於テ宿泊ヲ許スヘカラサル義ト心得ヘシ

○知事訓令第四拾貳號　廿二年七月十日

沿海郡長　警察署長

警察分署長　水上警察署長

外國軍鑑ニシテ不開港場ヘ碇泊ノ節ハ直ニ之ヲ訪問シ（碇泊場郡衙又ハ警察本分署所在地ニ係ルトキハ村長又ハ駐在所若クハ派出所詰巡査ニ於テ之ヲ訪問シ所管官署ヘ急報スヘシ）左ノ區域ニ從ヒ海軍大臣及ヒ吳鎭守府司令長官ニ報告スヘシ

但複問ノ煩ナキ樣先訪問シタル向ニ於テ其旨仝時ニ縣廳及他ノ關係吏員ニ即報スヘシ

一　艦名幷入津月日時刻

一　何レヨリ何用ニテ入港何用ニテ何レニ出港

右電信ニテ報告スヘシ　電信局ナキ地ハ最近電信局迄郵便ヲ以テ送リ全局ヨリ電信ニテ報告スヘシ

一　乘員ノ擧動其他見聞ノ次第

右郵便ニテ報告スヘシ

樺山海軍次官ヨリ外國軍艦訪問ノ義ニ付甲號ノ通リ兵庫縣知事ノ伺ニ對シ乙號ノ通リ指令ノ旨通知アリタリ

甲號

兵庫縣知事ヨリ海軍大臣ヘ伺　廿二年七月十三日

當縣管下諸港灣ニ外國軍艦碇泊ノ節ハ所在ノ官吏ヲシテ訪問云々ノ義ニ付本月二日付官房第一二一九號ヲ以テ御達ノ趣致敬承候然ルニ右ハ致熟考候處當縣ノ地形タル南北海ニ瀕シ加フルニ淡路ノ島嶼アリテ沿海ノ地廣濶ナルヲ以テ將來何レノ地ニ外國軍艦ノ來泊スベキモ難斗果シテ然ルトキハ沿海ノ市町村ニシテ船舶ノ繫泊スベキ慮アル場所ハ悉ク通譯者ヲ備アルニ非ザレハ實施スルヲ得ザル義ニテ到底難被行義ト見込候ニ付テハ豫テ其尋問スベキ要領ヲ横文ニ譯述セシメ沿海所在ノ警察官ニ交付シ置キ萬一外國軍艦ノ寄泊スルモノアルトキハ之ヲ示シ其答辭ヲ記入セシメ先以當縣廳ヘ郵送シ反譯ノ上當廳ヨリ直ニ電報ヲ以テ報告方取計候ハヾ實際施行上ニ於テ差支無之義ト被存候處右樣取計不苦義ニ候哉何分ノ御指令相成度此段一應相伺候也

乙号指令　廿二年七月廿七日

外國軍艦訪問ノ件可成速達ヲ要スル義ニ付爲シ得ル丈ケハ直チニ報告セシムヘシ

但實際行ハレ難キ場所ニ限リ別紙ノ如キ紙片ヲ軍艦ニ示シ答辭ヲ記セシメ伺ノ通リ施行スルモ不苦

樺山海軍次官ヨリ外國軍艦入出港報告ノ義ニ付甲号ノ通リ長崎縣知事代理ノ伺ニ對シ乙号ノ通リ指令ノ旨通知アリタリ（八月三日）

甲号

Gentlemen,

Be so kind as to write answers down on the following Questions :—

The Name of your ship ?............................

Where from & What for?............................

....

....

When & where for to start?............................

....

....

長崎縣知事代理ヨリ海軍大臣ヘ伺　廿二年七月廿五日

本月二日付官房第一二一九号ヲ以テ當縣下諸港灣ニ外國軍艦碇泊ノ節ハ對馬島司又ハ郡長ヨリ直ニ貴大臣及佐世保鎮守府司令長官ヘ宛テ急報可致樣夫々相達置候然ルニ外國軍艦ニシテ不開港場ヘ入進シ及乘組員上陸ノ義外務省ニ於テ特ニ免狀付與相成タル分モ報告可致義ニ有之候哉將又別紙對馬島司代理届書寫ノ通暫時碇泊セシ外國軍艦ニシテ其地近傍（對馬島ノ如キハ數ケ村ヲ聯合シテ戸長役所開設）ニ吏員在ラサルトキハ只出入港ノ時日ヲ知ルノ外其國名艦名艦号來意等吏員出張尋問スベキ時間無之右樣ノ場合ニ於テハ報告方如何取計可然哉何分ノ義御指示相成度此段相伺候也

別紙

外國軍艦入港ノ義ニ付御届　廿二年七月十六日

本月十二日午前九時外國軍艦一艘下縣郡尾崎村ヘ入港致候處所轄戸長役所員出張前仝日午后二時頃無異狀出港致候就而ハ國（或ハ日耳曼トモ云）艦名幷ニ來意等不相知旨申出候此段御届仕候也

廿二年八月三日

乙号指令

外國軍艦入出港報告ノ義前段ハ伺ノ通リ後段ハ對馬島司届出ノ如キ已ムヲ得サル場合ニ於テハ其出入港ノ日時其他知リ得ル丈ノ事項ヲ報告スル義ト心得可シ

○知事達警第一号　廿四年一月十日

沿海警察署警察分署

内外國艦船ニシテ本縣沿岸ニ於テ危難ニ罹リタルモノアルトキハ郡役所村役場警察署及分署等ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該軍區ノ鎮守府ニ報告スヘシ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ但海軍艦船ノ救護ヲ要スルニ及ハストモ思考スルトキハ報告セサルモ妨ケナシ

（各警察署長宛）

○警部長訓示保第六七號ノ一　廿四年八月十七日

外國人埋葬取扱ノ義ニ付別紙之通警保局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルベシ

右訓示ス

（別紙）

警發第二四號　廿四年八月六日

外國人埋葬ノ件長崎知事伺ニ對シ外務内務両大臣ヨリ別紙甲號ノ通リ指令相成且外務省取調局長幷ニ本官ヨリ乙號ノ通々牒致候條爲御心得別紙及送付候也

（甲號）

明治廿四年七月十日長崎縣知事電報伺

特別輸出港口ノ津ニテ病死セシ外國人ハ通常墓地ニ傳染病ニテ死亡セシモノハ其墓地ニ埋葬セシメ可然義ト存スレトモ念ノ爲メ伺置

（指令）　廿四年七月十五日

本月十日付電報伺特別輸出港ニテ病沒セシ外國人其地ノ墓地ニ假埋葬セシムルハ妨ナシ

（乙號）　廿四年七月十五日

本年七月十日後三時發電報ヲ以テ特別輸出港口ノ津ニテ病死セシ外國人埋葬ノ件御伺出相成既ニ指令濟ニ有之候處元來共有墓地ニ於テハ縣廳限リ當然埋葬ノ許可ヲ與ヘ候ハ穩當ナラサル儀ニ付町村ノ承諾ヲ經テ處分スル樣相成度又右埋葬シタル死屍ハ日本政府ノ許可ヲ經スシテ發堀又ハ改

斃スル等ノ事決シテ無之旨關係人ヨリ契約ノ書面取置カレ候樣相成度此段及通牒候也

○警部長達警訓第三二号ノ一　廿五年二月三日

外國船我近海ニ漁獵シ或ハ不開港場ヘ立入ル件ニ付大藏大臣ヨリ別紙之通內訓アリ此旨心得テル可シ

（別紙）

第二六〇号　廿五年二月一日

近來外國船我近海ニ漁獵シ或ハ不開港ヘ立入ルヤノ聞ヘアリ明治三年二月不開港場取締心得方規則ノ旨モ有之時ニ臨ミ其所轄稅關ト協議取締方一層注意スヘシ

○警部長達保第四八九號ノ二　廿七年九月八日

英國人內地旅行免狀改正相成候趣別紙之通外務大臣ヨリ通達有之候ニ付右旨趣服膺取締ラルヘシ

（別紙）送第二九二號　廿七年九月四日　（各署長宛）

今般日英兩國新條約ノ規定ニ依リ英國臣民カ在東京同國公使若クハ帝國開港場ニ駐在スル同國領事官ヨリノ保証ヲ以テ出願スルニ於テハ一箇年以內ノ期限間帝國內何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ當省若クハ開港場所在ノ地方長官ヨリ交付スルコトニ相成候ニ就テハ右約定ハ本月廿日ヨリ施行スヘキコトニ英國公使ヘ通知致シ又右旅行免狀ノ書式ハ別紙第一號ノ通相定メ候間右樣御承知有之度將從來官私雇外國人其雇主ノ都合ニ依リ內地ヘ出張ノ場合ニ携帶スヘキ証票ノ設ケ有之候處右モ今後英國人ニ限リ別紙第二號ノ通リ書式ヲ相改メ候間御心得ノ爲メ茲ニ及御送付候也

縱曲尺六寸五分

第　號

英國人內地旅行免狀

姓名

身分

寄留又ハ發程地

右ハ明治二十年　月　日ヨリ向フ　間

帝國內地旅行ノ儀差許候事

表

明治二十　年　月　日

外務省

第壹號（朱記）

橫曲尺八寸六分

帝國內地旅行英國人心得

第一條　內地ヲ旅行スル者ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ

第二條　此免狀ハ有効期限經過後ハ可成速ニ外務省ヘ返納スヘシ

第三條　旅行中地方官吏警察官又ハ止宿所ノ宿主ヨリ免狀ノ檢查ヲ求ムル時ハ必ラス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナストモ之ヲ示サヽル者ハ直ニ最寄開港場ニ立去ラシムルコトアルヘシ

第四條　此免狀ハ表面記載ノ者ノ使用ニ限リ他人ヘ貸與フルヲ許サス

第五條　此免狀ヲ受ケタル者ト雖モ內地ニ入リテハ賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス

第六條　此免狀ニヨリテ旅行スル者ハ內地ニテ屋宅ヲ借受ケ又ハ寄留スルヲ許サス

第七條　遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル者ト雖モ遊歩規則程外ノ地ニ於テ發砲又ハ遊獵ヲ許サス

縱曲尺六寸五分

表

第　號

雇英國人帝國內地出張證票

姓　名

雇　主

雇主居所

出張用務

右ハ本証票ノ日附ヨリ向フ　間帝國內地ニ於テ其用務之レアル場所ニ滯在及路筋往返ノ儀差許候事

明治二十　年　月　日

外務省

第二號（朱記）

横曲尺八寸六分

帝國內地出張雇英國人心得

一此証票ヲ有シ內地ヘ出張スル者ハ総テ其地方ノ規則ニ遵依スヘシ

一此証票ハ有効期限經過ノ後ハ可成速ニ雇主ヲ經テ外務省ヘ返納スヘシ

一出張中地方官吏警察官又ハ止宿所ノ宿主ヨリ証票ノ閲覧ヲ求ムル時ハ必ス此証票ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナストモ之ヲ示サヽル者ハ最寄開港場ヘ立去ラシムルコトアルヘシ

一此証票ヲ有スル者ト雖モ內地ニ於テハ賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス

一此証票ハ表面記載ノ者ノ使用ニ限リ他人ヘ貸與フルヲ許サス

一遊獵免許鑑札ヲ所持スル者ト雖モ遊歩規定外ノ地ニ於テハ發砲又ハ遊獵スルヲ許サス

計　六　欵

（全版）

○內務省達無號

十八年十月二十日

警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

外國人取扱巡査心得別紙之通相定候條右ニ憑準シ取扱フヘシ此旨相達候事

（別紙）

外國人取扱巡査心得

公使及公使館屬員取扱ノヿ

第一條　本邦駐在ノ外國公使ハ其國政府ヲ代表スルノ官職ニシテ其駐劄スル所ノ政府幷ニ人民ヨリ常ニ特別ノ禮遇尊崇ヲ受クルヲ以テ各國ノ通法トス故ニ巡査タルモノハ平素此意ヲ躰シ其待遇ニ注意シ左ニ記載スル特別ノ法ニ從ヒ取扱フヘシ又普通外國人（朝鮮國人及條約未濟國人ヲ除ク）ト雖モ彼我ノ交際上ニ關係アルヲ以テ之ヲ取扱フノ際最愼重ニ意ヲ用ヒ第十條以下ニ記載アル普通外國人取扱ノ箇條ニ依リ深切丁寧ヲ主トシ決シテ輕忽ノ所爲アル可ラス又犯罪ヲ未然ニ防制スルコトニ心懸クヘシ

第二條　公使犯罪ノ場合ニ於テハ之ヲ差止ムルニ止マリ決シテ逮捕ス可ラサルモノトス故ニ巡査其職務ヲ執行スルニ方リ是等ノ場合ニ際シ其公使タルヲ知リタル時ハ勿論自ラ公使タルヿヲ稱スルカ若クハ公使タルヲ知リ得ヘキ名刺ヲ渡ストキハ只敬禮ヲ表シ其進行ノ自由ヲ妨碍スヘカラス

第三條　公使ノ居館幷ニ其敷地內ハ其本國政府ノ官舍官地ト同視スヘキ者ナルヲ以テ我警察權ノ及ザル區域ナリトス故ニ巡査ハ何等ノ場合ト雖モ其公使館ノ許可ヲ得スシテ制服着用ノ儘其門內ニ入ル可ラス尤公使館ヘ非常ノ警報ヲ爲シ或ハ盜賊等潛入ノ實跡アルヲ認ムルトキハ單ニ其知ラセヲ爲スニ止マリ其敷地內ヲ徘徊スヘカラス又公使館ノ許可ヲ得スシテ其門內ニ入テ人ヲ捕縛スルヿヲ得ス

但公使若クハ公使館員ノ請求ニ由リ館内ニ入ルモノハ此限ニアラス

第四條　公使及公使館屬員ニ屬セシ什器若クハ物品ハ何等ノ場合ニ於テモ之ヲ差押ユ可ラス又其許諾ナクシテ公使公使館屬員ノ荷物ヲ解キ檢査スル等ノコト有ル可ラス

第五條　停車場儀式場旅行中或ハ衆人群集ノ中ニ於テ公使タル身分ヲ有スルノ人タルヲ知ルカ若クハ自ラ公使ト稱ヘ或ハ名刺等ニテ之ヲ知ルトキハ其通行ニ妨碍ナキ爲メ補助ヲ與ヘ或ハ馬車ヲ上下スルノ際過チナカラシメン爲メ相當ノ注意ヲ加フ可シ

但公使馬車ヲ上下スルニ際會シ馬車ノ戸ヲ開閉スルモノナキ時ハ之カ開閉ヲ助クル等ノ注意ヲ爲スヘシ

第六條　公使大禮服ヲ着用シ若クハ大禮服ヲ着セサルモ我國ノ勳章ヲ帶ヒテ通行スルトキハ勿論其他ノ場合ニ於テモ公使ト認ムル者ニ遇ヘハ必ス敬禮ヲ表スヘシ

第七條　公使館附書記官幷ニ書記生其他附屬員ハ公使ト同樣何等ノ場合ニ於テモ差押ユ可ヲサルモノナリ故ニ相應ノ敬待ヲ加ヘ成ル可ク其便利ヲ與フ可シ

但內國人ニシテ公使館屬員タルモノモ亦本文ノ通敬待ス可シ又從僕ト雖モ先ツ公使館ノ許可ヲ得ルニアラサレハ逮捕ス可ラス然シモ從僕タルモノ現ニ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ逃走ノ恐レアル場合ニ於テハ直ヲニ取押ヘ警部ヘ申報スヘシ

第八條　公使姓名幷公使館附屬員ノ姓名ハ常ニ警視廳又ハ警察本署ニ備ヘタル外交官人名表ヲ熟閱シ之ヲ記臆シ置ヘシ

第九條　公使公使館屬員又ハ其家族ノ旅宿スルヲ知ルトキハ常ニ其旅舍近傍ヲ警戒スルニ注意スヘシ又公使或ハ公使館屬員タルヲ知ラスシテ不敬ノ擧動者アルトキハ之ヲ制止スヘシ又其旅舍ノ主人等ニモ不敬ナキ樣注意シ置クヘシ

通常外國人取扱ノ一

第十條　凡テ外國人ニ關シ處分ヲ要スヘキ事件ノ出來シタルトキハ警部ノ指揮ヲ受ケ獨斷專行ノ所爲アル可ラス

但現行犯罪ノ場合ニ於ケルカ如キ事急ニシテ其指揮ヲ俟ツニ遑アラサルトキハ臨機處分スルヲ得ヘシ

第十一條　外國人ニ接スルトキハ務テ言語容姿ヲ和ラカニシ深切丁寧ナルニ注意スヘシ

第十二條　外國人旅行ノ節ハ宿泊又ハ休息所ニ就キ旅行免狀ノ有無ヲ問フヘシ

但公使公使館屬員ハ第五條ニ依ルヘシ

第十三條　外國人ニ公使幷總領事ヲ除ク）旅行免狀ヲ所持セサルカ又ハ免許ノ日限ヲ經過シタルカ又ハ旅行ノ道筋ヲ違ヘタルトキハ懲篤ニ說諭シ發程シタル地ニ立戻ラシムヘシ若シ肯セサルトキハ其國號居留所ヲ記載セル名刺ヲ請取名刺無之者ハ手帖ニ其國號氏名居留所ヲ記載セシメ警部ニ申報スヘシ（十八年十二月四日付ヲ以テ本條及ヒ但書共改正）

但公使館屬員及領事官並領事館屬員ハ發程地ニ立戻ラシムル限ニアラス

第十四條　旅行免狀遺失ノ旨申述フル時ハ其事由及ヒ國號氏名居留所等ヲ聞糺シ警部ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條　遊步規程外ニ於テ外國人ヲ擔見スル時ハ免狀ノ有無ヲ問ヒ無免狀ノ者ハ其名前ヲ聞取若クハ手帳ニ記名セシメ懇ニ說諭シ規程內ニ立戻ラシムヘシ

但免狀ナキ者夜間等ニテ立戻リ難キト認ムル時ハ最寄旅店ヘ誘引シ一時宿泊セシムルハ妨ケナシ

第十六條　外國人旅宿等ヲ求メ得スシテ案內ヲ依賴スル者アル時ハ懇切ニ取扱ヒ其國號氏名居留所等聞糺シ相應ノ旅宿ニ誘引シ止宿料等取極ルヲ認メ最寄警察署ニ申報スヘシ

第十七條　不開港場ヘ水先案内ノ外國人上陸スル時ハ其免狀ノ有無ヲ聞糺シ若シ無免狀ノ者ナレハ該所ニ留メ置キ警部ノ指揮ヲ受クヘシ

第十八條　御通輦ノ節外國人路傍ヲ通行スルハ妨ケナシト雖モ若シ道路狹隘ニシテ儀仗ニ障碍アル場所ニ於テハ回避スヘキ旨懇ニ說諭スヘシ

但公使公使館屬員ノ如キハ自カラ此等ノ禮節ヲ心得タルモノナレハ巡査ヨリ指圖カマシキニヲ爲スハ不敬ニ渉ルコトアリ故ニ說諭等ヲ用ユルニ不及ト心得ヘシ

第十九條　前條ノ場合ニ於テ車馬ヲ疾驅スル者アレハ之ヲ諭シテ徐行セシムヘシ若シ儀仗ニ障碍アル時ハ前條ト仝シク懇諭スヘシ

第二十條　誤テ儀仗ヲ侵シタル者アルトキハ其國號居留所ヲ記載セル名刺ヲ請取リ之ヲ放遣シ直チニ警部ニ申報スヘシ

第二十一條　外國人銃獵スル者アル時ハ銃獵免狀ノ有無ヲ問ヒ免許ヲ得スシテ銃獵ヲ爲ス者アレハ穩ニ之ヲ制止シ其國氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ證據人（仝條ヲ除ク）及證據物ヲ取極メ速ニ警部ニ申報スヘシ

若シ制止ヲ肯セサル時ハ之ヲ差押ヘ警察署ニ引致スヘシ

第二十二條　鳥獸獵條約條款ニ違背シタル者ハ證據物或ハ證據人ヲ得テ之ヲ警察署ニ同行スヘシ

但公使公使館屬員ハ同行スルノ限ニアラス

第二十三條　若シ警察署ニ同行ヲ肯セサル時ハ免狀ニ記載アル姓名ヲ寫取リ且見屆ノ証トシテ免狀中ニ捺印又ハ花押ヲ記シ放遣シ其事由ヲ警部ニ申報スヘシ

第二十四條　銃獵者誤テ人ヲ殺傷シタル時ハ其國號氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ證據物件等ヲ取極メ直ニ警察署ニ同行スヘシ

但公使公使館屬員ハ同行スルノ限ニアラス

第二十五條　外國人巡査ニ對シ亂暴等ノ所爲アル時ハ之ヲ制止シ尙ホ肯セサルトキハ警察署ニ引致スヘシ

第二十六條　外國人違警罪ヲ犯ス場合ニ於テハ其姓名ヲ尋ヲ名刺ヲ請取リ之ヲ警部ニ申報スヘシ

但輕罪以上ノ場合ニ於テハ第十條ニ據ルヘシ

第二十七條　外國人夜中燈火ナクシテ馬又ハ馬車ヲ疾驅（月明ノ夜ハ宜シク斟酌スヘシ以下依之）スル時ハ懇ニ說諭シテ點燈セシメ若シ其用意ナキトキハ徐行スヘキ旨ヲ諭シ且第二十六條本文ノ手續ニ據リ申報スヘシ

第二十八條　車馬ヲ疾驅シテ內國人ニ疵傷ヲ負ハセ或ハ物品ヲ毀損スル等ニテ相對示談ヲ望ム者ハ之ニ任セ異議アルトキハ其外國人ノ國號氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ名刺ヲ請取リ速ニ警部ニ申報スヘシ

第二十九條　公園社寺官地內等ニ揭示スル規則ニ背キ或ハ通行禁止ノ道路橋梁等ヲ通行セントスル者ハ穩ニ之ヲ制止シ若シ之ヲ肯セサルカ又ハ已ニ通行シタルトキハ其國號氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ名刺ヲ請取リ警部ニ申報スヘシ

第三十條　外國人其所有ノ人力車ニ乘リ夜中燈火ナクシテ疾驅スルトキハ車夫ニ向ヒ第二十七條ノ例ニ從ヒ說諭スヘシ尤雇人力車ナルトキハ車夫ノ住所氏名ヲ聞糺シ放遣シ直チニ告發ノ手續ヲナスヘシ

第三十一條　外國人車馬止ノ榜示ヲ犯シテ通行セントスルトキハ車夫馭者馬丁ニ向ヒ說諭シテ引戻サシムヘシ若シ外國人又ハ車夫馭者馬丁ニ於テ引戻ヲ肯セサル時ハ其住所氏名等ヲ聞糺シテ放遣シ之ヲ警部ニ申報スヘシ

雇馬車人力車若クハ借馬ナルトキハ直チニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條　公使館雇ノ內國人違警罪ヲ犯シタルトキハ犯人ノ住所氏名ヲ聞糺シ直ニ告發スヘシ若シ其住所氏名ヲ詳述セス又ハ逃走セントスル者ハ警察署ニ引致スヘシ

第三十三條　人家稠密ノ場所ニ於テ發砲シ或ハ火技（線香花火等ハ此限リニアラス）ヲ弄フ者アル時ハ穩ニ之ヲ制止シ其國號氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ名刺ヲ請取リ警部ニ申報スヘシ若シ制止ヲ肯セスシテ止ムヲ得サル時ハ差押ユルモ妨ナシ

第三十四條　外國人出火場ニ於テ消防ノ妨ヲ爲シ又ハ乘馬スル時ハ穩ニ說諭シテ其場ヲ退去セシムヘシ

第三十五條　外國人ノ家畜類內國人ヲ傷害スル時ハ直チニ取押ヘ繫鎖ヲ施シ畜主ニ引渡スヘシ若シ狂獰ニシテ取押ヘ難キトキハ畜主ノ承諾ヲ得テ撲殺スヘシ尤モ承諾ヲ得ルニ遑アラサル場合ニ於テハ確實ナル證人ヲ立テ之ヲ撲殺スルモ妨ナシ

但其傷害ニ係ル要償ノ如キハ雙方ノ示談ニ任スヘシ

第三十六條　居留地外ノ旅宿其他ニ於テ私ニ外國人ヲ止宿セシメ又ハ居留地外ニ住居スル官私雇外國人ノ家宅ニ同居若クハ止宿スルヿヲ見聞シ事實ヲ確知シタルニ於テハ警部ニ申報スヘシ

第三十七條　居留地外ニ於テ外國人ノ商業ヲ營ムヲ見聞シタル時ハ禁止ノ旨申諭シ其國号氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ直ニ警部ニ申報スヘシ

但既ニ商業ヲ爲シタル証蹟アルモノハ証據物件ヲ取纏メ速ニ警察署ニ送致スヘシ

第三十八條　外國人ノ住居ヨリ出火スル時ハ臨機消防ニ從事スヘシト雖モ家主ノ請求スルニアラサレハ室內ニ入リ又ハ物品ヲ運搬シ家屋檣塀等ヲ破毀ス可ラス

第三十九條　外國人途上ニ於テ醉倒スルヲ認ムル時ハ懇切ニ介抱シ住所氏名ヲ問ヒタル上本國領事官ニ引渡スヘシ領事官駐在セサル地ニ在テハ本人住居又ハ最寄ニ於ケル其相知者ノ許ニ送リ達スヘシ住所分明ナラサル者ハ警察署ニ連行キ醉ノ醒ルヲ竢テ國號氏名居留所旅宿等ヲ聞糺シ放遣スヘシ

第四十條　外國人不慮ノ危難ニ遇フヲ見聞スル時ハ直チニ之ヲ救護スヘシ

第四十一條　外國人喧嘩爭鬪ヲ爲シ若クハ暴行等ノ所爲アル時ハ穩ニ之ヲ制止シ尙ホ肯セサルトキハ差押ヘ旦警察署ニ引致スヘシ

第四十二條　外國人途上ニ於テ發病困難ノ趣ヲ見聞シタル時ハ速ニ相當ノ手當ヲ施シ其國號氏名居留所旅宿等ヲ問ヒ直チニ警部ニ申報スヘシ

第四十三條　外國人途上ニ於テ變死シタルモノアル時ハ其原狀ヲ變セサル樣取締ヲ爲シ速ニ警部ニ申報スヘシ

第四十四條　外國人市街ヲ步行シ又ハ買物等ヲ爲ス時內國人數人取圍ミ見物スルヲ撞見セシ時ハ制止スヘシ

○公達第三八号　十二年十月九日　使府縣

旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行ノ節疾病其他不得已事故アルトキハ旅籠渡世ノ者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦尤同時ニ必其事故ヲ詳記シ戶長役場ヘ可爲屆出若シ滯留數日ニ及フトキハ七日毎ニ爲屆出候樣可致此旨相達候事

第八篇　司法

第一章　裁判所構成

明治廿三年十月廿三日　警部長達警第四二六号
全　廿五年八月廿六日　全　警訓第四〇〇号

司法警察官ノ職務執行方ノ件

警察官區裁判所事務取扱ノ件

○警部長達警第四二六號　廿三年十月廿三日

司法警察官ノ職務ニ就テハ各警察署長及分署長ヘ移付致來候處裁判所構成法實施ニ付仝法第八拾四條ニ依リ從前ノ如ク各署長ナシテ勤務スベキモノト相定メ差支ナキヤ否ノ義岡山始審裁判所犬飼檢事ヨリ知事ヘ照會有之候ニ付テハ本縣ニ於テハ各警察署長分署長ノ外警察署詰内勤警部及次席警部ニ於テモ該勤務ニ服セシムベキ旨回答相成候條此旨心得ラルベシ

右訓示ス

警察本分署長

○警部長達警訓第四〇〇号　廿五年八月廿六日

警察官ニ於テ區裁判所檢事ノ事務ヲ取扱フハ檢事ニ於テ正當ノ差支アル場合ニ於テハ不得止義ニ候得共從來檢事ニ於テ暑中休暇ヲ爲ス等ノ爲メニモ其事務取扱ノ委托ヲ受ケ爲メニ警察ノ本務ニ差支ヲ生スルヤノ嫌アルヲ以テ以來檢事ニ於テ正當ノ差支アル場合ヲ除クノ外其事務取扱ノ委托ハ拒絶シ可然旨警保局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルヘシ

第八篇

第二章　刑事

第一節　監視

明治十七年十二月十五日　警察部達丙第七二〇号　監視表認印方

全　十八年十月三十一日　警部長達丙第四〇八号　他府縣監視者旅行中天災等ニ依リ淹滯シタル節通知方

全　二十年五月　十日　第九五号　監視期限起算方

全　廿一年七月　三日　警部長達訓示第八三号　監視人名札署内ニ掲示其他實行上注意方

全　廿四年八月　五日　保第六〇号　高梁署長伺　監視中ノ者能狂言ヲ爲ス件

全　年十二月十七日　監視表樣式

（參照）全　十五年三月廿二日　内務省達乙第一九号　監視人旅行ノ節監視表携帯方

全　十七年三月廿六日　乙第一九号　聯合府縣内監視人移轉互報ノ件

○警察部達丙第七二〇号　十七年十二月十五日

左ノ二條件第二區警察聯合府縣一同施行致度旨今般和歌山縣警部長ヨリ協議越候ニ付異存無之旨及回答置候條自今右ニ準據可取計此段相達候也但所屬分署ヘハ其署ヨリ通達有之度事

被監視中ノ者他府縣ヘ移轉スル者發足ノ際移轉地所轄警察署ヘ通知スルモ被監視者カ申立タル同居先若クハ町村名モナキモノ往々有之ニ付先其移轉スヘキ所轄警察署ヘ差支ノ有無ヲ問合セタル後移轉ヲ許可スルコト

被監視人他府縣ヨリ現住地ヘ歸ルノ旅券ヲ付シタルモノ若シ事故アリテ途中警察署ニ於テ証明書ヲ付與シタルトキハ其旨現住地警察署ヘ通知スルコト

○警部長通達丙第四八号　十八年十月卅一日

警察署

監視票認印ノ儀ハ齢歳ノ半ニシテ五年ノ監視ニ付セラルヽモノ一表ニシテ全監視ヲ了ル筈ニ有之仮令ハ本年七月監視ニ付セラルヽモノ有之節ハ該表初年ノ欄内七月ヨリ認印相始メ明年一月ハ同ク初年ノ欄内一月ヘ認印シ六月ニ至リ刑期一年ヲ經過シタルモノトシ爾後二年以下ノ欄内右ノ順序ヲ以テ認印取扱候筈ニ有之候條此段爲念及通達候也

○警部長達第九五号　二十年五月十日

警察部警察署

警察分署

他府縣ニ於テ執行スヘキ監視者ニシテ旅行中天災又ハ疾病等ニ依リ臨時淹滯シタルトキ刑法附則第三十一條証書ヲ下付シタルトキハ其都度管轄官署ヘ通知スヘシ

右相達ス

○警部長訓示第八三号　廿一年七月三日

監視期限ノ義ニ付司法大臣ヨリ内訓等有之趣ヲ以テ内務省ヨリ別紙之通々知來候條右ニ準シ取扱ヘシ

右訓示ス

（別紙）

監視期限算入方

第一　被監視者他ノ犯罪ノ爲メ未決拘留セラレタルトキハ其拘留中ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス

第二　前項ノ場合ニ於テハ後犯裁判確定前日迄ノ日數ヲ算入ス

第三　監視規則違犯中ノ日時ハ擅ニ他管ニ出テタル場合ト雖モ仍ホ監視期限ニ算入ス

第四　賭博犯ノ懲罰及密賣淫ノ懲戒日數ハ監視期限ニ算入ス

○警部長達保第六〇号　廿四年八月五日

（各署長宛）

監視人名札ヲ署内ニ掲示方其他實行上ノ二三ノ件ニ付注意ヲ要スル事項ヲ左ニ指示ス

一　監視人名札ヲ警察官署内ニ掲示シ注意ノ資料ニ供スルハ敢テ不可ナリト云フニアラズト雖モ署員外ノ者ノ見易キ場所ニ掲表スルハ恰モ罪犯タルヲ掲示スルノ嫌アリ故ニ事務所中片隅ニシテ署員外ノ者ノ眼瞳ニ觸レサル場所ニ掲載スルカ若クハ注意人名簿中ニ編纂シ其監視人タルコトヲ公示セサルヲ要ス

但駐在所ニ於ルモ亦タ本文ニ準スベシ

一　罪犯其者ニ本刑ノ外附加スルニ監視ノ刑ヲ以テシ厳ニ自由ヲ検束スルハ何ソヤ其行爲ヲ監査シテ罪ヲ犯スノ餘地ナカラシメ再犯ノ意思ヲ防止スルニアリ依是觀之只ニ附加刑タル監視期限中ノミ視察シ其滿期後ト雖モ注意周到常ニ其行爲ヲ視察スベキノミナラズ時々該家ニ臨ミ懇切丁寧諭示シテ惡意ノ再燃ヲ防キ良心ノ奮起ヲ促シ以テ眞ニ良民タラシムルハ行政警察責務ノ一ナラン乎宜ク注意ヲ要ス

一　盜難品贓ハ規則ノ命スル所ニ依リ現ニ實行シツヽアリト雖モ其効顯著明ナラズ殆ンド無効タルノ感アルヨリ概子徒ラニ形式上ノ手續ヲ爲スノミニシテ精神上ノ働ヲ爲サヽルモノヽ如シ蓋シ當分ノ内紋付其他特徴アルカ或ハ貴重ナル物品ノ外ハ品贓ニ付セズ他ノ方法ニ依リ捜査スベキモノトシ其ノ特徴アルモノ又ハ貴重ノ物件ニ限リ自今一層捷逕ノ方法ヲ以テ盜難届出ノ即日古物商頭取ニ其届書ヲ下付シ三日若クハ五日以内ヲ期シ組合全營業者ニ回達セシメ尚ホ巡回巡査ニ於テ時々營業者ノ家宅ニ臨ミ品贓書回送ノ遲速有無帳簿ノ整否等監査セシメ形式上ニ流レズ精神上ノ働ヲ以テ其効果ヲ收メンコトヲ要ス

右訓示候也

○高梁警察署長ヨリ警部長ヘ伺　廿四年十二月十七日

當署部内ニ從來能狂言稼ノ者アリ目下監視中ニ有之候處能狂言之爲メ旅行致度旨願出タリ然ルニ十五年二月廿五日京都府伺ニ貸席業ヲ營ミ或ハ群集ノ場所ニ於テ商業ヲ爲スハ差支ナキ云々ノ伺ニ對シ伺之通リト指令有之左スレハ勿論其生ヲ營ム爲メニ付許可ヲ與ヘ可然トモ思考シ又之ヲ反省スルニ能狂言稼之如キハ自ラ人民ヲ群集セシムルノ稼ニシテ刑法附則第廿七條第二項ノ精神ニ違反スル者ニハ無之哉聊疑義ヲ生シ候條至急何分ノ御指揮相成度候也

（指令）

被監視人旅行許否伺之件前段意見ノ通リ

○内務省乙第十九号　十五年三月二十二日

警視廳　府　縣（東京府ヲ除ク）

刑法附則中監視票旅券共別紙書式之通相定候條各廳ニ於テ調製シ下附スベシ此旨相達候事

但紙質堅緻ナルモノヲ用ヰヘシ

（參照）

表

花形綠

特別監視票

刑期　年　月　日宣告
　　年　月　日滿期

附加監視　年　月　日起
　　年　月　日滿

假出獄　年　月　日許可

特別監視　年　月　日起
　　年　月　日滿

特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹愼ナルコトヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ

面

但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサルトキハ其事由ヲ屆出ツヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

（重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ左ノ一項ヲ附加ス）

自ラ財産ヲ治メ若シクハ職業ヲ營マントスルトキハ刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

岡山縣警察署

明治年月日

認印表

	初年				二年				三年				四年			
一月	一度	二度	三度	四度	五度	一度	二度	三度	四度	五度	一度	二度	三度	四度	五度	
何日出頭ス ㊞	疾病ニ付不參															

裏面

二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

花形綠

監視票

表面

刑期　監視

年月日宣告
年月日滿期
年月日起
年月日滿

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹愼ナルコトヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサルトキハ其事由ヲ屆出ヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此ノ票ヲ下付スル者也

年　月生

明治　年　月　日

岡山縣警察署

裏面

認印表

月	初年	一年	二年	三年	四年	五年
一月	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前
	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後
二月						
三月						
四月						
五月						
六月						
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						

一　何日出頭疾病ニ付　旅行中　不參　㊞

明治　年　月　日

花形綠

旅券

刑名刑期　何年何月何日宣告
何年何月何日濟期

監視　何年何月何日起
何年何月何日滿

罪質犯數

一此者　ニ付セラレ
ヘ到ル者也

ニ於テ之ヲ執行スヘキニ付該地

一　年　月　日本地ヲ發途ス
一　年　月　日先方ノ地ニ到ルモノトス

先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出ス可キ事
但シ本文旅券ニ假出獄證票ヲ添ヘ官吏ノ監査ヲ受クヘシ

旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滯シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ到着ノ日此旅券ニ副ヘ警察署ニ差出ス可キ事

右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也

岡山縣警察署

表面

花形綠

旅券

刑期　年月日宣告
年月日滿期

監視　年月日起
年月日滿

一此者

一　年　月　日　地ヲ發途ス
一　　滯在スル日數　日間トス
一　年　月　日歸宅スルモノトス
到レハ此旅券ヲ直ニ其地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムヲ得ス淹滯シタルトキハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ歸着シタルトキ若シクハ先方ノ

明治　年　月生

明治　年　月　年　月

地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事
歸着シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事
右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

明治　年　月　日

岡山縣　警察署

裏面

認印表

（參照）

○内務省乙第一九号　十七年三月廿六日

警視廳　府　縣

監視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スルトキハ必ス監視表ヲ携帯セシメ其滯留數日ニ渉ル者ハ滯留地ノ警察署ニ到リ謹愼ヲ表シ官吏ノ認印ヲ受ケシムヘシ此旨相達候事

但官吏ノ認印ハ監視票ノ裏面旅行中欄内ニ捺印スヘシ

第八篇

第二章

第二節　違警罪

明治十八年一月廿五日　知事達廳第四四号　違警罪即決例取扱手續

全年十二月二日　警部長達乙第四五五号　書類送達書樣式

全十九年七月廿七日　本縣甲第八六号　本縣違警罪目

全廿二年七月廿六日　警部長達第五九号　違警罪即決例中管轄區域ノ件

全年七月十八日　保第五六五号　違警罪目第五條第五項ハ往來頻繁ノケ所ニ適方

全廿三年十一月四日　保第七八八号　違警罪即決署長ニ於テ自ラ取扱方

全年十二月九日　警部長達保第八五七号　檢事ノ受ケタル違警罪處分方

全廿六年七月廿五日　保第二九七号ノ一　官公吏告發違警罪處分ノ件

全廿八年一月八日　保第七一号　違警罪即決取調表

全年八月廿三日　保第二六八九号ノ一　違警罪即決處分ニ服セス正式裁判請求者申報方

違警罪即決例取扱手續別紙ノ通相定メ候條此旨相達候事

（別紙）

違警罪即決例取扱手續

第一條　違警罪即決處分ハ警察署長及ヒ分署長其警察署又ハ分署ニ於テ行フモノトス

第二條　警察署長及ヒ分署長ニ於テ事故アルトキハ臨時該署長ノ意見ヲ以テ警部補代理巡査以上ノ者ニ代理セシムルコトヲ得

第三條　警察官吏職務ヲ行フニ際リ違警罪アリト認知シタルトキハ直チニ被告人ノ住所氏名年齢身分職業及ヒ罪トナル可キ事實犯罪ノ場所年月日時等ヲ記載シタル書面ヲ作リ証憑ヲ添ヘ警察署長又ハ分署長ニ告發スヘシ若シ氏名住所不分明ニシテ逃亡又ハ証據湮滅ノ恐レアル者ハ警察署又ハ分署ニ引致スルコトヲ得此場合ニ於テハ口頭ヲ以テ告發スルモ妨ケナシ

第四條　告訴告發ヲ受ケタル警察署長及ヒ分署長ハ事實ヲ訊問シ証憑ヲ取調ヘ直チニ言渡ヲナスヘシ

犯罪ノ証憑充分ト認メタル場合ニ於テハ被告人ヲ呼出スコトナク又ハ呼出ニ應セサルトキハ直チニ即決言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

第五條　即決言渡書ノ謄本ヲ被告人ニ送達スルトキハ送達書ヲ作リ本人ニ渡スヘシ若シ本人ニ渡ス可キヲ得サル場合ハ仝居ノ親族又ハ其雇人ニ渡スヘシ

送達人ハ送達狀ヲ受領シタル本人又ハ仝居ノ親族雇人ヲシテ其送達書ニ署名捺印セシムヘシ

若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記スヘシ

若シ事故アリテ送達スルコトヲ得サルトキハ其地ヲ管理スル戸長ニ囑託スヘシ

送達人ハ本條ノ手續ヲ結了シ送達書ヲ差出シタル署ニ還納スヘシ警察署又ハ分署ハ送達ノ証トシテ之ヲ保存スヘシ

第六條　言渡書ヲ送達スルニハ費用ヲ要セサル樣附屬小使等ヲシテ便宜之ヲ行ハシムヘシ

第七條　被告人ヲ呼出ス時モ亦前條ノ例ニ倣フヘシ

但事實止ムヲ得サル場合ニ限リ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テスルモ妨ケナシ

第八條　正當ノ事實ナク前條呼出ニ應セサル者ハ直チニ引致スヘシ

第九條　即決言渡書ハ左ノ書式ニ倣ヒ之ヲ作ルヘシ

即決言渡書

何府
縣何郡
市何町
村大字何々何番邸身分職業（寄留地ナレ）
（ハ其地名）

氏名

年齢

右ハ何年何月何日時何地ニ於テ何々ヲ犯シタル者ニシテ其証憑ハ（巡査ノ告發書）（被告ノ自白）（何々ノ証據物件）ニ依リ十分ナリトス依テ刑法（本縣違警罪）第何條ニ照シテ（拘留何日科料何圓）ニ處スル者也

（参照）明治十八年九月廿四日　布告第三一号

○知事達廳第四十四號　十八年十一月二十五日　警察本署　警察分署

違警罪即決例

但此言渡ニ對シテハ正式ノ裁判ヲ請求スルヿヲ得其期限ハ三日内(或ハ五日内)トス

明治　年　署
印　月　日　於岡山縣何警察署(分署)　官氏名　印

第十條　被告人正式ノ裁判ヲ請求シタルトキハ卽決ノ言渡ヲナシタル警察官ハ之ニ干預ス可カラス

第十一條　被告人他ノ管轄地内ニアルトキハ時宜ニヨリ書類送達又ハ刑ノ執行等處分ノ一部ヲ其所轄警察官署ニ囑託スルヿヲ得

第十二條　仮納金若クハ保証金ヲ出シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタルヿヲ証明シタルトキハ仮納金又ハ保証金ヲ還付スヘシ

第十三條　本例第九條第十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ留置スルトキハ警察署又ハ分署ノ留置場ニ於テ他囚ト別異スヘシ

第十四條　拘留ノ言渡ヲナシ確定シタル者ハ警察署ノ留置場又ハ其所在ノ地ノ監獄署ニ送致シ分署ハ該署ノ留置場ニ入レ他囚ト別異シ本刑ヲ執行スヘシ

(沿革)●明治十九年一月廳第二十五號ヲ以テ客年廳第四十四號違警罪卽決例取扱手續第六條第七條ヲ改正ス

○警部長達乙第四五五号　十八年十二月二日　警察署

今般廳第四十四号ヲ以テ違警罪卽決例取扱手續キ被達候處同洌第五條ニ依リ送達スヘキ書類ノ送達書別紙樣式ニ標準製調可致此段相達候事

(用紙半紙半切)

送達書

一違警罪卽決言渡書　一通

右雇夫ヲ以テ何府縣何郡區何町村何番地何某ニ送達スル者也

明治　年　月　日

署
印

受取人ノ記名捺印若シ能ハサルトキハ其理由	
送達シタル場所	
同年月日時	
親屬雇人戸長ニ渡シタルトキハ其理由	

右正ニ送達致候者也

何署雇夫

記名捺印

○警部長達内第四八六号　十八年十二月十九日　警察署

違警罪卽決法ハ鄭重ナル手續ヲ省キ最モ簡易ノ捷路ニ就テ被告人ノ便益ヲ謀ルモノニ外ナラサルヲ以テ其儀ハ今更贅スルニ及ハスト雖モ或ハ正式裁判ヲ求ムルノ際ニ於テ証憑書類ノ完備セサルハ不都合ナランヿノ考ヨリ故ラニ鄭重ノ調書ヲ作リ其他書類ヲ蒐集スルニ繁冗ノ手數ヲ煩ス樣ノ儀有之候テハ徒ラニ延滯ノ弊患ヲ感スルノミニシテ其實益モ無之畢竟注意ノ失厚ニシテ卽決法ノ精神ニ悖戻致次第ニ候條右樣ノ儀ハ兼テ心得モ可有之候得共其筋ノ照會モ有之爲念此段内達候事

○本縣甲第八拾六號　十九年七月廿七日

明治十六年九月當縣甲第七拾三號布達違警罪目別冊之通改定ス

右布達ス

（別冊）

違警罪目

第一條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一　銃砲射的場及ヒ演習取締規則ニ違背シタル者

二　墓地及埋葬取締規則及仝細則ニ違背シタル者

三　削除

四　削除

五　削除

六　官許ヲ得スシテ破裂質ノ物品ヲ用ヒ魚鳥獸類ヲ捕ヘ又ハ遊戲ヲ爲ス者

七　期限外砂鐵採取ノ業ヲ爲ス者

八　官許ヲ得スシテ海川池沼溝渠等ヲ埋ムルカ又ハ所持スル者

九　官許ヲ得スシテ調劑シタル藥品ヲ他人ニ授與シタル者

十　紙幣ニ擬ラハシキ印刷物ヲ製造販賣授受又ハ所持スル者

十一　物主ノ族籍住所氏名ヲ詐稱シ典賣品ノ取次ヲ爲シタル者

第二條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一　無鑑札若クハ無免許ニテ地方稅ニ關スル營業ヲ爲ス者

二　旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者

五　屬籍身分氏名年齡職業等ヲ詐稱シ容塵ニ投宿シ又ハ乘船シタル者

六　官許ヲ得スシテ水剖漁簀水車等ヲ設ケタル者

七　食用ノ爲メ生河豚ヲ販賣シ又ハ之レヲ授與シタル者

八　錙ニ已未決ノ囚徒ニ飲食物其他ノ物品ヲ與ヘタル者

九　鍼灸術營業取締規則ニ違背シタル者

十　無鑑札ニテ入齒々拔口中療治接骨ノ業ヲ營ム者

十一　削除

第三條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一　官廳ノ認可ヲ與ヘタル組合規約ニ加入セスシテ營業スル者

二　布達ヲ以テ定メタル諸營業ノ看板又ハ標札ヲ揭ケサル者

三　布達ヲ以テ禁止又ハ停止シタル事項ニ違背シタル者

四　官許ヲ得スシテ摺付木ヲ製造スル者

五　健康ヲ害スヘキモノ又ハ山椒若クハ莨葎其他魚類ニ有毒ノ物質ヲ用ヒテ漁獵スル者

六　家畜（牛馬鷄犬羊豚ノ類）傳染病ニ罹リタルヲ速ニ屆出サル者

七　醫師中毒患者ヲ診斷シ速ニ其報告ヲ爲サヽル者

八　水除又ハ水量杭測量標等ノ類ヲ毀損シタル者

九　道路堤防又ハ砂止ノ土石芝草等ヲ堀取ル者

十　他人ノ採藻場物干場獵漁場秣場又ハ肥草場等ニ妨害ナナス者
十一　官ノ督促ヲ受ケ路傍ノ厠圂塵溜等ノ掃除及修繕ナナサヽル者
十二　官許ヲ得スシテ神祠佛堂遙拜所等ヲ新設又ハ廢合シタル者
十三　神佛ノ祭事其他事故ニ托シ故ナク出費ヲ促ス者
十四　新聞紙類ヲ讀賣スル者
十五　埋藏セシ死牛馬等ヲ堀取ル者
十六　他人ノ婚姻祝儀等ニ際シ妨害ヲ爲ス者
十七　石灰又ハ輕石等ヲ混用シテ搗キタル穀類ヲ販賣シタル者
第四條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
一　削　除
二　官許ヲ得スシテ官有ノ地所ヲ使用シ又ハ其地形ヲ變スル者
三　官許ヲ得スシテ道錢橋錢渡船賃等ヲ請求シタル者
四　土砂瓦石塵芥汚穢物ノ類ヲ河川池沼溝渠等ヘ投棄スル者
五　官許ヲ得スシテ社寺ヲ變更シ又ハ修繕等ノ爲メ境內ノ竹木ヲ伐採シタル者
六　強テ物品ノ施與ヲ乞ヒ又ハ賣買スル者ニ袒楊スル者
第五條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
一　禁制ノ榜示ヲ犯シ又ハ之ヲ毀損シタル者
二　本貫身分氏名ヲ門戶ニ揭標セサル者
四　削　除
五　道路店頭其他見透ノ場所ニテ裸體又ハ

六　制止ヲ肯セス男ニシテ女粧シ女ニシテ男粧シ其他奇怪ノ粧飾ヲナシ路上ヲ徘徊スル者

○警部長達第五九號　　廿二年七月廿六日　　警察署長　警察分署長

明治十八年九月第三十一號布告違警罪即決例第一條中其管轄云々トアルハ法律上ノ裁判管轄ヲ指示シタルモノヽ如ク迷疑ヲ生スル向キ有之趣右即決例中ノ管轄云々トハ警察官衙ニ於テ處分スヘキ管區ノ境域ヲ示サレシ義ニシテ裁判管轄ノ如キハ治罪法第四十九條ニ明定セラルヽ所ニ從フヘキモノナルヲ以テ刑法第九十三條ニ該當スル再犯加重ノ場合ノ如キハ警察管區ニ拘ラス正式裁判ヲ爲スヘキ違警罪裁判所ノ管轄區域ニ據ルヘキモノトス

右訓示ス

○警部長訓示保第五六号　　廿三年七月十八日　　（各署長宛）

明治十九年七月本縣甲第八十六号布達違警罪目第五條第五項ハ往來頻繁風俗上ノ關係ヲ有スル場所ノ外僻地又ハ海上等ニ適用スヘキモノニアラズト心得ラルヘシ

右訓示ス

○警部長達保第七八八號　　廿三年十一月四日　　（各署長宛）

違警罪犯ハ輕微ニ係ルモノト雖トモ人權ニ關スルヲ以テ其取調上最モ鄭重ヲ要シ署長自ラ取調ヘ

之レガ裁判モ亦自ラ爲スベキハ勿論ト雖トモ若シ署長不在若クハ万不得止代理官ニ於テ處分シタルトキハ渾テ其裁判ヲ爲シタル代理者ノ氏名ヲ署スベキ義ト心得ラルベシ

右訓示ス

○警部長達保第八五七號　廿三年十二月九日

（各署長宛）

違警罪告發事件ニ付別紙之通刑事局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルベシ

右通達ス

（別紙）

司法省刑甲第二八六號

別紙甲號ノ通リ大分地方裁判所長代理判事多田吉甄ヨリ問合有之乙號ノ通及回答候ニ付長官ノ命ニ依リ爲御心得此段及通牒候也

明治廿三年十二月二日

司法省刑事局長河津祐之

各裁判所
廳府縣　鉄道廳東京府ヲ除ク
御中

（別紙）甲號

刑事訴訟法第五拾二條ニ依リ檢事ノ受タル告發ニシテ違警罪ナルトキハ即決例ニ據ル爲メ更ニ警察ヘ送致シ得ルヤ仝第六拾三條ニハ其裁判所ヘ起訴スヘキトアルカラハ告發者ノ如何ニテ即決シ得ルト否トノ別ナク來シ仝犯罪ニシテ權衡ナ得ス差掛タル件アリ直ク回答ナ待ツ

大分地方裁判所長代理
判事　多田吉甄

乙號

明治二十三年十月十九日電信問合違警罪告發取扱ノ件ハ檢事告發ナ受タルトキハ刑事訴訟法第六拾二條及第六拾三條ニ依リ取扱フヘキモノト考量ス

明治廿三年十一月廿四日

司法省刑事局長河津祐之

大分地方裁判所長代理
判事　多田吉甄　殿

○警部長達保第二九七号ノ二　廿六年七月廿五日

（各警察署長宛）

官吏公吏ノ告發ニ係ル違警罪處分ノ件ニ付曾テ岡山地方裁判所檢事正ヘ及協議置キ候處今般別紙ノ通リ回答有之候條其旨心得ラルヘシ

（別紙）

官吏又ハ公吏ノ告發ニ係ル違警罪處分ノ件ニ付過日一應回報致置候處右ハ御稟議ノ通リ司法警察署ニ於テ即決處分致シ可然候條其旨各警察署長ヘ内訓相成度此段及回答候也

○警部長達保第七一号　廿八年一月八日

本年一月以降違警罪即決言渡総数及正式裁判ヲ請求セシ者ニ對シ毎半年分取纏メ翌月（一月七月）五日限リ左記表式ニ依リ報告セラルベシ

（各署長宛）

明治廿八年自一月至六月（七月至十二月）違警罪即決取調表				
	件数	人員	無罪	有罪
違警罪即決言渡	六	一〇	一	九
仝上ノ内正式裁判ヲ請求セシ	二	三	一	三

備考

正式裁判ヲ以テ本件違警罪目第何條ニ依リ科料何圓シタルヲ請求セシハ何村某々ノ何名ニシテ何々裁判所ニ於テ判決スル其結果無罪又ハ前言渡ヲ認可セラルヽト記スルノ類シタルヲ不當トシ正式裁判ヲ求メ何々

年月日

岡山縣警察部

何警察署（分署）

御中

○警部長達保第三六九号ノ一　廿八年八月廿三日

自今違警罪即決處分ニ服セス正式裁判請求申立ヲナスモノ有之節ハ該一件記錄及即決言渡書謄本ヲ付シ速カニ報告シ其正式裁判確定ノ上ハ宣告書謄本ヲ請求シ其結果ヲ申報セラルヘシ

（各署長宛）

○布告第三十一号　十八年九月二十四日

明治十四年九月第四十四号布告及ヒ同年十二月第八十號布告ヲ廢シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉　勅宣布告候事

（別紙）

違警罪即決例

第一條　警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖ニ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限

ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ打算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ打算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サヽル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ打算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第八篇　司法警察

第三章　刑事訴訟

第一節　司法警察官執務心得定メラレタル旨達

明治廿六年十月七日　知事達　警第二四号　司法警察官執務手續

全　廿九年十二月廿六日　警部長達　保第二八五号ノ二　郵便遞送人集配人犯罪ノ節郵便物處分方

全　十八年七月二十日　警部長達　丙第二八八号　犯罪事件檢證ノ節採圖方

全　廿一年十一月廿九日　警部長達　第一六九号　國事犯其他發見ノ節檢事ヘ報告方

全　廿二年三月十四日　知事訓令第七号　司法警察ニ關スル報告事件及嚴戒放免ノ件

全　廿四年十二月十八日　警部長訓令　警訓第一二二号　森林犯罪人取扱方

全　廿五年四月二十日　警訓第七〇号ノ二　稅則違犯者發見ノ節處分方

全　廿六年四月七日　保安課長通知　保第五五号　駐在巡査告發書ニ官印押捺ノ件

全　廿七年五月十五日　保第二九〇号ノ三　警部長達　刑事被告人取扱方ノ件

全　年十月十九日　保第四八四号ノ一

明治廿七年五月廿六日　警務課長通知　警第一三九九号　司法事務取扱巡査（第一篇第三章第一節任免ノ部ニアリ）
仝　廿八年四月十日　仝　警第九六五号ノ一　居住所駐在所詰巡査轉所ノ節撿事ヘ報告方（仝上）
仝　年四月六日　仝　保第一二四九号　水上警察署ニテ逮捕シタル犯人引受タル節ハ裁判結果通知方
仝　年九月廿五日　警部長達　保第二九二〇号ノ一　撿事ヘ急報電報畧符合
仝　廿九年八月八日　仝　保第二二三一号　刑事被告人待遇ノ件
（參照）仝　廿八年二月廿七日　香川縣知事　伺　司法警察官臨撿ノ節立會人ノ件

○知事達警第二四号　廿六年十月七日

警察部　警察署
警察分署　巡査教習所

司法警察官執務心得別冊之通相定メラレ候條此旨心得ベシ
（別冊略之）

○警部長達保第二六五〇號ノ一　二十九年十二月廿六日

各署

嚮ニ岡山地方裁判所山根檢事正ヨリ訓令ニ係ル司法警察官執務手續ハ可成其署經費ノ内ヲ以テ支辨シ各署一齊ニ期日ヨリ實施候樣致サルヘシ（別冊ニ出ス）
但シ本手續施行ニ付自然經費ニ不足ヲ生シ無止增額ヲ要スルニ於テハ事情ヲ具シ速ニ增額ヲ請求セラルヘシ

目次

事件報告　自第一條　至第十一條
捜査　自第十二條　至第十七條
假豫審　自第十八條　至第二十五條
事件送致　自第二十六條　至第四十二條
令狀執行　自第四十三條　至第五十七條

附錄

第一號　犯罪事件報告表
第二號　違警罪事件報告表
第三號　逮捕事件報告表
第四號　告訴（告發）調査
第五號　報知書
第六號　檢證調書
第七號　鑑定人調書

第八號　被告人訊問調書
第九號　逃捕及告發（告訴）調書
第十號　書類目錄
第十一號　事件送知書
第十二號　意見書
第十三號　證據金品目錄
第十四號　被告人不分明捜査中ノ物品原簿
第十五號　逃捕狀人名見出簿
第十六號　告發書
第十七號　證人（參考人）訊問調書
第十八號　家宅捜索書
第十九號　自首調書
第二十號　聽取書
第廿一號　實況見分書

司法警察官執務手續

事件報告

第一條　左ノ犯罪ハ檢事正及所轄檢事ニ即時報告スヘシ但シ緩急ヲ量リ電話電報郵便又ハ特使ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

一　刑法第二編第一章第二章及ヒ第三章第一節ノ犯罪

二　官吏、公吏、華族、有位、帶勳叙功者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪

三　外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對スル犯罪

四　官印官文書僞造ニ關スル重罪

五　貨幣僞造ニ關スル重罪

六　人命ニ關スル犯罪

七　姦淫ニ關スル重罪

八　放火決水及ヒ船舶ヲ覆沒シ瀧車ノ往來ヲ妨害スル重罪

九　決鬪ニ關スル犯罪

十　阿片煙草ニ關スル犯罪

十一　竊盜詐欺取財等賍額百圓以上ノ犯罪

十二　議場內ニ於ケル議員ノ犯罪及ヒ議員ニ對スル犯罪

十三　議員撰擧ニ關スル犯罪

十四　强盜及ヒ持兇器竊盜犯罪

十五　保安條例及ヒ集會政社法ニ關スル犯罪

十六　政黨上ニ關スル犯罪

十七　爆發物取締罰則ニ關スル犯罪

十八　前數項ノ外公衆ノ耳目ヲ惹クヘキ重要ナル犯罪

右第十二項乃至第十七項ノ犯罪ト雖モ輕微ニシテ公衆ノ耳目ヲ惹クニ足ラサルモノハ即時報告ノ限ニ在ラス

第二條　報告ニ必要ナル事項ハ概ヲ左ノ如シ

一　犯罪事實ノ概要

二　犯罪ノ日時場所
三　現行又ハ非現行
四　被害者及ヒ被告人ノ氏名若シ知レサルトキハ其旨
五　被告人就捕又ハ未就捕
六　臨檢ノ要否
七　醫師同行ノ要否
八　解剖ノ要否
九　參考トナルヘキ事項

第三條　刑事被告人又ハ已決囚徒護送ノ途中逃走シタルトキハ逃走ノ地ヲ管轄スル檢事局ニ即時報告スヘシ

但被告人又ハ已決囚徒ヲ發送シタル地及ヒ交付ヲ受クヘキ地ノ檢事局ニモ通報スヘシ

第四條　即時報告ヲ爲シタル後犯人ヲ逃捕シ又ハ犯人ノ誰タルコトヲ知リタルトキ又ハ搜查ノ續行ヲ要セサルモノト思料シタルトキハ其官速ニ所轄檢事ニ報告ス可シ

第五條　左ノ事件ハ被告人ノ分明ナラサル場合ニ於テ搜查ノ經過ヲ所轄檢事ニ報告スヘシ

一　即時報告ニ係ル犯罪
二　貨幣僞造ニ關スル輕罪
三　竊盜詐欺取財等贓額五拾圓以上ノ輕罪

但貴重ノ物品ニシテ價額ニ拘ラサルモノモ之ニ準ス

四　第一條ニ揭ケサル重罪
五　檢事ヨリ特ニ搜查ヲ命シタル犯罪

第六條　前條事件ハ事ノ發覺後十五日內ニ被告人ノ誰タルヲ知ル能ハサルトキ又ハ附後猶知レサルトキハ犯罪ノ日ヨリ起算シ公訴時効期限ニ至ルマテ一年毎ニ最終ハ時効滿了ニ至ル三ケ月前ニ搜查書ヲ添ヘ所轄檢事ニ報告スヘシ

但最終報告ノ場合ニ於テ記錄アルモノハ之ヲ差出スヘシ

第七條　被告人分明ナラサル場合ニ於テ證憑物件ヲ收得シタルトキハ搜查ノ用ニ供スルタメ公訴時効期間之ヲ保管スヘシ

第八條　第五條以外ノ輕罪事件ハ附錄第一號表ヲ作リ毎翌月十日マテニ所轄檢事局ニ差出スヘシ

第九條　檢事局ニ於テ起訴ノ手續ヲ爲サス又ハ豫審ニ於テ證憑不充分ノ事由ニ依リ免訴トナリ又ハ公判ニ於テ人違ノ理由ヲ以テ無罪ノ判決アリタル事件ニ付キ更ニ犯人若ク ハ新證憑搜查ノ指揮ヲ受ケタルトキハ新事件ト見做シ再ヒ第六條ノ手續ヲナスヘシ

第十條　違警罪事件ハ附錄第二號表ヲ作リ毎翌月十日迄ニ所轄區裁判所檢事局ニ差出ス可シ

第十一條　被告人ヲ逮捕シタル犯罪事件ハ附錄第三號表ヲ作リ毎翌月十日迄ニ所轄檢事局ニ差出ス可シ

搜查

第十二條　盜難其他財產ニ對スル犯罪ノ訴ヲ受ケタルトキハ被疑者ノ有無及家屋ノ內外幷ニ見積贓額ヲ記載セシムル可シ

踰越損壞又ハ鎖鑰ヲ開キ又ハ二人以上ナル等法律上加重ノ情狀アルトキハ之ヲ記載セシムヘシ

但告訴告發調書ヲ作ルトキ亦同シ（附錄第四號）

第十三條　盜難其他家宅侵入罪等ノ訴アリタル場合ハ可成現場ニ臨ミ見分スルヲ要ス

第十四條　自首書告訴告發書始末書等ニシテ代書ニ係ルトキハ本人ノ陳述ヲ筆記シタルコト及本人ニ讀聞セタルコトヲ附記セシメ代書者ヲシテ之ニ連印セシムヘシ

第十五條　告訴告發其他ノ原由ニ依リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ證人被告人等ヲ取調ヘ其他證憑ヲ蒐集シ可成起訴ノ資料ヲ具備スルヲ要ス但取調ノ爲メ却テ犯人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ此限ニアラス（司法警察官執務心得第四十三條參看）

急速ヲ要スル事件ハ先ツ之ヲ檢事ニ送致シ引續キ捜査ヲ爲シ其旨送致書ニ記載シ證憑ハ得ルニ隨テ追送スヘシ

第十六條　報知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テスヘシト雖モ時宜ニ因リ巡査ヲシテ本人ノ承諾ヲ得テ同行セシムルコトヲ得（附錄第五號）

第十七條　禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ非現行ノ犯人ニシテ逃走又ハ證據湮滅ノ虞アルモノハ承諾ニ因リ巡査ヲシテ同行セシムルコトヲ得

同行ヲ肯セサルカ又ハ同行シ難キ犯人ニシテ身躰ノ拘束ヲ必要トスルトキハ事件ノ送致ト共ニ檢事ニ令狀ヲ請求スヘシ但緊急ヲ要スル場合ハ電話電報又ハ書面若クハ巡査ヲ以テ事件ノ要領ヲ報告シ令狀ヲ請求スルコトヲ得

假豫審

第十八條　現行犯事件ニ付テハ臨檢ヲナサストト雖トモ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第十九條　檢證ニ着手シタル後檢事又ハ豫審判事ノ臨檢ヲ必要ト思料シタルトキハ其旨檢事ニ急報シ自ラ檢證ヲ結了シタルト否トヲ問ハス可成現形ヲ保存シ置クヘシ（附錄第六號）

第二十條　毆打創傷ノ事件ニ付テハ其創傷毎ニ結果疾病休業ニ至ルヘキヤ否ヲ檢視スヘシ若シ其結果豫定シ難キトキハ其旨ヲ調書ニ記載スヘシ

鑑定人ヲシテ鑑定セシムルトキモ亦同シ（附錄第七號）

第二十一條　犯罪ノ摸樣ニ依リ人躰圖及場所ノ位置事物ノ形狀等ヲ詳記シタル圖面ヲ作成スヘシ

第二十二條　被告人ヲ取調フルトキハ司法警察官執務心得第百十條ノ外左ノ事項ヲ訊問スヘシ（附錄第八號）

一　戸主ナルヤ否若シ非戸主ナルトキハ戸主ト身分ノ關係

二　父母兄弟等ノ氏名

三　養子女又ハ既婚婦ナルトキハ其實家ノ氏名

第二十三條　被告人ノ摸樣ニ依リ原籍氏名ヲ詐稱シ又ハ前科隱蔽ノ疑アル場合ハ父母兄弟妻子若クハ隣佑隣町村等ヲ取調フヘシ本籍ト住所ト異ナル被告人ニ對シテハ犯罪當時ノ居所ヲ取調フヘシ

第二十四條　被告人ヲ取調フルニ方リ他ノ警察署（分署）管内ニ於テ監視執行中ノモノナルコトヲ發見シタルトキハ他ノ犯罪事件ニ因リ取調ニ着手シタルコトヲ所轄警察署（分署）ヘ通知シ且監視規則ニ違犯シタルモノナルトキハ直ニ書類ヲ所轄檢事ニ送付スヘキコトヲ照會シ其旨ヲ送致書ニ附記スヘシ

第二十五條　刑事訴訟法第五十九條ノ場合ニ於テハ逃捕ノ日時場所事由其他必要ノ狀況ヲ申立シメ若シ引致手續書ヲ差出シタルトキハ之ヲ記載セシムヘシ（附錄第九號）

事件送致

第二十六條　被告事件ヲ檢事局ニ送致スルトキハ一件記錄ノ目錄及ヒ意見書送致書ヲ添フヘシ記錄ハ之ヲ受付ケ又ハ作成ノ順次之ヲ編纂シ每葉丁數ヲ附シ目錄ニ記載スヘシ（附錄第十、第十一、第十二號）丁數ハ一二三ノ順ヲ以テ文書ノ上欄外左傍ニ記シ各文書ノ初丁ニ記シタル數字ヲ目

錄丁數欄ニ記入スヘシ

第二十七條　公ニスヘカラサル探偵報告書ノ類ハ目錄ニ登記セス別封ト爲シ秘密ノ二字ヲ表記スヘシ

第二十八條　事件毎ニ被告人ノ原籍調書ヲ添フヘシ但市町村役場ニ照會中ナルトキハ其旨ヲ送致書ニ附記スヘシ

第二十九條　被告人前科アリ又ハ前科アルヘシト思料シタルトキハ其事件ヲ送致スヘキ檢事局ニ若シ照會ノ爲メ被告人逃走又ハ證據湮滅ノ虞アルトキハ之ヲ止メ其旨ヲ送致書ニ附記スヘシ

第二十九條　被告人前科アリ又ハ前科アルヘシト思料シタルトキハ其事件ヲ送致スヘキ檢事局ニ前科調書ヲ回送スヘキ旨在籍地ノ地方裁判所檢事局ニ照會シ其旨ヲ送致書ニ附記スヘシ

第三十條　犯罪ノ事實相牽連スルモ記錄ヲ別件ト爲ストキハ各送致書ニ其旨ヲ附記スヘシ但管轄ヲ異ニスルトキハ一方ニ證憑書類ノ謄本ヲ添付スヘシ

第三十一條　禁錮以上ノ刑ニ該ル被告人逃走シ其記錄ノミヲ檢事局ニ送致スルトキハ被告人ノ人相書ヲ添付スヘシ

第三十二條　重罪又ハ重要ナル輕罪事件ハ被告人ノ誰タルヲ知ル能ハスト雖トモ證憑ノ搜査充分ナリト思料スルトキハ之ヲ檢事ニ送致スヘシ但被告人ノ搜査ニ付テハ尙第五條第六條ノ手續ヲ爲スヘシ其他ノ輕罪事件ニシテ告訴告發ニ係ラサルモノハ之ヲ保管シ搜査スヘシ

第三十三條　輕微ナル事件若クハ幼者ノ犯罪ニシテ懲罰ノ必要ナシト思料スルトキハ釋放シテ其旨ヲ意見書ニ附記シ書類ノミ檢事ニ送致スヘシ（附錄第十二號）

第三十四條　事件送致ノ後其關係書類ヲ追送スルトキハ本件送付ノ月日罪名被告人ノ氏名ヲ附記スヘシ

第三十五條　證據物件ニハ小札ニ被告人ノ氏名（氏名不分明ナルモノハ差出人ノ氏名）及目錄ニ記シタル番號ヲ記スヘシ（附錄第十三號）

證據物件ヲ書類ト共ニ送致セサルトキハ其旨ヲ送致書ニ附記スヘシ

證書書翰等ハ記錄ニ編綴セス別封トナシ證憑ノ二字ヲ表記ス可シ

第三十六條　差押又ハ領置シタル物件ノ價格些少ナルカ又ハ無價ナルトキハ他日還付ヲ望ムヤ否ヲ物主ニ問ヒ書面ニ記載シ目錄ニ其旨ヲ附記スヘシ（附錄第十三號）

第三十七條　犯人ノ置去品ニシテ其誰タルコトヲ捜索スルノ資料トナルヘキモノハ之ヲ差押又ハ領置スヘシ（附錄第十四號）

第三十八條　被害者及ヒ被告人不明ナルトキハ檢事局ニ送致ヲ要セスト思量スル物件ニシテ腐敗等ノ虞アルモノハ適宜賣却シテ代金ヲ保管シ其旨證據品錄ニ附記スヘシ（附錄第十三號）

第三十九條　公商ニ因ルト否トヲ問ハス賍物轉輾シテ他人ノ手ニ現存シ熟談返還シタルトキハ連署又ハ各別ノ書面ヲ徵シ記錄ニ添付スヘシ

又一方ヨリ差出シタル書面ノ紙尾ニ他ノ一方ナシテ承諾ノ旨ヲ追書シ署名捺印セシムルモ妨ナシ

第四十條　運搬ニ不便ナル證據物件ハ其品質尺積數量形狀等ヲ詳記シタル書面ヲ一件記錄ニ添付シ現品ハ之ヲ保管シ又ハ便宜保管セシムヘシ

動植物ハ物主ニ保管セシムヘシ若シ物主知レサルトキハ便宜保管ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十一條　假豫審ニ於テ差押又ハ搜查上領置シタル物件ト雖モ檢事局ニ送致ヲ要セサルモノト認ムルトキハ所持者（被告人ヲ除ク）ニ保管セシメ請書ヲ徵スヘシ

第四十二條　被告人不分明ノ事件ニ係ル置去品又ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件其他保存ヲ要スヘキ

モノハ附錄第十四號ノ帳簿ニ記載スヘシ但時効ヲ經タルトキハ所有者ニ還付シ所有者ナキトキハ遺失物ト同ク處分スヘシ

令狀執行

第四十三條　勾引狀勾留狀ハ別段ノ理由アルモノヽ外執行指揮書ヲ添付セス令狀ニ檢事ノ捺印アルヲ以テ執行指揮ノ證トス但出張先等ニテ判事ヨリ直接ニ交付シタルモノハ此限ニアラス

第四十四條　令狀執行ノ指揮ヲ受ケ十日間ニ執行シ得サルトキハ搜查報告書ヲ添ヘ令狀ヲ返戻スヘシ但執行ノ見込アル時ハ令狀ヲ留置キ其旨報告スヘシ

第四十五條　令狀ハ返戻シタル後被告人ノ所在ヲ發見シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第四十六條　被告人ノ所在其所轄外ト雖トモ同地方裁判所管內ナルトキハ其所轄官署ニ令狀ヲ送致シテ執行ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ指揮ヲ爲シタル檢事ニ急報スヘシ

第四十七條　時機緊急ヲ要スルトキハ他管檢事ヨリ直ニ令狀ヲ送付シテ執行セシムルコトアルヘシ

第四十八條　第四十六條第二項及第四十七條ノ場合ニ於テ其地ノ司法警察官ハ所轄檢事ノ指揮アリタルモノトシテ之ヲ執行スヘシ其執行ヲ爲シタルトキハ直ニ所轄檢事ニ報告スヘシ

第四十九條　逮捕狀執行ノ指揮ヲ受ケ三十日內ニ執行シ得サルトキハ一應搜查ノ顚末ヲ報告シ爾後猶執行シ能ハサルトキハ逮捕狀發付ノ日ヨリ起算シ滿一年毎ニ搜查ノ顚末ヲ報告スヘシ但刑ノ時効期限ノ二月前ヲ以テ最終ノ報告トス

第五十條　前條ノ報告ヲ爲スヘキ警察署分署又ハ憲兵各部ハ檢事局ニ於テ之ヲ指定ス

第五十一條　逮捕狀ニ付テモ亦第四十六條乃至第四十八條ヲ適用ス

前項ノ逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其地ノ檢事ニ送致スヘシ

第五十二條　逮捕スヘキ者本籍又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第五十三條　逮捕スヘキ者他ノ犯罪ニ依リ逮捕セラレ又ハ死亡其他ノ事故ニ依リ逮捕ヲ要セサルトキハ直ニ報告スヘシ但死亡シタルトキハ市町村長ノ證明書ヲ添フヘシ

第五十四條　各警察署分署又ハ憲兵各部ニ於テハ逮捕人名見出簿ヲ調製シ置クヘシ（附錄第十五號）

第五十五條　逮捕狀ハ左ノ三種ニ區別シテ編綴スヘシ

甲　各警察署分署又ハ憲兵各部內在籍者

乙　管內ニテ罪ヲ犯シタル他管在籍又ハ無籍者

丙　甲乙以外ノ者

第五十六條　取消ノ通知アリタル逮捕狀ハ直ニ返戻スヘシ

注意

第五十七條　此手續ノ附錄（第一號乃至第二十一號）ハ刑事訴訟法及司法警察官執務心得ニ從ヒ實際ニ應用スル場合ニ於テ書例ヲ示スモノナリ因テ每號依遵ス可キ箇條ヲ揭ケ參照ニ便ス

附錄第一號　（用紙半紙）

明治　年　月犯罪事件報告表

某警察署
憲兵部

進行番號	罪名	犯罪ノ年月日	犯罪ノ場所及方法	被害ノ概略	檢證行否	被害者住所氏名	行害者已知未知	備考

附錄第二號

（用紙半紙）

明治　年　月違警罪事件報告表

某警察署

附錄第三號

（用紙半紙）

明治　年　月逮捕事件報告表

某警察署
某憲兵部

罪名	件數	合計 件數	上數ノ內即決 有罪	上數ノ內即決 無罪	上數ノ內即決 免訴	正式裁判請求	備考
計							

附錄第四號

毎年進行番號	逃捕ノ月日	罪名	犯罪地管轄ノ警察署又ハ憲兵部名	犯罪ノ年月日	被害者 住所	被害者 氏名	逃捕ノ事由	備考

明治何年何月何日何郡市町村某當署ニ出頭何々ノ現行犯アルコトヲ急報ナシタルニ付何某々々ナ
率ヒ直ニ出張檢證スル左ノ如シ

一 場所ハ何所ヲ距ル何ノ方何丁許ニシテ何道線路ノ傍ナリ

一 被害者ノ摸樣云々

一 此ニ於テ先ツ被害者ノ扶助ヲ爲シ醫師何某ヲシテ鑑定ヲ爲サシメタリ

一 創傷ハ何ケ所ナリ

一 何部何々

二 何部何々

三 〃 〃

四 〃 〃

五 〃 〃

一 創傷第一乃至第三ノ場所ヲ檢スルニ何レモ何品ヲ以テ何々シタルモノト認メラレ其他第四第五ノ場所ハ何々ナリト認ム

一 被害者ヲ訊問スルニ左ノ答辯ヲナセリ

一 何々

右ノ狀況ニ依リ之ヲ觀レハ云々

一 何某ハ此日何時頃何々ノ爲メニ何々ノコトヲ認メタルニ因リ何署ヘ急報シタリト云ヘリ其事狀ハ別紙始末書ノ如シ

一 醫師ノ意見ニ依レハ被害者第二第三ノ創傷ハ尤重ク何週間以上ヲ經過セサレハ治癒シ難カラント云ヘリ尚鑑定書ハ後刻差出ス筈

一　被告人何某ノ所爲ハ刑法第何條ニ該當スル何々罪ナリト思料ス

一　現場ノ位置創傷ノ模樣ハ別紙略圖ノ如シ

一　此檢證ハ本日何時何十分ヨリ始メ何時何十分ニ終ル

一　被告人ト思料スルモノハ何方ニ向ヒ逃走ノ形跡アルヲ以テ某ヲシテ追跡セシメタリ

明治何年何月何日何郡市町村ニ於テ此檢證調書ヲ作（リ被告人又ハ證人ニ讀聞セ共ニ署名捺印ス）

但出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ用ヰル能ハス

被告人又ハ證人ヲ立會ハシメタルトキハ　官　氏　名　印
　　被告人（證人）氏名印
　　同　氏　名　印

注意

執務心得中參照スヘキ個條

第二十四條　第二十五條　第六十五條　第六十六條　第六十七條　第六十八條
第六十九條　第　七　十條　第七十一條　第七十二條　第七十三條　第七十四條
第七十五條　第七十六條　第七十七條　第七十八條　第七十九條　第　八　十條
第八十一條　第八十二條

附錄第七號

鑑定人調書

問　氏名、年齡、職業、住所ヲ申立ヨ

答　氏名ハ何々年齡ハ何々職業ハ何々住所ハ何々デアリマス

明治何年何月何日何郡市町村某當署ニ出頭何々ノ現行犯アルコトヲ急報ナシタルニ付何某々々ヲ率ヒ直ニ出張檢證スル左ノ如シ

一　場所ハ何所ヲ距ル何ノ方何丁許ニシテ何道線路ノ傍ナリ

一　被害者ノ擧措云々

一　此ニ於テ先ツ被害者ノ扶助ヲ爲シ醫師何某ナシテ鑑定ヲ爲サシメタリ

一　創傷ハ何ケ所ナリ

一　何部何々

二　何部何々

三　〃〃〃

四　〃〃〃

五　〃〃〃

一　創傷第一乃至第三ノ場所ヲ檢スルニ何レモ何品ヲ以テ何々シタルモノト認メラレ其他第四第五ノ場所ハ何々ナリト認ム

一　被害者ヲ訊問スルニ左ノ答辯ヲナセリ

一　何々

右ノ狀況ニ依リ之ヲ觀レハ云々

一　何某ハ此日何時頃何々ノ爲メニ何々ノコトヲ認メタルニ因リ何署ヘ急報シタリト云ヘリ其事狀ハ別紙始末書ノ如シ

一　醫師ノ意見ニ依レハ被害者第二第三ノ創傷ハ尤重ク何週間以上ヲ經過セサレハ治癒シ難カラントト云ヘリ尚鑑定書ハ後刻差出ス筈

一　被告人何某ノ所爲ハ刑法第何條ニ該當スル何々罪ナリト思料ス
一　現場ノ位置創傷ノ模樣ハ別紙略圖ノ如シ
二　此檢證ハ本日何時何十分ヨリ始メ何時何十分ニ終ル
一　被告人ト思料スルモノハ何方ニ向ヒ逃走ノ形跡アルヲ以テ某ヲシテ追跡セシメタリ
明治何年何月何日何郡市町村ニ於テ此檢證調書ヲ作リ被告人又ハ證人ニ讀聞セ共ニ署名捺印ス）
ル
但出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ用ヰル能ハス

被告人又ハ證人ヲ立會ハシメタルトキハ　官　氏　名　印
　　被告人（證人）氏名印
　　同　氏　名　印

注　意

執務心得中參照ス可キ個條
第二十四條　第二十五條　第六十五條　第六十六條　第六十七條　第六十八條
第六十九條　第七十條　第七十一條　第七十二條　第七十三條　第七十四條
第七十五條　第七十六條　第七十七條　第七十八條　第七十九條　第八十條
第八十一條　第八十二條

附錄第七號

鑑定人調書

問　氏名、年齡、職業、住所ヲ申立ヨ
答　氏名ハ何々年齡ハ何々職業ハ何々住所ハ何々ヂアリマス
問　被告人何某トハ親族、後見人、雇人、同居等ノ關係ハナキヤ
答　何々
問　左ノ事項ニ付鑑定書ヲ差出ス可シ
一　何某カ創傷ノ中致命若クハ癈疾ノ原因トナル可キ個所幷ニ疾病休業ノ時間疾病休業ノ時間ト全癒ノ時間トハ必ス區別ス可キコトヲ注意スヘシ
一　何々ニテ何レノ方向ヨリ負傷セシメタルモノナルヤ
一　何々
答　承知シマシタ
右讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ付署名捺印セシム
明治何年何月何日

署印

住所職業　氏　名　印
某所ニ於テ　官　氏　名　印
（必要ナル場合ニ於テハ）　立會人氏　名　印
　　同　氏　名　印

注　意

執務心得中參照ス可キ個條
第二十四條　第二十五條　第九十四條　第九十五條　第九十六條　第九十七條
第九十八條

刑事訴訟法中參照ス可キ個條
第百三十六條　第百二十三條　第百二十四條　第百二十五條

附錄第八號

被告人訊問調書

問　氏名年齡身分職業住所及ヒ出生地ヲ申立ヨ
答　何々
問　公吏議員等ニハアラサルカ
答　何々
問　位記勳章年金ヲ有セサルカ
答　何々
問　曾テ刑事ノ處分ヲ受ケタルコトハナキヤ
答　何々（前科アルトキハ罪名刑期言渡ノ年月日及裁判所名ヲ記載ス可シ）
問　何々
答　何々
問　何々
答　何々
右讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツル（モ自署スル能ハス且無印）ニ付署名（本官代署シ）捺印（拇印）セシム
明治何年何月何日

被告人　氏　名　印

署印

注意

執務心得中參照ス可キ個條
第二十四條　第二十五條　第百〇九條　第百十一條　第百十二條
第百十三條　第百十四條　第百十五條　第百十六條　第百十七條　第百十八條
第百十九條　第百二十條　第百廿一條

附錄第九號

逮捕及告發（告訴）調書

明治何年何月何日午（前後）何時巡査何某ハ本官ノ面前ニ何々現行犯事件ノ被告人何某ヲ引致シ左ノ如ク逮捕及ヒ告發（告訴）ノ申立ヲ爲ス
一何々
一何々　現行犯準現行犯ト認メタル狀況ヲ詳記スヘシ
右讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ付署名捺印セシム
明治何年何月何日

某所ニ於テ
官　氏　名　印
立會人（必要ナル場合ニ於テハ）　氏　名　印
同　氏　名　印

逮捕人氏　名　印

署印

逮捕人ヨリ其手續書ヲ差出シタルニ依リ更ニ逮捕及ヒ告發(告訴)ニ付テノ調書ヲ作ラサルトキハ其紙尾ニ左ノ如ク記載ス可シ

右逮捕及ヒ告發(告訴)ノ事實ニ付取調タル處其申立前記ノ通リ相違ナキヲ以テ之ヲ調書ニ代ヘ更ニ其ニ署名捺印ス

明治何年何月何日

逮捕人氏名印

何所ニ於テ

官氏名印

署印

注意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第二十五條　第九十九條　第百條　第百一條　第百五條　第百六條

刑事訴訟法中參照ス可キ個條

第五十六條　第五十七條　第五十八條

附錄第十號

書類目錄　一件記錄ノ初メニ綴ルヘシ

某署

文書種類　一丁數　備考

某署

官氏名印

附錄第十一號

第何號

現行犯
非現行犯　罪事件送致書

罪名(被告人數人アリテ記載事項ヲ異ニスル時ハ其氏名ノ上ニ之ヲ記載スヘシ以下各欄倣之)

法律適條

前科數

逮捕日時

勾引狀發日

戸籍調(濟又ハ何々役場へ照會シ置ク)

取調中又ハ照會中ノ項(前科ハ何裁判所へ照會セリ又ハ何々ハ取調中ニ付追テ送ル)

備考

被告人

住所身分職業

氏名

年齢

右別紙目錄之通及御送致候也

明治何年何月何日午(前)(后)何時

何々地方(區)裁判所檢事局

檢　事(正)　氏　名　㊞

注　意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第五十二條　第五十三條　第五十四條　第六十二條　第百四條

附錄第十二號

意見書

某　署

官　氏　名　印

住所身分職業

氏　名

一前科

一犯罪發覺ノ原由（原由トハ執務心得第廿七條規定ノ事故及現行非現行タルヲ記ス）

一犯罪事實（大要ヲ記ス）

一有罪無罪ヲ推定スルニ必要ナル證人ノ證言參考人陳述ノ要點及徵憑物件

右各項ニ依リ被告事件ヲ考フルニ刑法第何條ニ該當スル犯罪（又ハ犯罪ノ證憑充分ナラス又ハ犯罪ノ事實ナキヲ以テ無罪）ト思料候條意見書如此ニ候也

年　月　日

官　氏　名　印

㊞

注　意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第二十五條　第五十三條　第五十四條　第五十五條　第五十六條　第五十七條　第五十八條　第五十九條　第六十條　第六十一條　第六十二條　第六十三條　第六十四條　第九十九條　第百二條

附錄第十三號

證據金品目錄　黃色紙ヲ用フ

被告人

順番號	月日	交收品目	員數	被差押人又ハ差出人住所氏名	所有者ノ住所氏名	保管命令又ハ假下渡等

（此欄內ニ左ノ通リ記載ス可シ）

非現行犯ニ係ルトキハ

右ハ何某何々被告事件ニ付證據トシテ所有者（又ハ保管者）（又ハ被保人）ノ承諾ヲ得テ領置スルモノ也

現行犯ニ係ルトキハ

右ハ何某何々被告事件ニ付證據トシテ差押フルモノ也

告訴告發ニヨリ差出シタルトキハ

右ハ告訴（又ハ告發）人ヨリ何某何々被告事件ノ證據トシテ差出シタルニ因リ領置スルモノ也

明治何年何月何日

某所ニ於テ
官 氏 名 印

署印

注 意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條 第四十五條 第四十六條 第八十一條 第八十二條 第八十三條 第八十四條

附錄第十四號

被告人不分明搜査中ノ物品原簿

事件番號 差押又ハ領置年月日	品目	員數	犯罪時効年月日	處分ノ理由其年月日	所有者又ハ差出人氏名
二八ヘ第二號明治何年何月何日	何々	何個	明治何年何月何日	經時効ニ因リ差出人ニ還付ス明治何年何月何日	誰

附錄第十五號

氏名イロハニ依リ順次記入ス

イ

氏名	住所	罪名	刑名	判決言渡シタル年月日ル裁判所	發付年月日	編冊丁數	取消 年月日 逮捕其他	備考
				年月日			年月日	

附錄第十六號（罰金ノ刑ニ該ル現行犯ニ係ルノ例）

告發書

住所身分職業 何 某
年齡

右者明治何年何月何日午（前/後）何時何郡何村何々ニ於テ現ニ銃獵シ在ルヲ目擊シタルニ依リ鑑札ヲ檢査セントスルコトヲ求メタルニ免許ヲ受ケ居ラサル旨申立タリ（云々）

右ハ狩獵法第何條ニ違背シタルモノト認ムルニ依リ此段及告發候也

明治何年何月何日

某 署
職 氏 名 印

署印

何々裁判所檢事（正）何某殿（所屬署ヲ經由スヘシ）

注 意

刑事訴訟法中參照ス可キ個條

第五十八條

附錄第十七號

證人（參考人）訊問調書

明治何年何月何日何某何々現行犯被告事件ニ付訊問スル左ノ如シ

問　氏名年齢身分職業及住所ヲ申立ヨ

答　何々

問　被告人何某ト親屬後見人雇人同居等ノ關係ハナキヤ

答　何々

茲ニ於テ何某何々被告事件ニ付證人（參考人）トシテ訊問スル旨ヲ告ク

問　何々

答　何々

右讀聞セタルニ相違ナキ旨申立ツ（モ自署スル能ハス且無印）ニ付署名（本官代署シ）捺印（拇印）セシム

明治何年何月何日

署印

證人（參考人）氏　名　印

某所ニ於テ

（必要ナル場合ニ於テハ）官　氏　名　印

立會人氏　名　印

同　氏　名　印

注意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第二十五條　第八十五條　第八十六條　第八十七條　第八十八條

第八十九條　第九十條　第九十一條　第九十二條　第九十三條

刑事訴訟法中參照ス可キ個條

第百二十三條　第百二十四條　第百二十五條

附錄第十八號

家宅捜索書

明治何年何月何日何某何々被告事件ニ付何郡市町村何某方ニ至リ家宅ヲ捜索スル左ノ如シ

一　此家宅捜索ニハ戸主某（又ハ隣佑何某）ヲ立會ハシメタリ

一　此家宅ノ方位ハ何々ニシテ其間取ハ別紙略圖ノ如シ

一　何所々々ハ何々ノ摸樣ニシテ異狀ナシ

一　何所ヨリ左ノ物件ヲ發見シタリ

何々

何々

一　右物件ハ本件ノ證憑トシテ押收シ別紙目錄ヲ添付ス

一　此處分ハ明治何年何月何日午（前後）何時ニ始メ同日何時ニ終ル

右立會人ニ讀聞セタルニ相違ナキ旨申立ツル（モ自署スル能ハス且無印）ニ付署名（本官代署シ）捺印（拇印）セシム

但出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ用ヰル能ハス

明治何年何月何日

注　意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第二十五條　第六十五條　第六十六條　第六十七條　第六十八條　第六十九條

第七十條　第七十一條　第七十二條　第七十三條　第七十四條　第七十五條　第七十六條

第七十七條　第七十八條　第七十九條　第八十條　第八十一條　第八十二條

附錄第十九號

自首調書

何郡市町村何某方ニ於テ

官　氏　名印

立會人氏　名印

同　氏　名印

住所身分職業

氏　名

年　齡

右ノ者明治何年何月何日當署ニ出頭シ何々事件（ニ付口頭ニテ自首シタリ依テ）（自首狀ヲ差出シタルモ不明瞭ノ廉之アルニ付）取調ヲ爲スコト左ノ如シ

一　何々

一　何々

問　何々

答　云々

右讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツル（モ自署スル能ハス且無印）ニ付署名（本官代署シ）捺印（拇印）セシム

明治何年何月何日

署印

自首人氏　名印

何所ニ於テ

官　氏　名印

注　意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第二十五條　第三十九條

附錄第二十號

聽取書

住所身分職業氏名ハ（何某ノ）何事件ニ付本職ノ通知ニ依リ出頭シ（又ハ某所ニ於テ）左ノ通リ陳述ヲ爲シタリ

一　云々ハ被告人證人等ノ陳述ノミヲ記ス又事實繁雜若ク

ハ錯綜セルモノハ其陳述ヲ數項ニ分記スヘシ

明治何年何月何日

署印

某署（又ハ某所）ニ於テ

注　意

執務心得中參照ス可キ個條

（必要ナル場合ニ）官　氏　名印

（於テハ陳述者）　氏　名印

第四十七條　第四十八條

附錄第二十一號

實況見分書

明治何年何月何日何々被告事件捜査上必要ニ付何郡市町村何某方ニ至リ戸主何某（又ハ監守者何某）ノ承諾ヲ得テ何々ノ場所（物件）ノ實況ヲ見分スル左ノ如シ

一　何々場所（物件）ヲ捜査スル其實況ハ云々（左ノ物件ヲ發見シタリ）

一　何々

一　發見シタル物件ハ何々ノ痕跡アリテ何某ニ於テ何々シタルモノト認ム

物件ハ何々事件ノ證據トシテ必要ニ付何某ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置ス（若シ發見シ得サルトキハ其旨ヲ記載ス）

此見分ハ本日何時ニ始メ何時ニ終ル

但出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ用ヰル能ハス

明治何年何月何日

某所ニ於テ

官氏名印

立會人氏名印

注意

執務心得中參照ス可キ個條

第二十四條　第二十五條後段　第四十四條　第四十五條　第四十六條

○知事訓令第七號　廿二年三月十四日

司法大臣ヨリ別紙ノ通リ訓令アリタリ

（別紙）

警察官ニ於テ左ニ記載シタル事件ヲ發見シタル時ハ直ニ其所轄始審裁判所ノ上席檢事ニ其旨ヲ密報セシムヘシ

一　國事ニ關スル陰謀若クハ其摸樣アル件

二　兇徒聚衆若クハ其摸樣アル件

三　議員其他ノ選擧ニ關シ不穩ノ摸樣アル件

四　政黨政社ヲ創立シ又ハ陰然結盟シ或ハ解散シタル件

五　懇親又ハ請願等ニ托シ異常ノ結合ヲ爲シ若クハ其摸樣アル件

六　政黨集會演說ニ關スル景況

七　政黨政社等ニ異狀アル件

八　演說集會場ニ於テ監臨官ニ抗拒暴行シタル件

九　國事ニ關スル事件ニシテ秘密ニ文書ヲ出版又ハ頒布セシ者アル件

十　外國人ノ內國人ニ對シ又ハ內國人ノ外國人ニ對シ暴行シタル件

以上各項ノ外國事又ハ治安上ニ關シ緊要ト認ムヘキ事アル件

右訓令ス

警察部警察署

警察分署

廳府縣（東京府ヲ除ク）

憲兵本部

○警部長通達丙第二六號　十八年七月廿日

岡山警察署　玉島警察署
津山警察署　高梁警察署

郵便遞送人幷集配人郵便物遞送集配之途中犯罪發覺逮捕若クハ引致之際其携帶セル郵便物處分方之義ニ付別紙甲號之通驛遞總官代理一等驛遞官日下義雄ヨリ照會有之乙號之通回答相成候條爲心得此段及通達候也

追テ本文ノ費用ハ於其署繰替仕拂置一ケ月分取纏メ警察本署ヘ申出可有之此段申添候也

（別紙）

甲號發現十八第三三三三號

郵便遞送人並ニ集配人郵便物遞送集配之途中罪ヲ犯シ又ハ當テ犯罪之嫌アリ司法警察官又ハ巡査ニ於テ直ニ之レヲ逮捕若クハ引致セラルヽ場合アルトキハ同官又ハ巡査ニ於テ代夫ヲ使用シ其遞送人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局迄遞送セシメ其集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局ヘ送達セシメ其費用ハ當局ヘ御申越相成候樣致シ度右御差支無之候ハヽ郵便局ヘ達方之都合モ有之候條速ニ何分之御回報有之度此段及御照會候也

明治十八年七月十日

驛遞總官子爵品川彌二郎代理
一等驛遞官　日下義雄　印

岡山縣令千坂高雅殿

乙號

本月十日發現十八第三三三三號ヲ以テ郵便遞送人並集配人郵便物遞送集配之途中犯罪發覺司法警察官又ハ巡査之義ニ付云々御照會之趣了承別段差支無之ニ付管下警察署ヘ其旨通達取計置候條右樣御承知有之度此段御回答ニ及候也

年　月　日

驛遞總官代理宛

長官

○警部長達第一六九号　廿一年十一月廿九日

（各署長宛）

犯罪ノ事實ヲ確メ裁判ノ結果ヲ全カラシムルハ証憑具備ノ如何ニアリ就中創傷ノ如キハ時日ノ經過ニ隨ヒ形狀ヲ變シ確乎其痕跡ヲ他日ニ留メサルヨリ往々裁判官ノ心証ヲ動カシ判定ニ困ムノ情ナキニアラサル趣就テハ自今殺傷罪ニ關スル檢証處分ノ際ハ必ス其被害者負傷ノ塲所ヲ明ニシタル畧圖ヲ採リ一件書類ト共ニ相當官ヘ送付スヘキ義ト心得ラルヘシ

右訓令ス

○警部長達警訓第三二号　廿四年十二月十八日

（各警察署長宛）

客月廿五日京都府ニ於テ大坂控訴院管内府縣警部長會同ノ際全院檢事長ヨリ司法警察ニ關スル重ナル事件報告ノ件及嚴戒放免ノ件ニ付別紙ノ通リ協議相成候趣ニ付此旨心得ラルル可シ

（別紙）

野村檢事長ヨリ警部長ヘ協議ノ要旨

一　司法警察ニ關スル重モナル事件ハ成ルヘク速カニ檢事正ヘ報告相成タキ事

本項固トヨリ當然ノ事ニシテ今殊更ニ言フ迄モナキ筈ナルモ從來各地方ニ於テ犯罪ニ關スル重大ナル事件アルニ際シ其主管タル司法大臣ニシテ却テ內務大臣ヨリ之ヲ聞キ始メテ知ルカ如キ往々有之不都合アルヲ以テナリ

一　嚴戒放免ノ協議取消ノ事

曾テ前任檢事長ヨリ輕微ナル犯罪者ハ警察官ニ於テ將來ヲ嚴戒シ放免セラレタキ旨協議シ置キタリトノコトナルモ右ハ警察官ニ於テ罪ノ未タ搆成セサルモノトシ釋放セラルヽモノハ格別然テスシテ苟モ罪アルモノヲ嚴戒放免スルカ如キコトハ法理ヲ正フスル今日ニ於テ甚タ不都合ノ義ト思惟スルニ付前協議ハ取消相成リタシト云フニアリ

一　犯罪人ヲ檢事ヘ送付スル時間ノ事

各警察署ヨリ檢事ヘ送致スル犯罪人ノコトニ付テハ今般司法省總務局長ヨリ通達ノ趣モ有之退廳後又ハ休日ト雖モ成ルヘク差支ナク受取ルヘキ筈ナルモ如何セン政費節減ノ爲メ各裁判所トモ構成法ニ示シアルカ如キ人員ヲ設ケラレサルヲ以テ實際行屆カサル場合モコレ有ルヘシ故ニ宜シク其地警部長ト檢事正ト協議ヲ遂ケ適宜ノ取計ヲ望ム旨云フニアリ

（各警察署長）

○警部長達警訓第七〇号ノ二　廿五年四月廿日

森林犯罪人取扱方ノ件ニ付別紙甲号ノ通林務官ノ協議ニ對シ乙號ノ通回答相成リ候ニ付此旨心得ラルヘシ

（別紙甲号）

乙第二六二号

森林犯罪人取扱方ノ儀ニ付先般及御協議候事項ノ通兵庫縣ヘモ協議中ノ處今般同縣警部長上京取調ニ係ル內務省ノ方針ハ林務官ノ行フヘキ職務上ニ生スル費用即囚人賄費等ハ警察費ノ支辨ニ屬スヘキモノニアラストノ事ニテ此点ニ就キテハ協議ニ應シ難乍併林務官ニ於テ捕縛セシ森林犯罪人ヲ當初所在警察官ニ引渡シ其處分ニ至リテモ一切警察官ニ一任スル儀ナラハ敢テ異儀無之旨回答相成候然ルニ當テ及御協議置候次第モ有之ニ付テハ其筋稟議ノ都合モ有之候條尚ホ爲念御意見承知致度候條至急何分ノ御回答相成度此段及御協議候也

明治二十五年四月十五日

岡山縣知事千阪高雅殿

兵庫大林區署長

林務官　山口嫡介

（乙号）

警岡第七一〇号ノ一

本月十五日乙第二六二号林務官ニ於テ捕縛セシ森林犯罪人ヲ所在警察官ニ引渡方御協議ノ件林務官ニ於テ發見着手セラレタル事件ヲシテ警察官ニ其處分ヲ一任セラル儀ハ法律上牴觸セルヲ以テ御協議ニ應シ難ク單ニ犯人留置及護送方ノ儀ハ協議ニ可應但費用上關係有之候ニ付一ケ年概テ二三十人ノ外ハ御協議ニ應シ難ク候條右御承知相成度此段及御回答候也

明治二十五年四月十九日

兵庫大林區署長林務官山口嫡介殿

○保安課長通知保第五号　廿六年四月七日

税則違反ニ關スル告發書類取扱方ノ件ニ付客年十一月保第一二八号ノ内一号ヲ以テ及通知候處自今司法警察署ニ於テ該犯則ヲ覺知シタルトキハ直ヲニ所轄檢事ヘ告發スル儀ト御承知有之度依命此段小官ヨリ申進候也

（各署長宛）

○課長通牒保第一九一〇號ノ三　廿七年五月十五日

駐在所詰巡査告發書類ニ所屬官署ノ印ヲ押捺スル儀ニ付別紙甲号ノ通問合候處乙號ノ通回答有之候ニ付爲念及御通牒候也

（別紙）甲

保第一九一〇号ノ一

刑事訴訟法第五十二條ニ依リ駐在所詰巡査ノ作ル告發書（重輕罪違警罪トモ）ニハ處屬官署ノ印ヲ押捺スルヿ能ハサル旨付記セサルモ法律上無効ナラスト考量ス右ニ對スル貴官之意見至急御指示有之度此段及御問合候也

明治廿七年五月十日

岡山縣警部長

岡山地方裁判所檢事正宛

（乙）岡山地方檢第六二七号

保第一九一〇ノ一ヲ以テ刑事訴訟法第五十二條ニ依リ巡査ノ作ル告發書ニ官署ノ印ヲ用ユルヿ能ハサル旨付記セサルモ法律上無効ナラサル云々御問合ノ趣了承右ハ御見解之通ニテ可然思料候條此段及御回答候也

明治廿七年五月十一日

警部長宛

岡山地方裁判所檢事正代理

檢事鴛山直心

○警部長達保第四四號ノ一　廿七年十月十九日

（各署長宛）

刑事被告人取扱方之件ニ付別紙之通檢事長ヨリ訓令相成候旨岡山地方裁判所檢事局ヨリ照會有之候條此旨心得ヲルベシ

（別紙）

檢庶第七五八號

檢事正

一　甲裁判所管内ニ原籍ヲ有スル者刑事被告人トシテ乙裁判所管内ニ於テ逮捕シタル場合ニ於ケル前科取調上警察官ノ取扱從來區々ニ渉リ遲速異同モ有之趣ニ付自今乙地ニ於テ逮捕シタルトキハ其警察官ヨリ直ニ甲地ノ檢事局ニ前科調ノ照會ヲ爲シ同局ヨリ乙地ノ檢事局ヘ回送スルコトニ取扱フベシ

一　甲裁判所ヨリ乙裁判所管内ニ在ル刑事被告人ニ對シ發スル拘引狀ハ從來甲廳檢事ヨリ乙廳檢事ニ囑托シ乙廳檢事ハ之ヲ其地ノ警察官ニ命シテ執行セシムル慣例ニ候處其取扱上遲緩ニ渉リ時機ヲ失スルノ恐有之ニ付自今時宜ニ依リ甲廳檢事ヨリ直ニ乙地ノ警察官ニ令狀ヲ送付シ執行セシムル可シ

但此場合ニ於テハ令狀ヲ執行シタル警察官ヨリ乙廳檢事ニ其旨ヲ報告セシムベシ

右訓令ス

明治二十七年十月十五日　　大阪控訴院檢事長　林　誠一

○警部長達保第三四九号　廿八年四月六日

（沿海各署長宛）

自今水上警察署ニ於テ逮捕シタル諸犯罪人ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其裁判結果ヲ水上警察署ヘ通知候様取計ハルヘシ

○警部長達保第三九二〇号ノ一　廿八年九月廿五日

（各署長宛）

急報ニ際シ管内各裁判所檢事ト司法警察官トノ間彼我便宜ノ爲メ別紙電信符號相設ケ使用致度旨山根岡山地方裁判所檢事正ヨリ協議ニ依リ承知之旨本日回答候ニ付將來本符号ヲ使用セラルヘシ

電信略符號

一昨年	イー
一月	ホー
五月	リー
九月	ワー
一昨日	レー
一日	ネー
昨年	ロー
二月	ヘー
六月	ヌー
十月	カー
昨日	ソー
二日	ナー
本年	ハー
三月	トー
七月	ルー
十一月	ヨー
本日	ツー
三日	ラー
	ニー
四月	チー
八月	ヲー
十二月	ター
四日	ムー

五日	ウー
九日	マー
十三日	エー
十七日	キー
廿一日	シー
廿五日	スー
廿九日	ハ○
午前一時頃	ト○
午前五時頃	ル○
午前九時頃	ヨ○
午後一時頃	ツ○
午後五時頃	ム○
午後九時頃	ヤ○
謀殺犯事件アリ	イハ
六日	ノー
十日	ケー
十四日	テー
十八日	ユー
廿二日	ヒー
廿六日	ンー
三十日	ニ○
午前二時頃	チ○
午前六時頃	ヲ○
午前十時頃	タ○
午後二時頃	ネ○
午後六時頃	ウ○
午後十時頃	マ○
謀殺未遂重傷犯アリ	ニロ
七日	クー
十一日	フー
十五日	アー
十九日	メー
廿三日	モー
廿七日	イ○
三十一日	ホ○
午前三時頃	リ○
午前七時頃	ワ○
午前十一時頃	レ○
午後三時頃	ナ○
午後七時頃	ノ○
午後十一時頃	ケ○
謀殺未遂輕傷犯アリ	ホハ
八日	ヤー
十二日	コー
十六日	サー
廿日	ミー
廿四日	セー
廿八日	ロ○
	ヘ○
午前四時頃	ヌ○
午前八時頃	カ○
午前十二時頃	ソ○
午後四時頃	ラ○
午後八時頃	ク○
午後十二時頃	フ○
故殺犯事件アリ	ヘニ

故殺未遂重傷犯アリ	及傷	強盜殺人犯アリ死躰發見他殺ノ見込アリ	燒死者アリ
死ニ瀕ス	被告人ハ捕獲ス	此段急報ス	豫審判事臨檢ス
ホトリルワヨレツラウクマフエアキメシ			

故殺未遂輕傷犯アリ	縊殺	強盜重傷犯アリ	漂着セシ死躰發見他殺ノ見込アリ
兇徒聚衆	生命別条ナシ	被告人現存ノ見込アリ	臨檢ヲ乞返電待ツ
檢事臨檢ス			
ヘチスチカタソチムノヤケコテサユミヒ			

毆打殺事件アリ	毒殺	強盜輕傷犯アリ	放火既遂事件アリ
人家ヲ破壞ス	被告人	被告ノ嫌疑者アリ	臨檢アルヤ否返電待ツ
發車ニテ			
トリルワヨレチラウクマフエアキメシモ			

嬰兒壓殺事件アリ	窒息	殺害事件アリ	放火未遂事件アリ
殺傷ス	被害人	被告人ハ分ラズ	急報ノ趣了承
臨檢セズ貴官ニ於テ檢証ノ上其調書ヲ送致スベシ			
チヌチカタソナムノヤケコテサユミヒセ			

往信ノ例

甲

本日午前一時頃（一ツ〇ト）吉田三吉（ヨシタサンキチ）被告人倉敷町（クラシキマチ）マフ玉島（タマシマ）村上成（ムラウハナリ）中田濱宅（ナカタハマタク）

謀殺事件アリ被告人ハ捕獲ス此段急報ス臨檢ヲ乞フ返電待ツ（イハフエアキサユ）

字數五十字

乙

昨日午後十一時頃（一ツ〇ケ）玉島村玉島（タマシマムラタマシマ）濱邊ニ漂着セシ死躰發見他殺ノ見込アリ（ハマヘニ（ソチ）

此段急報ス臨檢アルヤ否返電待ツ（アキキメ）

返信ノ例

甲

急報ノ趣了承本日午前八時頃發車ニテ豫審判事臨檢ス（ユミ一ツ〇カシモメシ）

字數十

乙

急報ノ趣了承臨檢セス貴官ニ於テ檢証ノ上其調書送致スベシ（コミヒセ）

○香川縣知事ヨリ司法警察官仮豫審處分ノ儀ニ付司法大臣ヘ伺　二十八年二月十八日

刑事訴訟法第九十二條ニ依レハ豫審判事ノ臨檢捜索物件差押被告人証人ノ訊問ニ付テハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トシ且ツ裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ立會人二名ヲ要シ而シテ書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル其處分ハ無効タルノ規定アリ之レ裁判所書記ナルモノハ仮令豫審判事ニ隨伴シタルモノヽ如キモ其名稱ニヨリ自カラ獨立ノ職務ヲ以テ一ツノ証據力ヲ有スルニ依リ此規定アルモノト考料セリ然ルニ同法第百四十七條ニ於テ司法警察官ニ許サレタル現行犯ノ豫審處分ニ付テハ別ニ立會人ヲ要スルノ規定ナク又元ヨリ警察署ニ書記ナルモノナキヲ以テ同伴處分ヲ爲スノ謂レナシ故ニ司法警察官ノ仮豫審處分ニ在テハ御省明治廿六年九月訓令司法警察官執務心得第七十條第七十一條ノ場合ヲ除ク外立會人ヲ要セス處分シ可然モノト認メ居候處偶々大審院ニ於テハ司法警察官カ仮豫審處分ノ場合被告人証人參考人等ノ訊問ニ立會人ヲ用ヰスシテ爲シタル調書ハ違法トシテ無効ノ判決ヲ下サレタル趣果シテ大審院判決ノ如ク立會人二名ヲ要スルモノトセハ現場ニ於テハ兎モ角引續キ被告人証人等ヲ警察署ニ於テ取調フル場合ハ之レニ立會セシムル其人ナシ若シ他ヨリ特ニ立會人ヲ呼出サンカ之レニ給スヘキ旅費日當ヲ支辨スルノ途ナク巡査ヲシテ立會セシメンカ裁判所書記ノ如キ職權アルモノニアラスシテ巡査ハ警部ノ指揮命令ニ服從スヘキモノナルヲ以テ到底証據力ヲ有スルモノト認ムルヲ得ス就テハ前段見解ノ通司法警察官執務心得第七十條第七十一條ヲ除ク外ハ司法警察官ノ仮豫審處分ニ付テハ警察署ノ内外ヲ問ハス立會人ナクシテ其處分ヲ爲スモ無論差支無之儀ト心得可然哉爲念相伺候也

指令　廿八年二月廿七日

本月十八日伺第二一四號伺司法警察官仮豫審處分方ノ件ハ司法警察官執務心得第六十一條之通ニ付同心得中特別ノ規定アル場合ヲ除ク外立會人ヲ要セサル儀ト心得可シ

右訓令ス

第八篇　第三章

第二節　送致

明治廿一年十二月十日　警部長達第一七一号　刑事被告人送致ノ節小兒携帯ノ件

仝廿二年七月七日　仝上

仝廿六年一月廿七日　仝上

仝廿七年五月十二日　豫審判事ノ令狀ヲ執行シタル被告人送致ノ件

○警部長達第一七一号　廿一年十二月十日

刑事被告人ヲ所轄檢事ニ送致ノ際其被告人三歳以上ノ子弟ヲ携帯セント申出ルモノアルトキハ共ニ護送ノ儀ヲ許サス其子弟ハ親族親族ナキモノハ其地ノ戸長ニ引渡ス儀ト心得ラルヘシ

但本文被告人ト共ニ他ノ警察署分署ヨリ交付アルモ其子弟ハ受ケサル儀ト心得ラルヘシ

右訓令ス

○久世分署長ヨリ警部長ヘ伺　廿二年七月七日

明治二十一年十二月第一七一号ヲ以テ刑事被告人ヲ所轄檢事ニ送致ノ際其被告人三歳以上ノ子弟ヲ携帯セント申出ルモノアルトキハ共ニ護送ノ儀ヲ許サス其子弟ハ親族親族ナキモノハ其地ノ戸

長ニ引渡スヘキ旨御訓令相成敬承罷在候得共万一他府縣人或ハ原籍不明ノ乞丐等旅行中犯罪アリ所轄檢事ヘ送付ノ際三歳以上ノ幼兒アルトキハ原籍戸長ニ引渡スノ手順難致右等ノ場合ニ於テハ犯罪ノ地ノ戸長ヘ引渡シ可然儀ナルヤ聊カ疑團ヲ相生シ候條御指示相成度此段請訓候也

指　令

久第七三七号刑事被告人ヲ所轄檢事ヘ交付ノ際其ノ被告人カ携帯スル三歳以上ノ小兒取扱方請訓ノ件ハ意見之通リ

廿二年七月八日

○廣戸市場警察署伺　廿六年一月廿七日

刑事被告人三歳已上ノ子弟ヲ携帯シ居ル時其處分疑義ノ廉左ニ相伺候

一明治二十一年警部長達第一七一号中子弟ハ親族親族ナキモノハ其地ノ戸長ヘ引渡スノ儀トアルハ所轄内又所轄外トハ雖トモ逮捕後四十八時間内ニ引渡シ得ヘキ距離ノ地居住ノ者ニシテ遠隔ノ者ハ警察官署所在地ノ村役場ヘ引渡スノ儀ト心得可然哉

一他郡村ニ於テ逮捕シタル者ハ司法警察官有罪ト認ムルノ後其官署ニ於テ子弟ヲ引分クルモノニ付該官署所在ノ村役場ヘ引渡スノ儀ト心得可然哉

一警察ヘハ右一七一号御達アルモ村役場ニ於テハ諸達中之レヲ可受取明文無之由果シテ其明文無之哉

一右明文果シテ無之シテ村役場ニ於テ受取ラサル時ハ如何處分シ可然哉右差掛リタル事件有之ニ付至急仰御指揮候也

保安課長ヨリ回答保第三六〇号ノ内一　廿六年一月卅一日

本月二十七日廣發行第一七号刑事被告人三歳以上ノ子弟携帯處分御伺ノ件ハ犯人ノ親族親族ナキ者ハ在籍地ノ村役場若クハ犯罪地又ハ逮捕地ノ村役場ヘ御引渡相成度其他關係ナキ村役場ヘ引渡不相成儀ト御承知有之度本案ニ付テハ指令不相成候ニ付依命此段小官ヨリ申進候也

追テ本案ハ村役場ヘ達セラレタルコト無之モ引受ケタル村役場ハ規則ニヨリ其幼兒ニ對シ官ノ救助ヲ受クルコトヲ得ル趣ニ有之候爲御參考申添候

○警部長達保第一九五四号　廿七年五月十二日

豫審判事ノ令狀ニ依リ刑事被告人ヲ勾引スルトキハ可成退廳前ニ裁判所ヘ引致シ若シ其退廳後ニ係ルトキハ便宜所在地警察署ノ留置場ニ留置キ翌朝裁判所ヘ引致候樣取扱ハルヘシ

追テ右被告人傳遞護送ノ途中沿道警察署ニ於テ到底退廳前裁判所ヘ到達シ能ハサル場合ハ其署ニ留置キ本文ノ通リ取扱フモ苦カラス

○警部長達保第二二三一号　廿九年八月八日

各署長宛

刑事被告人ノ所遇ニ付テハ屢次示達候儀モ有之苟モ苛虐粗暴ノ取扱ハ無之筈ニ候處間ク處ニ據レハ剛愎ノ徒ヲ待ツニ証據ノ蒐集ヲ力メス偏ニ被疑者ノ自供ヲ強ヒ甚シキハ之ニ毆打縄責ヲ加ヘ現ニ其痕跡ヲ存セルモノ往々有之哉ニ候右ハ其身却テ法網ニ觸レ縲紲ノ辱ヲ受ケ延テ警察ノ威信ヲ失墜シ寔ニ痛歎ノ至リニ候各官ニ於テ居常注意愼重セラル、筈ニ候得共自今一層部下巡査ヲ戒飭シ不都合ノ行爲無之樣致サルヘシ

第八篇　第三章

第三節　留置

郵便取扱役拘留ノ節通知方　明治十七年十二月廿三日　警察部達丙第七四四号

警察署留置場未已決區別方　仝　二十年三月十八日　警部長達第五三号

現行犯留置ノ件　仝　廿四年二月廿四日　仝　警訓第四号

留置場拘置ノ刑事被告人監守ノ件　仝　廿九年四月八日　仝　保第一二五七号

○本署達丙第七四四號　十七年十二月廿三日　岡山警察署　玉島警察署　津山警察署　高梁警察署

郵便取扱役刑事ノ被告トナリ拘留又ハ収監ト相成候節ハ通知方別紙寫ノ通品川驛遞總官ヨリ照會致シ來リ候ニ付右等ノ事有之節ハ直ニ管轄驛遞出張局ヘ通報相成度此段及通達候也

（別紙）

被取十七第七五九號

郵便取扱役刑事ノ被告トナリ拘留又ハ収監ト相成候節ハ當局ノ都合モ有之候條自今右樣ノ場合ニ於テハ即時管轄驛遞出張局（御通知相成度此段及御照會候也

明治十七年十二月四日　驛遞總官　子爵　品川彌二郎

岡山縣令高崎五六殿

警察署警察分署

○警部長達第五三號　二十年三月十八日

警察署ニ属スル留置場ヘ拘留犯人取扱方之ニ儀ニ付別紙寫之通リ内務大臣ヨリ訓令相成候條自今未已決ノ區域ヲ嚴劃シ雜居混全無之樣取扱フヘシ

但留置場未已決等ノ區劃ヲ別設セサル署ニ在テハ當分在來ノ儘場内ニ於テ嚴重犯人ノ區別ヲ爲スヘキ儀ト可心得

右相達ス

各警察署分署長

○警部長達警訓第四号　廿四年二月廿四日

現行犯ノ被告人留置ノ儀ニ付警保局長ヨリ別紙ノ通リ通牒有之候條此旨心得ラルヘシ

（別紙）

警司第三号

檢事現行犯ノ被告人ヲ受取リタルトキハ廿四時間以内ニ訊問シタル後ニアラサレハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス然ルニ檢事止ヲ得サル事故アリテ即時訊問スルコト能ハス一時其儘留置セサル可ラサル場合ニ於テハ警察署内ノ留置場ニ留置セシムル等ニ候處今般司法省ヨリ協議ノ次第モ有之候ニ付自然檢事ヨリ打合相成候儀有之候ハヽ實際不便無之樣御取計有之度此段念ノ爲メ及通牒候也

明治二十四年二月廿日

内務省警保局長　清浦奎吾

岡山縣知事千阪高雅殿

○警部長達保第一二五七號　廿九年四月八日

各署留置場拘置ノ刑事被告人監守ニ就テハ各官部下ヲ訓戒シ注意ヲ周密ニシ敢テ疎懶ノ廉ナキハ本官ノ信スル所ニ有之候處客月廿六日以後僅々十數日間ニ刑事被告人ノ留置場ニ縊死スルモノ笠岡坪井ノ二署ニ於テ二人ヲ見ル未タ多數ト云フニ非ルモ斯ノ如キハ警察ノ体面ヲ汚辱スル蓋シ鮮少ナラサルナリ右ハ常該監守者ノ不注意ニ出ルモノナルヘシト雖トモ監督者亦其責ナシトセス自今宜シク層一層ノ警戒ヲ加ヘ被告人ヲシテ自死ヲ企ツルノ餘地ナカラシメンコトヲ期セラルヘシ

各警察署分署長宛

第八篇

第四章　民商事

第一節　民事

明治廿五年六月廿七日　警部長達警訓第五二号

執達吏財産差押ノ際援助方

○警部長達警訓第五二号　明治廿五年六月廿七日

警察署長　分署長

執達吏財産差押等ノ際強制執行ヲ拒ミ又ハ他ニ相當ノ立會人ナキヲ以テ執達吏ヨリ駐在所巡査ニ出張援助又ハ立會ヲ請求スルモ巡査ハ受持外ナリトシ之ニ應セス或ハ之ニ應スルモ暴行ヲ以テ執行ヲ拒ミ罵詈讒謗スル如キ現行犯ヲ目撃シナカラ傍觀シテ制止セサル者有之哉ニ相聞甚タ不都合之次第ニ付右等事實有之トキハ相當處分ノ手續ヲ爲スヘキハ勿論自今警察署又ハ分署ノ所轄内ニシテ其最寄ナルトキハ仮令駐在所受持區ヲ異ニスルモ瞬速其求ニ應シ其執行ヲシテ容易ナラシムル樣助力スヘキ旨部下各巡査ニ篤ト訓示セラルヘシ

第八篇

第四章

第二節　商事

明治廿七年四月廿三日　警部長達保第一六六一号

警察官吏商法施行心得

○警部長達保第一六六一号　廿七年四月廿三日　（各署長宛）

司法警察官吏商法施行心得別紙之通相定候趣岡山地方裁判所檢事正ヨリ通知有之候ニ付此旨心得ラルヘシ

明治廿七年四月廿三日

岡山縣警部長竹内壽貞

警察官吏商法施行心得

第一條　左ノ各項ヲ認知シ又ハ特ニ其調査ヲ命セラレタルトキハ事狀ヲ詳悉シ所轄檢事ニ申報スヘシ

一　商法施行條例第二條ニ違フモノアルトキ

二　商法實施前ニ設立セル會社ニシテ商法實施後六ケ月内ニ登記ヲ受ケサルモノ及ヒ既設株式會社ニ付テハ定款ノ認可ヲ得タルヨリ六ケ月内ニ登記ヲ受ケサルモノアルトキ（商法施行條例第五條）

三　商法第六十七條第二項ニ該當スルモノアルトキ

四　商法第八十一條ニ該當スル者アルトキ

五商法第二百五拾六條乃至第二百六拾條第八百廿三條ニ該當スルモノアルトキ

第二條　左ニ掲クル刑事被告人ニ付テハ刑事訴訟法ノ手續ニ依リ處置スベシ

一商法第二百六拾二條第二百六十三條ニ該當スルモノアルトキ

二手形小切手又ハ其裏書ヲ僞造變造シ及ヒ商法第七百廿四條第八百二拾三條一項末段ニ該當スルモノアルトキ（刑法第二百九條）

三商法第千五拾條乃至千五拾三條ニ該當スルモノアルトキ（明治廿三年十月法律第百一號）

第三條　商法第千三條及同施行條例第四拾五條ニ依リ債務者ノ監守ヲ命セラレタルトキ警部（若シ）差支アルトキハ巡査ヲシテ代理セシム以下警部トアル場合倣之）先ツ債務者ノ住所ニ臨ミ裁判所ノ命ニ依リ監守ス可キ旨ヲ示シ巡査ヲシテ左ノ事項ヲ監守セシム可シ

一逃走若クハ財産ノ隱匿ヲ豫防スルコト

二破産主任官ノ許可ヲ得サルトキハ外人ト面接又ハ通信セシメサルコト（施行條例第四拾八條）

第四條　債務者ヲ釋放スルノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ其執行ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　商法第千三條第三項ニ依リ破産者ヲ引致スルトキハ同施行條例第四拾九條及ヒ刑事訴訟法第七十三條第一項ニ從フ可シ

第八篇

第五章　犯罪ニ關スル帳簿及諸表

明治二十年十月七日	罪科報告表取扱手續
全　年十月五日	前科問答表
全　廿四年五月四日	罪科報告表他府縣ヘ送付セザル件
全　廿五年十二月六日	重輕罪違警罪受付台帳
全　年十二月六日	仝記載方
全　年十二月廿二日	犯人捜査簿調製方
全　廿七年三月廿二日	本籍者ノ刑罰又ハ家資分散破産之取調方
全　年一月卅一日	名籍原簿及四人身分帳ノ件
全　廿八年五月廿一日	共同探偵犯人逮捕表
全　廿九年十一月三十日	四人身上票訂正ノ件

○知事達警第十九號　二十年十月七日

警察本部　各警察署
各分署

罪科報告表取扱手續別紙ノ通相定メ來ル十一月十五日ヨリ實施ス

（別紙）

第一條　本表ハ違警罪ヲ除ク外刑法上ニ係ル各種ノ犯罪及特別法中輕罪以上ニ該ル諸犯罪者ノ罪名刑期其他一切ノ事項ヲ明載シ置キ以テ他日捜査ノ便ニ供スヘキモノトス

第二條　警察署分署ニ於テ前條ノ犯罪者ヲ檢事ニ送付スルトキハ別紙甲號表前半面ニ係ル各欄ノ事項ヲ掲載シ一件書類見易カラシムル爲一件書ニ添ヘ檢事ニ回付スヘシ

類ノ表面ニ添付スヘシ

シ監獄ニ送リタルトキハ該犯ト俱ニ監獄ニ回付スヘシ

但左ニ列記スルモノハ本表ニ掲載スルヲ要セス

一　刑法上ノ罪ニシテ罰金不納ニ依リ換刑ノ處分ヲ受ケタルモノ

二　各警察署分署ニ於テ無罪解放ノモノ但嚴戒放免ノモノハ此限リニアラス

三　各警察署分署ノ間ニ於テ受渡シヲ爲シタルモノ

四　各府縣ノ照會ニ依リ逮捕ノ上該縣ヘ引渡シタル本表ハ其宣告書ト共ニ檢事ヨリ之ヲ監獄署ニ回付スルヲ爲シ

第三條　前條犯人裁判宣告ノ上ハ別紙甲号表ニ掲載シ原發表地ノ警察署分署ニ返付スヘシ其返付ヲ受ケ以テ監獄署ハ該表後半面ニ係ル事項ヲ

タル警察署分署ハ之ヲ分ニ分綴シ保存スヘキ者トス

但本犯他署部内ニ係ルトキハ本表ノ寫ヲナシ之ヲ該犯所轄警察署分署ヘ送付スヘシ其送付ヲ受

六條ハ廿四年十月警第十九号ニ追加

ケタル本表寫又ハ檢事ヨリ直ニ送付ヲ受ケタル本表及既決犯罪表ハ本文ニ準シ編綴スヘシ

第四條　本犯若シ棄却免訴ノ裁判アルカ又ハ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ノ如キ類ニシテ本犯ヲ監獄署ニ送致セサルトキハ檢事ヨリ本表ハ直ニ原發送ノ警察署分署ヘ回付スヘキヲ以テ木表後半面人相欄ノ如キハ豫メ警察署分署ニ於テ登記シ置クヘシ

第五條　警察署分署ニ於テ第一條ノ犯罪ト思料シ取調ヲ要スルモ被告事件罪ト爲ラサルヲ以テ放還スルカ或ハ取調中逃亡セシ等ノ場合ニ於テハ別紙乙號表式ノ事項ヲ掲載シ前第三條ノ例ニ依リ編綴シ置キ以テ他日參照ノ便ニ供スヘシ

第六條　前科者他署部内ニ轉居スルトキハ本表幷ニ既決犯罪表ヲ取纏メ轉住地警察署ヘ送致スヘシ其寄留ナルトキハ罪名刑期幷ニ言渡ヲ受ケタル年月日裁判所名寄留地警察官署ヘ通知スヘキモノ）

（此前半面ハ警察署分署ニ登錄スヘキモノ）

（用紙美濃紙）

甲第　號　明治　年　月　日

引致　明治　年　月　日時

罪名

黨

本管　岡山縣　署

現住地　區　町　番地

族籍　郡　村　番地

氏名

既決犯罪表

乙第　號

本表ハ各警察署分署限リ放免等ノ場合登錄スヘキモノトス

罪科報告表

類	犯數	罪名	刑名	刑期	監獄 明治 年 月 日 宣告	監獄 明治 年 月 日 視監	監獄 明治 年 月 日 逃亡死去	監獄 明治 年 月 日 執行監獄	報告 雜
	犯		罰金	年 月 日	明治 年 月 日 裁判	年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	

本管	出生地	現住地	族籍 年齢	身材	面體	目	鼻	口	色面	徴別	異名	雜
管下　區　國 町　郡　村　番地	區　國 郡　町 村　番地	區　國 郡　町 村　番地	族籍 營業	長　身 肥瘠　強弱	眉　毛 耳			音　聲				

罪科報告表

本管	出生地	族籍	現住地	等合登錄	免限放	引致	出生日	犯罪ト思料セシ理由	放還又ハ逃走セシ理由
管下　國 區　郡 町　村　番地	國　區 郡　町 村　番地	營業	國　區 郡　町 村　番地			年　月　日	年　月　日		

氏名	異名	黨類	丈	音聲	眉毛	目	口	徴別
			年　月 ケ月 日	面躰	耳	鼻	色面	

岡山縣　署

岡山縣警察本部

豫表ハ本メ裁判所檢事局ヘ回付シ置キ他管裁判所ニテ處分セシモノヲ當管內檢事局ヘ通知アリタルトキ檢事局ニ於テ本表ニ記載シ本部ニ回報ヲ乞フヘキモノナリ

第　號

族籍氏名	年齡	職業	住所	出生ノ地	本籍	罪名	刑名刑期	監視	犯數	宣告	對審闕席區別
	年月		府區町 縣郡村 番地	府區町 縣郡村 番地	府區町 縣郡村 番地		禁錮 年月日 罰金 圓	年月	犯	明治 年 月 日 裁判所	裁判

○警部長達第一六四號　二十年十月五日

警察署分署

今般前科問答表別紙ノ通相定メ候條來ル十一月一日以後前科取調ニ關スル場合ハ直ニ本表ヲ以テ照會取計フヘシ

右相達ス

但用紙ハ本年度ニ限リ本部ニ於テ調製回付スヘシ

問	明治 年 月 日	岡山縣 署
引致	明治 年 月 日 時	
本管	管下 國 郡 區 町 村 番地 父ノ名	
現住地	國 區 郡 町 村 番地	
出住地	國 郡 町 村	
族籍	營業	
氏		

前科

答	明治 年 月 日							
拿捕	初	再	三	四	刑名	初	再	三	四
監視	初	再	三	四	刑期	初	再	三	四
	年月日	年月日	年月日	年月日		年月日	年月日	年月日	年月日

問答表

名	異名	生年	罪名	別徵	雜
		年 月 日生			

宣告				罪名				雜
初	再	三	四	初	再	三	四	
年 月 日 裁判所	年 月 日 裁判所	年 月 日 裁判所	年 月 日 裁判所					

○勝間田警察署問合保安課回答　廿四年五月四日

甲号

今般警第拾五号ヲ以テ明治廿年十月警第十九号違罪科報告表取扱手續改正削除相成候處第三條但書ニ當リ本犯他警部内ノモノニ係ルトキハ本表ノ寫ヲナシ之ヲ該犯所轄警察署分署ヘ送付スヘシ云々ト有之右本犯他署部内ト謂ハ即チ縣下各警察官署ヲ指示シタルモノニシテ他府縣ニ係ル罪科報告表ハ送付セサルモノト解釋候得共聊カ疑團ヲ生シ候間爲念此段及御問合候也

乙号　廿四年五月六日

本月四日付勝第六六九号ヲ以テ罪科報告表取扱之儀ニ付御問合之趣了承右ハ御意見之如ク本縣警察官署耳ニシテ他府縣ニハ關セサル儀ニ候條此段及御回報候也

○警部長達警規第一三九號　廿五年十二月六日

明治二十三年(十二月)第五七號重輕罪及違警罪受付臺帳用紙別紙之通改正ス

但明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

警察署 警察分署

重輕罪受付用

受付	犯罪發覺	罪名	犯數	引致逮捕	犯罪之日時場所	証
第何號　明治何年何月何日	何月何日住所氏名(現行準現行)告訴告發自首又ハ何官氏名ノ非現行	竊盜	重罪 初犯　輕罪 再犯	何月何日午前後何時氏名又ハ何官氏名引致又ハ逮捕	何月何日午前後何時何所ニ於テ	何々

裁判結果	贓物仮下
何月何日何々裁判所ニ於テ重禁錮何年監視何月又ハ無罪	何月何日何々ノ品ヲ氏名ヘ

主任	被告人	關
官氏名印	族籍住所身分職業　氏名　年齡	郡村大字何々　氏名

紙

憑	留置	送致放還又ハ取下
何々	何月何日午前後何時	何日何日何々書類(身柄共)何裁判所ヘ又ハ何々ニ付放還又ハ何々ニ付取下

備考

係人

仝

仝

違警罪受付用

受付	犯罪發覺	罪質	犯數	刑名	言渡
第何號 明治何年何月何日	何月何日住所氏名 又ハ何官氏名ノ 告訴告發自首	何所ニ於テ何々セシモノ	初犯	科料金何圓 拘留何日	何月何日 對審欠席

囑托	取下又ハ送致	正式請求	換刑
何月何日何署ヘ ヨリ	何月何日又ハ何書類何裁判所ヘ	何月何日午前後何時申立 何月何日午前後何時何裁判所ヘ送致	何月何日 命令 何月何日 執行

主任	被告人	關係人
官氏名印	族籍住所身分職業 氏名 年齡	郡村大字何々 氏名

紙

言渡書送達	科料納	拘留執行
何月何日	何月何日何圓	何月何日

備考

○保安課長通牒保第一三九號　廿五年十二月六日

警察(分)署長宛

今般警規第一三九號ヲ以テ重輕罪及違警罪受付臺帳用紙改正相成候ニ付テハ左之通御心得相成度

一雛形中圏點ヲ付シタルモノハ其時々記入スル記載例ヲ示シタルモノナリ

一備考欄ハ記載ナキモノヽ必要ト認ムル要領ヲ詳細記入スルモノトス

一重輕罪受付臺帳用紙ノ罪科報告欄ヲ削除セシハ罪科報告ニハ受付ノ番號ヲ付スルモノトス

右及御通知候也

○警部長達警規第一五三號　廿五年十二月廿二日

警察署分署

今狀又ハ他ヨリ通知若クハ其他ノ事由ニ依リ犯罪人ト認定スヘキモノ捜査上便宜ノ爲メ別紙書式ノ帳簿ヲ製シ其署ヘ備ヘ置クベシ

但巡査駐在所ハ其管區限リノ帳簿ヲ調製セシムベシ

（別紙）

逃走年月日 逮捕年月日	罪名月日 其他要領	共謀者氏名 備考	住所氏名 年齢				
何年何月何日	仝日何郡村大字何々ニ於テ賭博取押ノ際現場逃走	何村大字何々 何ノ某	人相特徴ヲ記ス	郡村大字何々 氏名 年齢			
何年何月何日 （朱書） 何年何月何日逮捕セヲル	何月何日何裁判所ニ於テ何罪ニヨリ欠席ノ儘重禁錮何月ニ處						

（用紙半紙）

○知事訓令乙第弐拾三號　廿七年三月二十二日

郡市役所　町村役場

本籍者ノ刑罰又ハ家資分散破産等ノ宣告ヲ受ケタル者ノ取調簿別紙書式ニ依リ調製シ其町村役場（市ハ市役所）ニ備ヘ置該事項ニ關スル裁判所通知若クハ決定公告アリタルトキハ直チニ之レニ登記シ且送籍ヲ請求スルモノアルトキハ其謄本ヲ送籍狀ニ添付シ該帳簿ニ登記ナキモノハ右事項ニ該當スル行爲アラサル旨ヲ併セテ通知シ入籍地ニ於テハ其謄本ニ依リ之ヲ登記スヘシ

但既往ニ屬スル本文ノ事項ハ來ル五月三十一日以内精覈調査整頓シ其旨町村役場ヨリ所轄郡役所ニ届出テ（市役所ハ縣廳ヘ）該郡役所ヨリ直チニ縣廳ヘ報告スヘシ

（表紙用紙　厚紙）

明治何年何月調製

刑罰
家資分散
破産

取調簿

岡山縣何郡
何町
村

仝

（用紙美濃紙）

本籍	岡山縣何郡何村大字何々何番邸
刑罰	
宣告年月日	明治何年何月何日
確定年月日	明治何年何月何日
罪名	何々罪
刑罰幷附加刑名及刑期	何徒刑又ハ何禁錮懲罰 何年何ヶ月
通知年月日	明治何年何月何日（何地何裁判所通知）（何地何裁判所通知ノ旨明治何年何月何日何縣何郡何村長氏名ノ告知）ニ依リ登記ス㊞
身分 戸主ヨリ續柄及父名	父名何男
平民 氏名	何某
生年月日	何年何月何日生
家資分散及破産	
宣告又ハ處分年月日	明治何年何月何日
家資分散又ハ破産	破産
債務ノ辨償又ハ復權年月日	明治何年何月何日
決定公告年月日	明治何年何月何日（何地何裁判所何々公告）（何縣何郡何村大字何何番邸氏名届出）（何地何裁判所何々決定邸告又ハ何縣何郡何村大字何々何番公氏名届出ノ旨明治何年何月何日何縣何郡何村長氏名ノ告知）ニ依リ登記ス㊞

備考

刑罰ハ裁判所檢事ヨリ犯人本籍地ノ市、町、村長ニ通知セル輕罪以上ニ係ル既決犯罪通知ニ依リ登記スヘキモノトス

刑罰ニハ賭博犯モ包含ス

刑罰ニハ處刑ノ濟否ニ拘ハラス渾テ之ヲ登記スルヲ要ス

家資分散、破產等ハ家資分散法第三條若クハ商法第九百八十一條ノ決定公告ニ依リ登記スヘキモノトス

家資分散ニハ從前ノ身代限處分ヲ受ケタル者モ包含セルヲ以テ其處分ヲ受ケタルモノハ其名目ヲ以テ登記スルヲ要ス

通知及公告欄內登記事項ノ末尾ニ當該市、町、村長ノ認印ヲ要ス

送籍狀ニ添附スヘキ謄本ニハ其末尾ニ「右取調原簿ニ依リ謄寫ス」「年号月日」「何縣何郡何市何町村長氏名」等ヲ記載シ其職印ノ押捺ヲ要ス

刑罰、家資分散、破產者等ヲ今回調查スルニ方リテハ當該市、町、村長ハ公告其他適宜ノ方法ヲ以テ其市、町、村內定籍者ニ告知シ右ニ該當ノ有無精覈取調若シ當事者ニ係ル裁判所通知若クハ公告等ノ判明セサル向ハ當該戶主ヨリ書面ヲ徵シ之ヲ登記シ遺漏ナキヲ要ス

○警部長達保第四四〇号ノ一　廿七年一月三十一日

（各署長宛）

名籍原簿及囚人身分帳等ノ儀ニ付內務省警保局長ヨリ別紙之通々牒有之候條此旨心得ラルヘシ

（別紙）

警監發第壹號

客年十二月廿五日內務省訓令第廿九号ヲ以テ名籍原簿其他諸帳簿ノ規定相成候處名籍原簿ハ監獄支署ノ設ケナキ區裁判所所在地ノ警察署ニ於テハ該樣式ニ依リ調整シ其他ノ警察署留置場ニ留置スル者ニ就テハ該樣式ニ依ラサルモ妨ケナキ旨趣ニ有之又控訴人ニシテ宣告後直ニ原府縣ヘ送還スルモノ、身分帳ハ其原府縣ニ於テ之レヲ調整シ徒流刑ニシテ宣告後直ニ假留監ヘ押送スヘキモノ、身分帳ハ假留監ニ於テ調整候ヘキ儀ニ有之候條右樣御承知相成度此段命ニ依リ及通牒候也

明治廿七年一月廿六日

內務省警保局長　小野田元熙

岡山縣知事千阪高雅殿

○警部長達保第一八〇一号　廿八年五月廿一日

（各署長宛）

自今探偵委員ニ於テ互ニ捜查ノ末犯罪人ナヲ逮捕シタルトキハ其犯人引致ヲ受ケタル署長ニ於テ其探偵ニ從事シタル委員ノ姓名ヲ錄シ毎月末別表ノ通報告セラルヘシ

明治何年何月中共同探偵犯罪人逮捕巡查表　何警察署

罪名	逮捕月日	被告人住所氏名	逮捕巡查氏名	共同探偵巡查署名氏	共同探偵員名	刑期	
							月末迄ニ知リ得タルトキハ此欄ニ記入スヘシ

第八篇　第五章　犯罪ニ關スル帳簿及諸表

備考		

○警部長訓令保第二四六三號ノ一　廿九年十一月卅日　（各署長宛）

本年八月（廿日）内務省訓令第七號ヲ以テ明治廿六年（十二月）同省訓令第二十九號囚人身分帳出監簿中様式改正相成候ニ付テハ監獄署ヨリ身上票送付誤謬又ハ虚偽ノ廉取調方照會ノ節自今戸籍登録ノ事、兵役、前科等ハ一應市町村役場ニ就キ正確ナル取調ヲナシ然ル後訂正回付スル儀ト心得ヲルヘシ

第九篇　雑件

第一章　戸籍

失踪其他ノ件解釋方

出産寄留其他届出違犯者處分通知方

非戸主數人寄留シ届出ヲ爲サヽル者處分方

出産届ヲ怠リタル戸主十二才未満ノ者處分方

戸籍ト異動探偵ノ件

出入寄留又ハ復歸退去届ノ件調査方

出産寄留其他届出方

明治十九年十二月七日　知事訓令第三〇号

全　廿二年七月十日　警部長達第五一号

全　廿年九月二十日　西大寺署長伺

全　年十月十五日　古町分署長伺

全　廿四年六月十八日　金川署長ヘ指令

全　廿九年六月廿二日　警部長達保第一八九三号

（参照）全　十九年九月廿八日　内務省令第一九号

○知事訓令第三十號　十九年十二月七日　郡區長戸長

本年（九月）内務省令第十九號解釋方ノ儀ニ付其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之左ノ通心得ヘシ

一　全第三條失踪者トハ逃亡失踪ノ別ナク行方不知者ヲ總稱スル

一　全第四條身分變換トハ華士族平民ノ身分ヲ云フ

一全第五條親族トハ家族ナモ包含ス又異籍ノ親族ニ於テモ戸主ニ限ラサルモノトス但現ニ其事ヲ扱ヒタル者ニアラサレハ違犯者トスル限ニアラス

一全條現ニ其事ヲ扱ヒタル親族數人アルカ又ハ關係人數名アル場合ニ於テハ皆共ニ違犯者トシ處分スヘキモノトス

一全條及第六條全時トハ必シモ全一時限ヲ云フニ非ラス

一全第六條ハ他府縣又ハ他郡區ヨリ寄留者其寄留郡區内ニ於テ轉寄留シタルトキハ勿論其寄留町村内ニ於テ轉寄留シタルトキモ届出ヘキモノトス

一全條本籍地戸長ヘノ届書ト同樣寄留者ト地主又ハ家主又ハ管理者ヨリ爲スヘキモノトス

一全省訓令第二十三號ニ依リ現ニ出入寄留ノ記載アル者ヲ取調フルニ當リ若シ已ニ寄留地ヲ去リ又ハ本籍地ニ復歸シテ其届出ヲ爲サヽル者アルモ省令第十九號施行以前ニ係ルモノハ全令第九條ニ據リ處分スヘキ限ニアラス

○警部長達第五一號　廿二年七月十日

内務大臣ヨリ別紙之通訓令相成候條此旨心得ラルヘシ

右通達ス

（別紙）

訓第五一七号

警察署長　警察分署長

岡山縣

刑法第四百二十七條第十及明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條ノ違犯者ヲ明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ニ據リ即決シ其裁判確定シタル時ハ憲兵隊分隊又ハ警察署分署ヨリ其都度犯人本籍地ノ市役所町村役場ヘ通知スヘシ

右訓令ス

明治二十二年七月二日

内務大臣伯爵　松方正義

○西大寺警察署長ヨリ警部長ヘ伺　廿二年九月二十日

他郡ヨリ部内ニ寄留シ數月間ヲ經過スルニ其届書ヲ爲サル者ハ明治十九年内務省令第十九号第六條ニ違犯スルヲ以テ全第九條ニヨリ處分スルハ勿論ナリトス然ルニ一家族ノ者數名寄留スルトキハ戸主而已ヲ處分スルニ止メ家族ハ不問ニ措ク者ト思料スルモ非戸主ニシテ一家族ノモノ數名寄留スルトキハ各自處分スヘキ者ナルヤ玆ニ疑團ヲ生シ目下指掛タル事件有之伺出候條至急何分ノ御指揮ヲ仰候也

（指令）　廿二年九月二十一日

非戸主無届寄留處分方請訓之件ハ意見ノ通リ

○古町分署長ヨリ警部長ヘ伺　二十二年十月十五日

出産届ヲ怠リタル者アリ然ルニ戸主犯罪年十二年未滿ナルトキハ其罪ヲ問ハスト雖モ戸主幼少ナルニ依リ曾テ後見人アルトキハ其後見人ヲ處分スル儀ニ候哉疑義ヲ生シ差掛リタル件有之候條折返何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

（指令）　廿二年十月十八日

諸訓ノ件見解ノ通心得ラルヘシ

○金川警察署長ヘ純粋ナル行政事件ニ付郡衙ヨリ探偵方照會ノ場合取扱方ノ儀ニ付前指令ヲ取消シ更ニ左ノ通リ指令セラル　廿四年六月十八日

警指第三五号

明治廿三年五月七日指令警第二八四号ハ取消シ更ラニ左ノ通リ心得ラルヘシ

伺之趣照會ニ應スヘキ義務アルモノトス

（參照）

金第五五四号　廿三年五月四日

愛ニ津高郡加茂村大字下加茂片山景賢長男片山謹一郎ナル者累代ノ文字相用ヒ「景明」ト改名致度旨ヲ以テ同家開祖以來ノ名稱書相添ヘ津高郡長ヘ出願セリ依テ右ノ事實探偵ノ儀仝衙ヨリ照會有之然ルニ改名ノ儀ハ純粋ナル行政事件ニ付累代ノ通字ヲ用フルト否トニ拘ハラス警察官吏ヲシテ實否探偵ヲ要スヘキ限リニ無之就テハ勿論該照會ニ應スヘキモノニ無之ト見認メ候條果シテ愚見ノ通リ取計可然哉此段相伺候也

指令警第二八四号　廿三年五月七日

明治廿三年五月四日金第五五四号伺出ノ通心得ラルヘシ

○警部長達保第一八九三號　廿九年六月廿二日

本年六月當縣訓令乙第二十一號ヲ以テ戸籍取扱細則中寄留ニ關スル届書取扱方改正ニ就テハ戸籍整理上出入寄留又ハ復歸退去届出ノ件ニ付所轄町村長ヨリ調査方囑托來リ候場合ハ之ニ應シ相當調査ヲ遂ケ回答スヘキ儀ト心得ラルヘシ

（各署長宛）

（參照）

訓令乙第貳拾壹號

明治二十年（九月）當縣達乙第七拾三号戸籍取扱細則中左之通改正ス

明治二十九年六月十五日

岡山縣知事河野忠三

第五十五條　明治十九年（九月）内務省令第十九号ニ依ル寄留届及寄留者退去復歸届書等ハ左ノ如ク取扱フヘシ

一　入寄留届書ヲ受領シタルトキハ市町村長ハ戸籍取扱手續第二十條ノ手續ヲ了シタル後其届書ニ朱ニテ「明治何年何月何日登記濟」ノ旨ヲ記入シ其職印ヲ押捺シ直ニ之ヲ寄留人本籍地ノ市町村長ニ送附スヘシ

二　出寄留届書ヲ受領シタルトキハ市町村長ハ戸籍取扱手續第二十三條ノ手續ヲ了シタル後前項寄留地ヨリ發送ノ届書到達スヘキ日數ヲ經タルモ猶到達セサルトキハ其出寄留届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ之ヲ入寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ

三　寄留者復歸届書ヲ受領シタルトキハ市町村長ハ戸籍取扱手續第二十四條ノ手續ヲ了シタル後其届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ直ニ之ヲ其元入寄留地市町村長ニ送付スヘシ

第五十六條　入寄留届書、出寄留届書、寄留者退去届書、及寄留者復歸届書ハ類聚編綴スヘシ但戸籍取扱手續第二十二條ニ依リ除帳簿ニ移スヘキ書類ハ「他府縣」「他郡市」「郡内他町村」ノ三種ニ分綴スヘシ

廿九年十一月内務省令第十一号ニ第十ノ第六條改正第九條追加

○内務省令第十九號　　十九年九月二十八日

明治四年四月四日布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年(一月)第四號布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條　出産アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第二條　死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ベシ

第三條　失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第四條　廢戸主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第五條　前數條ニ記載シタル事項ハ戸主ヨリ届出ヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ親屬二人以上又ハ其事ニ關係ナル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアルトキハ現在地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ

第六條　他府縣又ハ他郡市區他町村ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者及ヒ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ

第七條　寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第八條　寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條　外國ニ渡航スルトキハ戸主又ハ本人ヨリ出發前ニ届出歸朝シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第十條　正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十篇

第一章　俸給旅費及諸給與

第一節　俸給

明治廿三年五月二十一日	知事訓令甲第二九号	地方費ヨリ支給スル俸給支給規則
仝　廿九年二月十五日	警部長訓令警第三一〇号	水火夫日給規程
（参照）明治十九年十月	内務省令第二三号	巡査看守俸給支給規則
仝　廿四年七月	勅令第一二〇号	地方高等官俸給令
仝　年仝月廿四日	仝第八三号	判任官俸給令
仝　卅年七月十八日	仝第一四九号	巡査俸給例
仝　廿五年十二月	大藏省令第一一号	文官俸給支給細則
仝　廿六年十月	勅令第一八二号	地方廳判任官俸給額ニ關スル件

○知事訓令甲第二十九號　　二十三年五月二十一日　　各部課

地方費ヨリ支給スル俸給支給規則（郡書記巡査看守ヲ除ク）本年五月ヨリ左ノ通改正ス

第一條　年俸ハ十二分シ毎月之ヲ給ス

第二條　年俸月給ハ毎月二十一日支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

第三條　俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第四條　他ヘ轉任ノ時ハ第二條ノ支給日ニ拘ハラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸給ヲ支給ス

第五條　廢官退官解雇又ハ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給ヲ支給ス但雇員ハ請願ニ依リ免スルモノハ事務ヲ終リタル日マテ日割ヲ以テ支給スルモノトス廢官退官ノ者ニシテ殘務調理スル爲メ翌月以降ニ渉ルトキハ調理結了ノ日迄日割ヲ以テ從前ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第六條　病氣（轉地療養トモ）ニ由リ執務セサルコト奏任判任ノ待遇ヲ受クル學校職員ハ九十日雇員ハ六十日ヲ踰ユルモノハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス

第七條　前條ノ外私事ノ故障ニ由テ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス

第八條　第六條ノ場合ト第七條ノ場合ト相續キ起ルトキハ其日數ハ總テ前後ヲ通算ス但第七條ノ期限ヲ過キ已ニ減俸ノモノ第六條ニ移スモ本俸ニ復セス

第九條　賜暇忌引ノ場合ト第六條若クハ第七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇忌引ノ日數ヲ扣除ス第六條若クハ第七條ノ期限ヲ過キ已ニ減俸ノモノ賜暇忌引ニ連續シ其賜暇忌明後直チニ出勤スルモノハ該賜暇忌引ノ日ヨリ本俸ヲ支給スルモノトス但賜暇忌明ヲ過キ尚ホ出勤セサルモノハ總テ減俸ノ半額ヲ支給ス

第十條　減給其他ノ事故ニ由リ俸給過渡アルトキハ其際追徴スヘキモノトス

第十一條　日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル但シ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

第十二條　當分雇幷ニ押丁給仕小使ノ類ハ總テ日給トシ翌月二日其一時限リ雇入ノモノハ事務終結ノ當日又ハ翌日支給ス但休日ニ當ルトキハ繰上トス

第十三條　日給ノモノハ總テ祭日祝日日曜日ノ休暇ハ之ヲ支給シ病氣忌引其他不參ノ日ハ總テ支給セサルモノトス但休暇日前後共出勤セサルモノ及臨時寫字生筆生等ハ休暇日ニ當ル日給ヲ給セス

附　則

第十四條　月額又ハ年額ヲ以テ支給スル諸手當（縣會常置委員ヲ除ク）ノ類ハ本則ノ各條ヲ準用ス但シ請願ニ依リ解職スルモノハ第五條第一項但書ニ依ル

○警部長訓令警第三一〇号　廿九年二月十五日

岡山水上警察署

明治廿八年（三月）廳達第二十一号水火夫日給支給規程今般廢止相成候ニ付テハ自今豫算範圍内ニテ左ノ區別ニ依リ水火夫採用具申セラルヘシ

一　水夫日給ハ左ノ區別ヲ付スヘシ

一等給金二十三錢
二等給金二十一錢
三等給金十九錢

（參照）

一　水夫長及火夫給ハ金二十四錢以上參十五錢以下トス

○內務省令第二十三號　十九年十月

廳府縣
集治監
假留監

巡查看守俸給支給規則左ノ通相定ム

但來十一月一日ヨリ施行スヘシ

巡查看守俸給支給規則

第一條　巡查看守ノ月俸ハ每月末日ヲ以テ支給ノ定日トス但休日ニ當ルトキハ繰上ケトス

第二條　（巡查俸給令ニ依リ消滅）

第三條　免職ノ時ハ當月分ノ俸給日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條　願濟休暇旅行ノ者及私事ノ故障（自己ノ病氣ヲ除　ニ由リ出署セサルモノ日數二十日後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スル者トス

第五條　豫備及後備軍籍ニアル者召集ノ節其出發ノ日ヨリ歸署ノ前日迄ハ俸給ヲ支給セス

第六條　右ニ揭クル者ノ外ハ判任官俸給支給細則ニ依ル

○勅令第百二十號　二十四年七月

朕茲ニ地方高等官俸給令ヲ裁可ス

地方高等官俸給令

第一條　府縣知事、書記官、警部長、收稅長及典獄ノ年俸左ノ如シ

東京府知事四千圓						
京都府知事、大坂府知事、神奈川縣知事、兵庫縣知事、長崎縣知事、新潟縣知事、愛知縣知事、宮城縣知事、廣島縣知事、熊本縣知事、參千五百圓其他ノ縣知事參千圓						
三府及神奈川縣、兵庫縣、長崎縣、新潟、愛知、宮城、廣島、熊本ノ八縣						其他ノ諸縣
書記官	貳千圓					千五百圓
警部長	千四百圓					千百圓
收稅長	千四百圓					千百圓
典獄	八百圓					六百圓

第二條　東京府書記官ハ特ニ年俸貳千貳百圓ヲ給スルコトヲ得

大坂府警部長ハ特ニ年俸千八百圓ヲ給スルコトヲ得

大坂府典獄ハ特ニ年俸千圓ヲ給スルコトヲ得

第三條　參事官ノ年俸ハ千圓トス但九百圓又ハ八百圓ヲ給スルコトアルヘシ

第四條　郡長ノ年俸ハ六百圓トス

內務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡ノ郡長ハ年俸八百圓ヲ給ス但其人員ハ二百人以內トス

第五條　島司ノ年俸ハ千貳圓トス

附則

第六條　本令ハ明治廿四年八月十六日ヨリ施行ス

明治廿三年勅令第貳百二十六號地方官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○勅令第八十三号　　廿四年七月二十四日

朕茲ニ判任官俸給令ヲ裁可ス

判任官俸給令

第一條　判任文官ノ月俸ヲ別テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

第二條　陸海軍准士官下士ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第三條　判任官ハ毎級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス

第四條　判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務熟練優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス漸次七拾五圓マテ增俸スルコトアルヘシ

第五條　官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ

第六條　前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官任命及俸給令第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條ノ例ニ依ル

第七條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第八條　本令ハ明治廿四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第三十六号判任官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別　表）

一級六拾圓	三級四拾五圓	五級三拾五圓	七級貳拾五圓
二級五拾圓	四級四拾圓	六級三拾圓	八級貳拾圓
			九級拾五圓
			十級拾貳圓

○勅令第百四十九號　　三十年五月十八日

巡査看守俸給令

第一條　巡査看守ノ月俸左ノ如シ

一級	十五圓
二級	十四圓
三級	十三圓
四級	十二圓
五級	十一圓
六級	十圓
七級	九圓

第二條　巡査看守ニ任命セラルル者ノ月俸ハ六級以下トス

判任官以上ノ官職ニ在リタル者及巡査又ハ看守ノ精勤證書ヲ有スル者ニシテ巡査看守ニ任命セラルルトキハ前項ヲ適用セス但シ前職ノ月俸ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　巡査看守ニシテ五級以上ノ月俸ヲ受クル者ハ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ昇級スルコトヲ得ス但シ巡査部長看守部長ニ拔擢セラルル者ハ此ノ限ニアラス

第四條　刑事專務又ハ通辯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル者ハ第二條第三條ヲ適用セス

第五條　教習中ノ巡査看守ノ月俸ハ六圓乃至八圓トス

第六條　月俸ハ新任昇級降級復職トモ發令ノ翌日ヨリ計算シ退職ノ月ハ日割ヲ以テ計算ス廢廳若ハ事務ノ伸縮ニ因リ免職シタルトキ又ハ休職死亡ノトキハ當月分ノ全額ヲ給ス休職當月復職スルトキハ其ノ月ノ俸給ハ更ニ支給セス

第七條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニアラス

附　則

第八條　本令ハ地方ノ狀況ニ依リ明治三十一年三月三十一日迄其ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

第九條　明治二十三年勅令第二百二十八號中第四號明治二十四年勅令第百六十九號及明治二十六年勅令第百十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條　本令ハ北海道ニ適用セス

○大藏省令第十一號　廿五年十二月

文官俸給支給細則左之通リ相定メ明治廿六年一月一日ヨリ施行ス

但明治廿三年當省令第十号ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條　高等文官及判任文官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

毎月廿一日	外務省及其所管經費ニ關スル官廳、內務省及其所管ノ經費ニ屬スル官廳、大藏省及其所管經費ニ屬スル官廳、
毎月廿二日	陸軍省及其所管ニ屬スル官廳、海軍省及其所管ノ經費ニ屬スル官廳、司法省及其所管ノ經費ニ屬スル官廳、
毎月廿三日	文部省及其所管ノ經費ニ屬スル官廳、農商務省及其所管ノ經費ニ屬スル官廳、

第二條　非職廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ支給スルモノトス

高等官官等俸給令第十七條ニ依リ殘務調理ヲ命セラレタル者其調理翌月以降ニ渉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理結了ノ日迄ヲ其際支給ス

第三條　轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トス翌日以降ノ分ハ乙廳ニ於テ支給スルモノトス

第四條　他廳ヘ轉任シタル者ハ第一條ノ支給日ニ拘ハラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第五條　他廳ヘ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徵スヘシ

第六條　俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任廳ニ於テ其殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第七條　高等官官等俸給令第十八條ニ依リ減給ノ者非職廢官退官退職及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スル者トス

第八條　傷痍忌引若クハ特旨休暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ闕勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス

第九條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スル時ハ之ヲ切リ捨ツルモノトス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

○勅令第百八十二號　二十六年十月

朕帝視廳北海道廳府縣及集治監判任官俸給額ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳、北海道廳、府縣（島廳郡區ヲ包含ス）及集治監判任官ニハ判任官俸給令中別表ニ掲クル最低額以下六

圓迄ノ月俸ヲ給スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ明治廿六年十一月十日ヨリ施行ス

明治廿四年勅令第百六十号ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十篇

第一章

第二節　旅費

明治十九年一月二十二日	知事達廳第一七号	旅費前渡請求方ノ件
仝　年七月廿七日	仝　警第四七号	旅費支給ニ付心得方ノ件
仝　年七月三十日	仝　警第四九号	車馬賃實費支給ノ件
仝　廿一年七月三十一日	知事達警第二一号	警部持區内出張巡回日當月額支給方
仝　日	警部長達第一一一号	管内出張ノ節ハ認可ヲ得ヘキ件
仝　年八月七日	倉敷署長伺	持區内遠路出張ニシテ多額ノ實費ヲ要スルトキ支給方
仝　年九月一日	警部長達第一二六号	警察官非常演習召集旅費支給方
仝　廿二年十二月十八日	仝　第八三号	警部持區内出張巡回日當月額日割支給ノ件
仝　廿三年四月十八日	知事達警第九号	巡査備員旅費決算証
仝　年三月廿八日	仝　廳第一四号	各部課旅費決算証

明治廿三年十一月五日	全	廳第三八号
全　年十一月廿九日	警部長達	第五六号
全三十年三月九日	知事訓令	甲第五号
全　廿七年三月十九日	全	警第一一号
全廿九年四月十日	警務課長通牒	警第六八二号
全廿七年四月四日	警務課長通知	警第八九四号
全　廿九年十一月廿日	警部長訓示	警第一九一七号
全　廿九年二月十五日	坪井署長	問合
（参照）全十九年六月	閣令	第一四号
全　年六月	大藏省訓令	第二三号
全　年六　月	内務省令	第一一号
全二十年四　月	全省訓令	第二五号

旅費支給ニ付郡役所迄ノ里程

全上警察署分署迄ノ里程

地方費ヨリ支給スル旅費支給額規程

水上警察署巡査水夫日當支給方

國庫旅費支辨ヲ受クル者汽車賃支給方

刑事証人トシテ裁判所ニ出頭シタル巡査旅費支給方

全　上

四人直送巡査旅費支給方ノ件

内國旅費規則

内國旅費規則心得方

警察官吏其他内國旅費規則

警察官吏持區内巡回日當給與方

明治廿一年二月	内務省訓令	第二号
全廿二年四月	閣令	第一四号
全　年六月	内務省訓令	第二四号
全　年十一月八日	警保局長通知	警第一一七号
全廿六年五月四日	内務書記官	通牒
全廿八年四月	山梨縣知事ヨリ内務省庶務局長ヘ照會	

公務ニテ往復スル警察官吏汽車賃支給方

官船ニ乘込出張スル節食卓料支給方

警察官吏官船ニ乘込出張ノ節食卓料支給方

警察官吏日當月額支給方ノ件

官吏職務上刑事被告人トナリタル節旅費俸給支給方

○知事達廳第十七號　　十九年一月廿二日　　各課署（收税課ヲ除ク）

旅費人足賃前借幷人足使用方共左之通順序相定ム

但從前之達等ハ相廢ス

一旅費前借ハ出張里程巡回見積日數ニ應シ請求スヘキト雖モ日當三十日分以上ノ金額ヲ一時請求スルヲ許サス

但三十日以上ニ渉ル事務ニテ差支派出先ニ於テ送付シテ要スル時ハ其請取ルヘキ場所ヲ定メ（管内ハ郡役所）請求スヘシ

一測量器機其他重量ノ器具及書類多量ニシテ携帯シカタキモノ、外人足使用ヲ許サス尤其使用ヲ要スル時々詳細取調伺出凡見積ヲ以テ請求スヘシ

一派出先ニ於テ臨時旅費飛脚等ヲ要スル時ハ之ヲ處辨シ歸廳之上詳細具申且請求スヘシ

一渾テ前借金ハ必歸廳後三日限過不足決算致スヘシ

右相達候事

○知事達警第四十七號　十九年七月廿七日

警察本署
警察署
警察分署

閣令第十四号及内務省令第十一號ヲ以テ内國旅費規則相定メラレタルニ付左ノ通心得ヘシ

一警部長警察署長警察分署長ハ旅行ヲ命スルトキ其筋旅行日數ヲ定ムヘシ

一前項陸路難易ニ依リ一定セスト雖トモ凡十五里ヲ以テ一日路ノ定度トシ實地其日數ニ超過スル時ハ其理由ヲ証明セシメ（疾病ハ醫師ノ診斷書川留雪支風波ノ爲メ滯港等ハ日長ノ証書ヲ徴ス）無止ト見認ムル時又ハ定メタル日數以内ニ旅行スルモ日當ハ渾テ現日數ニ依ルヘシ

但各地兼行ノ如キハ本文定度ニ拘ハラス事務ノ緩急ニ依リ定ムルモノトス

○知事達警第四十九號　十九年七月卅日

警察本署

今般内國旅費定メラレ候ニ付テハ警察署及分署在勤警部以下至急ノ派出ヲ要シ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辨シ難シト見認ルトキ又ハ官ニ於テ舟車馬ノ借入備入等ヲ爲シタルトキハ警察署長ノ見込ヲ以テ臨時實費拂ヲ許可スヘシ

○知事達警第貳拾壹号　廿一年七月卅一日

警部警部補持區内出張巡回日當月額支給方左ノ通相定メ本年八月一日ヨリ支給ス

但月額金請求方ハ別紙雛形ニ依リ一ケ月分調製翌月三日迄ニ請求スヘシ

一警察署分署在勤警部警部補持區内出張巡回日當月額金左ノ如シ

警察署
何警察署長　月額金
何分署長　仝上
西大寺、味野、片山、玉島、笠岡、高梁、倉敷、津山、ノ八ケ所ヘハ

分署ヘハ
何分署長　月額金
新任轉免轉署又ハ死亡等ニ依リ給額ニ變更ヲ生シ或ハ給與止メタルトキハ日割ヲ以テ支給ス

一　病氣引籠（職務上負傷及傳染病ニ罹リタル場合トモ）又ハ忌引ノ時ハ日數七日迄ハ全額ヲ給シ八日以上ニ及フ時ハ日割ヲ以テ支給ス

一　賜暇及管内外出張ノ時ハ其日數ヲ除キ日割ヲ以テ支給ス

一　持區内出張巡回等ニシテ急行ヲ要スルトキト雖モ實費車馬賃ヲ支給セス

一　分署長本屬警察署ニ出張ヲ要スルモ別ニ旅費ヲ支給セス

一　警察署長ニシテ所屬分署巡視ノ外特ニ命ヲ受ケ分署所轄内ヘ出張スルトキハ持區外トシテ旅費ヲ支給ス

一　警察署在勤警部ニシテ特ニ命ヲ受ケ所屬分署所轄内ヘ出張スルトキハ持區外トシテ旅費ヲ給ス

一　警察署長及分署長ニシテ他ノ署長兼務ノ場合ハ兼務ノ署ニ於テハ其月額半額ヲ支給ス

雛形（用紙半紙）

明治何年何月分持區内巡回日當月額証

月額金何程

一金　何程

右（請求候也）（受領候也）

年　月　日

何警察署長（何分署長）（何警察署在勤）

會計主務官姓名殿

官　姓　名　印

日割減額アルトキハ左ノ書式ニ據リ餘白ヘ記載スヘシ

一　何月何日何署ヨリ移轉ニ付何日ヨリ何日迄

一　何月何日何署ヘ移轉ニ付何日迄

一　何月何日迄

右者概略ヲ示シタル者ニ付其　事故アル毎ニ詳細記入スヘシ

備　考

日割計算方ハ支給スヘキ日數ニ月額金ヲ乘シ之レヲ其月ノ全日數ニテ除シ金員ヲ得ル証書ハ請求書壹通受領証壹通差出スヘシ（送金ヲ要スル署ハ受領証書ニ代フルニ請求書貳通トス）

一　何月何日ヨリ何日迄賜暇（管内外出張）

一　何月何日ヨリ何日迄病氣引籠リ（忌引）ニ付何日ヨリ八日以上ニ及フ日數　何日

右者概略ヲ示シタル者ニ付其　事故アル毎ニ詳細記入スヘシ

備　考

日割計算方ハ支給スヘキ日數ニ月額金ヲ乘シ之レヲ其月ノ全日數ニテ除シ金員ヲ得ル証書ハ請求書壹通受領証壹通差出スヘシ（送金ヲ要スル署ハ受領証書ニ代フルニ請求書貳通トス）

○警部長第一一一號　　廿一年七月三十一日

警　察　署
警　察　分　署

今般警察署分署在勤警部警部補持區内出張巡廻日當月額支給方被定本年八月一日ヨリ施行可相成筈ニ付爾後管内旅費據算定額相達セス候條總テ管内出張ヲ要スル節ハ見積日數記載前以テ認可ヲ得テ出張スヘシ

右相達ス

○倉敷警察署長ヨリ警部長ヘ伺　　廿一年八月七日

今般達第貳拾壹号ヲ以テ警部警部補持區内巡回日當月額支給方被定其御達中持區内出張巡回ニシテ急行ヲ要スルトキト雖モ實費車馬賃ヲ支給セストアリ之右者非常ノ水火又ハ水論等ヲ生シ虎列剌患者ノ報告ヲ受ケタル節ハ晝夜ヲ論セス即時出張致候ヘハ勿論其遠路ニ於テハ多額ノ實費ヲ要スル場合ト雖モ一切御支給不相成儀ト心得可然哉

（指令）　廿一年八月十日

伺之通リ

○警部長達第一二六号　廿一年九月一日

本年六月達警第十五号ヲ以テ警察官非常召集規則被達候處演習ノ爲メ召集スル場合ニ限リ總テ普通ノ旅費（實費車馬賃支給セス）支給スル儀ト心得ラルベシ

○警部長訓令第八三号　廿二年十二月十八日

警察署
警察分署

明治廿一年七月達警第二十一号警部持區内出張巡回日當月額支給方達書中第三項病氣引込リ又ハ忌引ノ時ハ日數七日迄ハ全額ヲ給シ八日以上ニ及フ時ハ日割ヲ以テ支給ストアルハ自今賜暇管内外旅行病氣引又ハ忌引トモ引續キ八日以上ニ及フ時ハ其欠勤日數ヲ扣除シ殘日數ニ對シ日割支給スヘキ儀ト心得ラルヘシ

○知事達警第九号　廿三年四月十八日

警察本部　警察署
警察分署　巡査教習所

巡査及傭員旅費決算証書幷概算領收証書トモ別紙ノ通改正シ本年五月一日ヨリ施行ス

課署所長檢印○　主計取扱人印○

爲御用　國　郡　村

月　日出立

一金　此譯

旅費概算證書

滊車賃	滊船賃	車馬賃	日當	巡視增日當
哩	海里	里	日	日
金	金	金	金	金

前書之通旅費概算請求（領收）候也

明治　年　月　日　巡査（傭）　何　某印

警察本部
何警察署及分署　御中
巡査教習所

課署所長檢印○　主計取扱人印○

旅費決算證

御用柄ノ名稱

一金

前借高	金
決算高	金

右　候也

受領返納決算月日　正當受領者又ハ代理者官姓名印

明治　年　月　日

内譯左記ノ如シ

年月日	發着經過ノ地名又ハ事由	宿泊場所	滊車賃	滊船賃	車馬賃	日當	巡視日當	月額

旅費請求及決算ノ凡例

一　管内外出張ノ命ヲ受ケタルトキハ管内ハ三日管外ハ五日前ニ旅費概算渡ヲ請求スルコトヲ得

一　前條ニ依リ請求ナナストキハ概算領収証書ヲ差出シ受取ルモノトス

一　帰着後五日以内ニ決算証書ヲ製シ決算ノ手續ナナスベシ

一　概算渡金ニ對シ決算ナナストキハ前借高ト決算高トノ金員ヲ其欄内ヘ記入シ差額ヲ生スルトキハ其差額ヲ一打金ノ所ニ記入シ追給或ハ返納ノ手續ヲ爲スベシ

一　前借高ト決算高ト全額ナルトキハ兩欄内ニ全様ノ金額ヲ記入シ一打金ノ所ニハ〇ヲ附シ決算スベシ

一　至急ヲ要スル場合或ハ近傍出張等ニテ概算渡ヲ請求セサルトキハ決算証書ニ一打金額ノミヲ記入シ前借決算ノ両欄ヘ〇ヲ附シ請求スベシ

一　概算領収証書及決算証書ヲ差出シタルトキハ各課署所長ニ於テハ其証書ヲ篤ト調査シ検印ヲ押捺スベシ

一　車馬賃實費拂ノ許可ヲ得タルトキハ正當証書ヘ其課署所長ニ於テ必ズ其理由ヲ附シテ証明スベシ

○知事達廳第拾四號　　廿三年三月廿八日　　各部課（收税部ヲ除ク）

旅費決算證書及概算請求書別紙之通リ改正來ル四月一日ヨリ施行ス

但車馬賃實費拂ノ裁可ヲ受ケタル場合ニ於テハ其裁可書及領收證書ヲ添付シ請求スベシ

（書式前ニアリ略ス）

旅費請求決算ノ手續記入ノ例

第一項　管内外出張ノ命ヲ受ケタルトキハ管内ハ三日管外ハ五日前ニ請求概算渡ヲ要求スルコトヲ得

第二項　前項ニ由リ請求ナナストキハ全時ニ無印ノ領收證書ヲ差出置キ仕拂命令ヲ受取リタルトキ月日記入シ捺印スベシ

第三項　歸廳以後三日以内ニ決算證ヲ製シ決算ノ手續ナナスベシ

第四項　近方派出等ニテ前借ヲ要セサルモノハ決算証一打金額ノミヲ記入シ前借高ノ決算高ニ全數ナルモノハ兩畫共ニ全數ヲ記入シ一打金ニハ〇ヲ付記シ其差額アルモノハ其差額ヲ一打金ニ記入スベシ

第五項　前借ナキモノ及追給ヲ要スルモノハ決算証一通ヲ請求トシ第二項ニ準據スヘシ

第六項　返納ニ係ルモノハ決算証貳通ヲ製シ提出ノ際年月日ヲ記シ署名捺印スベシ但仕拂命令官ヨリ返納告知書ヲ交付セラレタルトキハ指定ノ金庫ニ現金ヲ拂込ミ別符付領收証ヲ得テ直ニ領收証ノ檢印及別符ノ切離ヲ仕拂命令官ニ請求スベシ

○警部長達第五六號　　廿三年十一月廿九日　　警察部警察署

明治廿一年（十月）第一四九號ヲ以テ相達シ候里程表改正相成候條來ル十二月一日ヨリ前表ニ依リ旅費支給スベシ

右相達ス　　警察分署巡査教習所

警察署	所属分署	警察署及分署ヨリ岡山ヘ里程	分署ヨリ警察署ヘ里程
岡山警察署			
西大寺警察署		弐里三拾三町	
	牛窓分署	七里	四里三町
味野警察署		七里四町	
	八濱分署	三里三拾三町	四里弐拾八町
金川警察署		五里	
町苅田警察署		五里四町	
片上警察署		六里弐拾九町	
玉島警察署		七里拾九町	
岡田警察署		五里三拾町	
笠岡警察署		拾弐里五町	
	矢掛分署	九里拾三町	四里拾八町
井原警察署		拾弐里廿八町	

眞金警察署			
新見警察署		弐里弐拾弐町	
高梁警察署		弐拾里拾五町	
下原警察署		拾壹里拾九町	
倉敷警察署		拾弐里拾五町	
津山警察署		四里弐拾六町	
桑原警察署		拾五里廿六町	
勝山警察署		弐拾里廿八町	
坪井警察署		拾八里卅四町	
弓削警察署		拾六里九町	
勝間田警察署		拾里三拾町	
廣戸市場警察署		拾五里拾八町	
英田警察署		拾八里拾弐町	
古町警察署		拾四里四町	
		弐拾壹里七町	

水上警察署

貳里壹町

沿道警察署分署里程

片上	六里廿九町	九里一町	十一里十九町	十四里十三町	十八里三十四町
岡山	二里八町	四里廿六町	七里十九町	十二里五町	
撫川	二里十八町	五里十一町	九里三十三町		
倉敷	三里九町	七里三十一町			
玉島	四里十一町				
笠岡					

沿道警察署分署里程

岡山	一里二町	二里二十二町	五里三十町	九里十三町
巖井	一里十九町	四里廿七町	八里十町	
眞金	三里八町	六里廿六町		
川邊	三里十八町			
矢掛				

沿道警察署分署里程

勝山	一里十四町	四里十五町	八里	十里三十五町	十二里十三町
久世	三里一町	六里廿一町	九里廿町	十里三十四町	
坪井	三里廿町	六里十九町	七里三十三町		
津山	二里卅四町	四里十三町			
勝間田	一里十四町				
英田					

沿道警察署分署里程

井村	一里拾町	十里六町	十九里四町
新見	八里卅二町	十七里廿九町	
高梁	八里三十三町		
眞金			

○知事訓令甲第五號　三十年三月九日

警察署
警察分署

地方費ヨリ支給スル旅費額明治三十年四月一日ヨリ左ノ通改正ス但奏任文官判任文官ト同一ノ待